

名	目	出品ノ縣名
西田川郡水産組合	組合事業成績	山形縣
小見川人工孵化事業	孵化事業成績	同
野澤人工孵化事業	孵化事業成績	同
米國虹鱒飼育事業	飼育事業成績	同
高木川人工孵化事業	孵化事業方法成績	同
日向川鱒人工孵化場	孵化場事業成績	同
柳本鱒人工孵化事業	孵化事業成績	同
新田川鱒蕃殖組合	蕃殖事業成績	福島縣
磯部村漁業組合	漁業事業成績	同
江名濱漁業組合	共同購入事業成績	同
飯岡浦漁業組合	經營事業成績	同
小袖濱漁業組合	經營事業成績	同
津輕石村漁業組合	經營事業成績	同
氣仙郡鮫刺網相護組合	經營事業成績	同
固形苦汁製造事業	製造事業成績	宮城縣

今審査ノ結果タル擬賞ノ數ヲ表示スレハ左ノ如シ

擬賞一覽表

縣名	出品		擬賞等級				出品人員ニ對スル擬賞ノ割合
	點數	人員	一等	二等	三等	四等	
宮城	一	一					一〇〇〇
福島	三	三					一〇〇〇
岩手	五	五			一		四〇〇〇
青森	一	一					四〇〇〇
秋田	七	七			一		四〇二九
山形	六	六					五〇六三
合計	一六	一六			四		

山形縣ノ西田川郡水産組合ハ現ニ鮭人工孵化事業及大羽鱒搾粕ノ検査ヲ施行シ其ノ成績見ルヘキモノアリ又漁船出入場ノ改良ヲ圖リ或ハ渡渡避難港ヲ修築シテ漁業者ノ便ヲ圖リ或ハ新潟郡ト岩船郡ノ間ニ於ケル漁場ノ紛争ヲ解決シ或ハ魚市場タル莊内水産會社トノ取引關係ヲ圓滿ニシテ漁業者ノ利便ヲ圖ルト同時ニ組合自身ノ財源ヲ鞏固ニシタルカ如キ組合當事者ノ勞多キヲ認メスンハアラス今後尙其ノ管内ノ水産業ノ發展ニ對シ一層ノ努力ヲ望ム

鮭鱒人工孵化事業ノ本聯合區域中最モ廣ク行ハル、所ハ山形縣ニシテ野澤鮭人工孵化場ノ如キ既ニ明治二十八年ヨリ創設セラレタルモノナリ爾來同縣下ニ在テハ之ヲ組合事業トシテ施設スルモノ増加シ

今ヤ約十箇所ノ多キニ達ス其ノ方法ハ「アトキンス」式ニ依ルモノニシテ規模ハ大ト謂フニアラサレトモ年々之ヲ經營シ且卵及稚魚ノ斃死數漸次減退ノ傾向ヲ示セルハ喜フヘキコトナリ而モ同縣下ノ出品カ孵化放流ノ結果漁況ニ如何ナル効果ヲ及ボシタルカヲ具體的ニ示セルモノナキハ遺憾トセサルヲ得ス福島縣相馬郡新田川新鮭蕃殖組合事業成績ノ如キハ其ノ規模遙ニ大ニシテ今ヤ二百萬粒ノ設計ヲ有シ且其ノ孵化放流ノ成績ニ於テモ好況ヲ示セルノミナラス漁況ニ於テモ多大ノ効果アリシヲ具體的ニ示セルハ多トスル所ナリ

漁業組合事業成績トシテハ五點ノ出品アリ福島縣相馬郡磯部村漁業組合ノ如キハ既ニ明治三十三年ヨリ漁獲物ノ共同販賣ヲ實施シ一割ノ口錢ヲ半額ニ減シテ漁民ノ利益ヲ圖リタルノミナラス尙其ノ剩餘金ヲ村費ノ内ニ寄附シテ更ニ住民ノ負擔ヲ輕減セルカ如キ眞ニ稱揚ノ價值アリ且時々水産講習會ヲ開催シテ水産業ノ發展ニ資シ或ハ漁具漁船ノ改良ヲ促シ或ハ共同購入ヲ行フ等其ノ施設着々効果ヲ收メツ、アルモノ、如シ然レトモ尙漁業發展上重大ノ關係ヲ有スル避難港ニ於テ未タ完成ヲ見ルニ至ラサルハ遺憾トスル所ナリ當事者一層ノ奮勵ヲ望ム

江名濱漁業組合共同購入事業ニ於テモ亦見ルヘキモノアリ其ノ出品ニ依ルニ同組合ノ共同購入ヲ開始シタルハ明治四十年ニシテ其ノ物品ノ主ナルモノハ發動機用ノ輕油、マシ油、石油、發動機附屬品船具漁具等ニシテ大正四年迄ノ購入價額七萬八千九百七十七圓ニ達シ大正四年ノ如キハ一ヶ年ニ三萬

九百二十圓ニ達セリ之カ購入ニ要スル運轉資金ハ組合ノ積立金及借入低利資金一萬圓ヲ以テ之ニ充テ組合ハ此等共同購入ニ依テ生スル手數料ヲ以テ經費及低利資金ノ年賦償却ニ充當シ斯クシテ償却シタルモノハ組合積立金ニ繰入ル、モノナリ而シテ此ノ法ニ依ル購入品ハ普通ノ小賣品ニ比シ約一割乃至二割安價ナリトコトナレハ漁民ニ與フル利益ハ實ニ尠カラスト謂フヘシ唯此種ノ事業ニ於テ注意ヲ要スルコトハ購入金ノ未納者ヲ生セサルヤノ點ナレトモ本組合ニ於テハ購入代金取立ノ方法トシテ共同販賣立替部ニ於テ船主ニ支拂フヘキ漁獲物鮮魚代金ノ中ヨリ之ヲ差引ク場合多キヲ以テ此ノ弊モ亦豫防シ得タルモノト見得ヘシ

岩手縣飯岡浦漁業組合ノ事業ハ救恤、共同販賣、共同購買、漁業資金資付、舊債整理貸付及漁業獎勵等ノ施設ヲ行フモノニシテ開始後日仍ホ淺キモ漁民ニ及ボス利益ノ尠カラサルハ喜フヘキコトナリ此外九戸郡小袖濱漁業組合ニ於テモ遭難救恤、共同販賣等ノ施設ヲ爲シ成績見ルヘキモノアリ

要スルニ近年水産組合又ハ漁業組合ノ施設當ヲ得サル爲動モスレハ無用視セラレントスルノ傾向アリ然ルニ本回ノ出品ヲ考查スルニ或ハ鮭鱈ノ蕃殖ヲ圖リテ利益ノ増進ニ努メ或ハ誘導機關トナリテ水産業ノ發展ニ貢獻シ或ハ産業組合ト同様共同販賣共同購入等ノ施設ヲ行ヒ漁村維持發達ニ力ヲ傾注スルモノ多シ是レ洵ニ喜フヘキ現象ニシテ是ニ於テ始メテ我水産業ノ完全ナル發展ヲ期シ得ヘキモノナレ

ハ組合當事者ハ今後尙一層奮勵シテ其ノ成績ノ發揚ニ力ヲ竭サムコトヲ切望セサルヲ得ス

第五部 染織工業品審査報告

審査官	吉田信一
同	吉岡直富
同	澁谷廣次
同	齋藤修

概説

本部ニ屬スル出品ニ就キ各其ノ類別ニ從ヒ較々詳密ナル論評ハ以下章ヲ逐フテ爲スヘキモ茲ニ全般ニ亘リ出品ノ概況並審査事務ニ關シ概説スヘシ

出品

小官等ノ擔任審査シタル出品物ハ第三十類ヨリ第三十六類ニ至ル七類ニ屬シ各類ヲ通シテ其ノ出品點數三、七三五ニシテ人員一、〇一〇ナリ今之ヲ聯合縣ト類トニ分チ統計スルトキハ左表ノ如シ

第五部染織工業品類別及府縣別出品統計表

類別	品名	府縣別							計						
		宮城	福島	巖手	青森	秋田	山形	形							
三〇	幅廣織物	九	三	六九	三〇	一	一	一	九						
三一	絹織物	七三	一六	一三四	九	一七	七	一	一八						
三二	綿、麻、毛及交織物	一六四	三二	一七二	四	三五	八	一三八	二五						
三三	染物	九	一六	一七	五	五	一	一	一						
三四	糸編物系組物	二四	三	九	二	五	一	一	一						
三五	器具機械圖案	一	一	一	一	一	一	一	一						
三六	方法成績	一	一	一	一	一	一	一	一						
計		三六〇	六九	五二	二七	四三	一九	一六	三	四八	八四	一八六	四九	三七五	一〇一〇

上表ニ示ス如ク本部ニ屬スル出品中最モ多キハ點數ニ於テ一、六二〇ノ綿、麻、毛、交織物ニシテ人員ニ於テハ絹織物ノ四三二ナリ

又聯合縣中最モ出品多カリシハ主催縣タル山形縣ニシテ全體ノ約半分ヲ占メ福島、巖手各々之ニ次キ青森縣最モ少ナシ、之ヲ前回ノ群馬縣主催一府十四縣聯合共進會ニ於ケル東北聯合縣ノ總出陳數(點數三、三〇五、人員七九六)ニ比シ前回ハ開催地ノ遠隔セル爲出品ニ不便ナリシト出品ノ製造ノ際或ハ荷物運搬ノ期節ニ當リ各縣共水害ヲ蒙リシト秋田縣ノ加入ナカリシ當時ニ比スルモ僅ニ出品點數四三〇人員二〇四ノ増加ニ過キス更ニ之ヲ前々回ノ福島縣開催當時ノ點數三九九四、人員一、〇六七ニ比スレハ點數二五九、人員五七ノ減少ナリ

出品點數及人員ノ多少ハ直接ニ共進會ノ價值ヲ高低スルモノニアラスト雖開設地ニ對スル商業及社會關係開設シタル時期ニ於ケル市況ノ振否聯合府縣出品獎勵ノ度合等ニ依リテ或ハ多ク或ハ寡ク其ノ結果共進會ノ本體ニマテ影響ヲ及ホスコトナキニアラス若シ夫レ今回ノ出品如何ヲ顧ミレハ前述ノ如ク多大ノ増加ナク寧ロ減退ノ傾向ニアリ吾人ハ此ノ比較對照ヲ觀テ漫然ニ看過シ能ハサルモノアリ其ノ故何ソヤ

東北ノ染織業ハ本邦各府縣ニ於ケルカ如ク他ノ工業ニ比シ一頭地ヲ拔クノ生産業タリ左レト其ノ製産額タルヤ統計ニ表ハレタル所ニ於テ僅ニ一ケ年千萬圓ニ滿タス(實際ハ千四百五十萬圓ナランカ)織物ノ產地トシテ一府縣又ハ一產地ノ額ニモ達セサルモノアリ

更ニ之カ増進ノ傾向ヲ示スヘク前回及前々回ノ共進會ノ前年ニ於ケル製産額ヲ比較對照スレハ(農商務統計ニ依ル)左ノ如シ

	東北六縣織物製産額	增加率	全國織物製産額	增加率
明治四十年	九、六〇六、九六三 ^四	一〇〇	二四八、五五三、一四四 ^四	一〇〇
同四十二年	九、九八五、九〇三	一〇四	二六三、二八二、一四三	一〇六
大正三年	九、七八二、一九三	一〇二	三二六、四六五、二二四	一三一

即チ全國ノ産額ハ三割一分増加セル間ニ東北ハ僅ニ二分(前回ヨリハ二分ノ減少)ノ増加ヲ示セルニ過キサルヲ見ル今回出品ノ貧弱ナルニハ地理或ハ時期ノ適否市況ノ振否或ハ出品ノ獎勵ノ度合以外更ニ之カ原因タルモノアルニ非サルカ、東北ノ染織業カ幾分ノ進歩ヲ示セルニ相違ナキモ前表ニ於テ又他ノ事情ニ於テ其ノ進歩ノ遅々タルコトヲ示セルハ甚タ遺憾トスル所ナリ但シ共進會總點數三〇・五六四、人員一九・四一一中本部ニ屬スル出品ハ點數一割二分、人員五分一厘ニシテ他ノ工業品ニ比シ計數上ノ優位ヲ占ムルコトハ依然トシテ從前ト異ナラス

出品ノ陳列ハ主催縣ニ於テ陳列箱ヲ負擔シ箱ノ内外ノ裝飾ヲ制限セルハ各縣ノ意ニ任セテ虚飾亂雜ニ流レシメタルニ勝リ共進會ヲ眞面目タラシムルモノト稱スヘキモ稍殺風景ノ觀ナキニアラス觀覽者ニ快感ヲ與フヘキ程度ニ於テ多少ノ裝飾ヲ爲スノ要アラサルカ箱中ノ陳列ニ付テモ唯一ニ觀覽者ノ足ヲ止ムルモノアリシモ概シテ單順ニ並列シテ地方物産ヲ紹介スルノ注意ヲ缺キ一般觀覽者ヲシテ倦怠セシメ何等ノ印象ヲモ與ヘス觀覽者並出品者ノ希望ヲ満足セシメ共進會ノ目的ノ一部ヲ等閑ニ附セシハ陳列上ノ一缺點ト稱セサルヲ得ス

出品ニ付尙一言附記シ置クヲ要スルモノアリ巖手縣ノ出品者十餘人カ同一工場ノ同一製品ヲ出品セルハ只徒ニ出品點數ヲ多カラシメンカ爲ナルカ而モ各其ノ解説書ニ於テ同一事項ヲ謄寫シオレリ實ニ其ノ何ノ意タルヤヲ解スルニ苦シムモノナリ又福島縣ノ一大工場ニシテ曾テ共進會或ハ博覽會ニ於テ優

賞ヲ得タル經歷アル者ナルニ數ケ月前ノ製造ニ係ル古物ヲ出品セルカ如キ共ニ共進會ノ出品トシテ誠意ヲ缺クモノト謂フヘシ斯ノ如キ出品ハ寧ロ出品セサルラムコトヲ望ム

審査

審査ノ事務ハ九月二十五日ヲ以テ開始シ左記日程ノ如ク十月七日現品鑑定ヲ結了シ直ニ業況調査ニ着手シ十月十八日ヲ以テ全部ノ擬賞ヲ終了セリ

審査日程

- 九月二十五日 準備
- 九月二十六日 準備
- 同 二十七日 山形縣絹織物中ノ米澤物
- 同 二十八日 宮城縣、秋田縣、巖手縣、青森縣、山形縣(米澤物以外)ノ生織物ヲ除キタル絹織物
- 同 二十九日 幅廣織物全部及福島縣絹織物及各縣生織物
- 同 三十日 糸編物及糸組物
- 十月一日 青森縣、山形縣ノ綿織物
- 同 二日 秋田縣、宮城縣ノ綿織物

- 同 三日 福島縣、巖手縣ノ綿織物
- 同 四日 友禪裾模様類ノ地細工物
- 同 五日 同上以外ノ染物
- 同 六日 機械
- 同 七日 器具、圖案
- 同 自八日 擬賞調査
- 同 至十七日 擬賞完了審査長ニ提出ス
- 十八日

審査法ハ左記項目ニ依リ合議ノ方法ヲ採レリ

審査法

織物

第一 鑑定

一、組織

原糸、下拵、地合等ノ適否ヲ審査ス

二、色澤

晒白、精練、染色、整理等ノ適否ヲ審査ス

三、適用

意匠、丈幅、量目、價格、用途等ノ適否ヲ審査ス

第二調 査

本業ノ狀態並ニ出品者ノ業況等ヲ調査ス

染 物

第一鑑 定

一、原料

生地又ハ材料ノ適否等ヲ審査ス

二、工 作

晒白、精練、染織、整理等ノ適否ヲ審査ス

三、適 用

意匠、丈幅、量目、價格、用途等ノ適否ヲ審査ス

第二調 査

本業ノ狀態並ニ出品者ノ業況等ヲ調査ス

糸編物、糸組物

第一鑑 定

一、原 質

生地又ハ材料ノ適否等ヲ審査ス

二、工 作

製作技術ノ巧拙等ヲ審査ス

三、適 用

意匠、價格、用途等ノ適否ヲ審査ス

第二調 査

本業ノ狀態並出品者ノ業況等ヲ調査ス

前述ノ日程、方法ニ依リ大體ノ審査事務ヲ進行セリト雖小官等ハ審査ノ萬全ヲ期スル爲ニ審査事務開始前本年七月以來官衙或ハ同業組合等ニ照會シ各業ノ趨勢、產品ノ種類及産額原料ノ需給狀況、製品販路ノ狀況、當業者中主ナルモノノ業況等ヲ調査シ大要ヲ取纏メ尙審査事務開始後モ責任アル各縣ノ當事者ヲシテ斯業ノ趨勢各縣ノ公私ノ施設獎勵ノ方針、出品人ノ業況、從來ノ受賞ニ關スル所感並將來ノ希望等ヲ照會或ハ聴取シ尙此等ノ調査報告及出品人ノ解説書ニ依ル調査ヲ以テ満足シ能ハサルモノニ付テハ審査官自ラ各地出張シ工場ノ設備經營ノ狀況普通製品ノ優劣等ヲ調査シ嚴密ナル調査ヲ遂

ケ共進會ノ目的ヲ貫徹スル上ニ萬遺漏ナカランコトヲ期セリ

審査ニ關係シタル職員ハ審査官四名審査員十一名ニシテ左ノ如シ

審査官

主任 農商務技師

吉田 信一

同

吉岡 直富

新潟縣工業技師

澁谷 廣次

工業試驗所技師

齋藤 修

審査員

東京府

市田 彌惣右衛門

同

田邊 正助

同

福島 伊三郎

神奈川縣

笠原 庄太郎

宮城縣工業技師

田中 清治

福島縣工業試驗場技師

大塚 廣通

福島縣

渡邊 龜

巖手縣染織試驗場技師 岡田 永之進

山形縣輸出羽二重検査所技師 志賀 信一

同縣東村山郡立染織學校長 西田 辰海

山形縣立工業學校教諭 鈴木 寛也

審査ノ分掌ハ別ニ之ヲ定メス吉田審査官各類ヲ通シテ之カ主任トシテ統一ヲ謀リ各審査官ノ合議ニ依リ決定セルヲ以テ審査官ハ各類ニ亘リテ責ヲ負フハ勿論ナリト雖假ニ左記分掌ニ依リ各類ニ主査ヲ置キ擬賞並審査報告ノ整理ヲ爲スコトトセリ主務分掌及審査員ノ擔當左ノ如シ

類	品	種	主査審査官	審査員
三〇類	幅廣織物	吉	岡	大塚、渡邊、志賀
三一類	絹織物	吉	岡	鈴木、市田、田中、大塚
三二類	綿、麻、毛交織物	澁	谷	西田、田邊、田中、大塚、岡田
三三類	染物	齋	藤	福島、西田、大塚、田中、岡田
三四類	絲編物、絲組物	吉	田	等原、大塚、田中
三五類	器具、機械、圖案	吉	岡	大塚、岡田、鈴木、田中
三六類	方法成績	吉	田	

審査場ハ第一審査室ノ階上ノ一室ヲ用ヒタリ此ノ室ハ廣サ二十坪アリ稍々狹隘ヲ感セシモ東南北三方

ヨリ採光セルヲ以テ最モ現品ノ鑑定ニ適應セリ尙審査用具ニ付テハ豫メ當局者ニ準備ヲ依頼スルモ往々満足ヲ得サルコト多キニ拘ラス今回ハ此等ノ用意ヲ充分ニシ審査ノ進行ニ便セラレタルハ當局者ニ對シ深く感謝スルモノナリ

終リニ尙一言附記シ置キタキハ出品臺帳ノ整理ナリ幾度カ同一事務ノ繰返サルルニモ拘ラス常ニ共進會ノ難事トスルモノハ臺帳ノ整理ナリ抑モ出品ヲ豫メ提出シタル願書ニ記載セル通り出品スルコトハ理ニ於テ易々タルコトナリト雖實際ニ於テハ然ラス況ンヤ當局者カ出品ノ勧誘ヲ爲シ出品者ニ便宜ヲ與ヘントスルカ如キ場合ニ於テ殊ニ然リ此ニ於テ臺帳ノ整理ハ出品者カ規定ヲ無視シ又不熱心ナル場合ニアラストスルモ至難ノコトニシテ共進會開會セラレ出品陳列セラル、モ尙臺帳ノ不充分ナルコト少カラス之レ今日ノ臺帳カ只在來ノ形式ヲ踏襲セルニ由ルモノニシテ富山縣主催聯合共進會ニ於テ審査官カ叙述セル如クカード式ヲ利用スルカ如キカ整理ノ一方法タルヘク爾後一工夫ヲ爲スノ要アリ

今回ノ出品ハ大體ニ於テ數年前ニ比シ進歩ノ跡ヲ認ムルモ尙幾多改良ヲ要スルモノ少カラス較々詳密ナル論評ハ以下章ヲ遂フテ爲スコトトシ左ニ本部ニ屬スル全般ノ出品並擬賞表ヲ掲ク

第五部染織工業品類別擬賞一覽表

類別品名	出品				合計	出品人員ニ對スル擬賞ノ割合
	點數	人	員	品		
	一等	二等	三等	四等		

三〇	幅廣織物	九九	四六	五	二	七	九	二三	五〇〇
三一	絹織物	一、三二五	四三一	六	一五	三四	八〇	一三五	三〇〇
三二	綿、麻、毛交織物	一、六二〇	三四三	三	一四	二七	五五	九九	三〇一
三三	染物	五四〇	一五〇	一	六	九	二四	四〇	二〇八
三四	絲編物絲組物	八二	一五	一	一	一	二	四	二六六
三五	器具機械圖案	六六	二二	二	一	二	三	七	三〇二
三六	方法成績	三	三	一	一	一	一	一	三〇五
計		三、七三五	一、〇一〇	一七	三八	八〇	一七三	三〇八	三〇五

第三十類 廣幅織物

審査官 吉岡直富

帝國輸出貿易品中最近三千五百萬圓ヲ超過スル品目ヲ列舉スレハ生絲、綿織品、銅、絹織物、綿織物ノ數種ヲ縷指スヘク就中最モ伸張力ノ著シク發展進歩セルハ織物ニ如クモノナシ左レハ輸出織物ノ消長如何ハ本邦ノ輸出貿易ニ至大ノ關係ヲ有スルハ言フ俟タサル所タリ、今回ノ聯合縣中福島縣、山形縣ハ本邦ニ於ケル有數ノ輸出絹織物産地ニシテ年額六百萬圓ヲ下ラサル製産ヲ有シ東北ニ於ケル重鎮トシテ注目ニ値スヘキモノアルニ拘ラス今回ノ出品ハ意外ノ少數ニシテ僅々九十有餘點ヲ見タルニ過キス之ヲ前回ノ群馬縣主催一府十縣聯合共進會ノ出品ニ不便ナリシト開會間際ニ於テ聯合縣ノ多クカ

大水害ヲ被リカヲ出品ニ專ラニスルコト能ハサリシ當時ノ五十餘點ニ比シ僅ニ四十點ヲ増加セルノミ
 尙四十二年福島縣主催ノ奥羽六縣聯合共進會ノ三百二十六點ノ出陳ヲ見タルニ比シ其ノ三分ノ一ニモ
 滿タサルハ共進會ノ目的ヨリ考ヘ甚タ遺憾ナルハ勿論亦曾テ府縣聯合共進會ニ於テ試ミラレサリシ染
 織工業品ノ分類ニ特ニ輸出織物ヲ一類ニ集ムヘク廣幅織物ノ類ヲ設ケ相當ノ出品ヲ豫期シタル企ニ對
 シ又審査ノ上ニ於テ何トナク物足ラサル感ナキ能ハス此ノ點ニ付テハ特ニ各縣當事者ノ一考ヲ煩ハサ
 サルヲ得ス

今回ノ出品狀況ヲ前回及前回ニ對比スレハ左ノ如シ

種別	宮城		福島		巖手		青森		秋田		山形		合計	
	點數	人員	點數	人員	點數	人員	點數	人員	點數	人員	點數	人員	點數	人員
今	九	三	六	九	一	一	一	一	一	一	一	一	九	四
群馬縣主催一府十四縣聯合共進會	九	三	六	九	一	一	一	一	一	一	一	一	九	四
福島縣主催第六回奥羽六縣聯合共進會	五	八	三	三	二	二	一	一	一	一	一	一	三	四
不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明

上表ニ示ス如ク本類ニ屬スル出品ハ總計點數九九人員四六ニシテ就中福島縣最モ多ク山形縣之ニ次ク
 福島縣ノ出品ハ輸出羽二重大部分(點數五四、人員二四)ヲ占メ輸出壁(點數五、人員四)之ニ次キ高配
 縞入ハンカチーフ及染朱子各數點アリ山形縣ハ輸出朱子(點數一六、人員一一)ノ外廣幅織織二點ノ出

品アリ宮城縣ハ第六回奥羽聯合共進會ニハ輸出羽二重五十五點ノ出品ヲ見タリシニ今回ハ僅ニ三點ニ
 過キサリキ秋田縣ノ出品ハ廣幅織織ナリ

出品斯ノ如ク各縣區々ニ亘リ比較論評スルニ足ルモノナキヲ以テ以下順次縣別ニ依リ審査ノ批評ヲ試
 ミントス

福島縣 本縣ニ製産スル輸出羽二重ハ所謂川俣羽二重ト稱スル輕目絹ニシテ近年々額四十萬疋内外其
 ノ價額四百萬圓餘ニ上リ東北ニ於ケル輸出絹織物中ノ白眉タル川俣絹ノ創始ハ遠ク數百年前ニアリテ
 其ノ間種々ノ變遷アリシモ是カ輸出羽二重トシテ發達スルニ至リタルハ明治二十年頃ノコトニシテ其
 ノ海外輸出ハ羽二重ノ製産地タル福井、石川ニ比シ幾分早カリシモ其ノ發達ノ割合ニ遲々タリシ所以
 ハ其ノ原因種々アリト雖主トシテ農家ノ副業或ハ家内工業的ノモノ多カリシニ依ルナラント思ハル最
 近此等ノ羽二重ヲ製織スル地域ハ川俣、飯野方面、俣原、福島市、二本松方面三春方面及相馬郡ノ小
 高、原町双葉郡富岡地方ニシテ力織機業者大部分ヲ占ム其ノ他農家ノ副業トスル足踏織機五百臺、手
 織機約七百臺アルモ手織業ハ多ク農家ノ副業ニシテ自家ノ養蠶ニ依リ採リタル原料ヲ用ヒ或ハ原料ヲ
 他ヨリ仰ク賃職ニシテ農家ノ閑散ナル秋期ヨリ春期ニ至ル期間其ノ他羽二重ノ最モ好況ナル場合ニ其
 ノ家族ニ依リテ製織セラレ川俣及飯野ノ市日毎ニ一疋乃至數疋ヲ持來リテ生絹ノ儘賣却スルモノニシ

テ從ツテ收利ナキトキ或ハ羽二重不況ナルトキ及休祭日農繁、養蠶時等ノ多忙ナル時期ニ際シテハ其ノ製造ヲ中止スルカ故ニ其ノ產出常ナク約一ヶ年四萬匹内外全羽二重產額ノ約一割内外ヲ占ムルニ過キスシテ今ヤ本縣ノ羽二重機業ハ殆ント皆力織機ニ轉化セリ、本縣ノ力織機ノ最モ發達シタルハ明治四十四年末ニシテ當時機業戸數二百六十八機臺數四千三百五十九臺ナリシカ現時ハ戸數百四十機臺三千百二十八ニ減少セリ左レト一戸平均ノ機臺數ハ十六臺三分ヨリ二十一臺一分ニ増加シ幾分小工場ヨリ大工場經營ニ移リ漸次製産費ノ輕減ニ努メ製品ノ統一ヲ主眼トスル現今ノ工場組織ニ推移シツ、アルヲ認ムルヲ得ヘシ

斯ノ如ク力織機創始ノ過度期ニ於テ製品ノ趣味手織機製ニ及ハストシテ之カ普及ハ一ノ至難事ニ數ヘラレ其ノ進歩極メテ遅々タリシカ一度技術ト機械ノ調和ヲ得ルニ及ンテ力織機ハ急激ニ増加シ今ヤ副業的家用工業ハ漸次大規模ノ工場ニ推移シ大ナルモノハ更ニ益々擴張セントスルノ趨勢ヲ示スニ至レリ此等斯業組織變遷ノ原因ヲ調査探究シ將來ニ對スル方針ヲ樹立スルハ産業ノ發達ヲ獎勵セントスル者ノ將ニ努ムヘキ重要ノ事項ナリ

左レハ今回ノ出品亦殆ント皆力織機製品ニシテ手織機ニ依ルモノハ僅ニ二三ニ過キサリキ

出品ハ大體ニ於テ本縣特有ノ輕目物ノ特徴ヲ發揮シ三匁、二匁二分五厘、二匁七分五厘物ニ其ノ最モ優良ナルモノ多ク大正博覽會出品ニ比シ概シテ經緯ノ整一、精練仕上ノ丁寧ナルコト等ニ於テ一般ノ進

境ヲ認ムルコトヲ得タリト雖動モスレハ目付ニ捉ハレテ經緯ノ均衡ヲ度外視セルモノアリ篋目經筋等ノ爲ニ其ノ品質ヲ害スルモノ尠カラス而シテ一般ノ輕目物ニ生シ易ク且忌ムヘキ織段ノ多キコトハ一大缺點ナリ左レハ將來緯絲ノ選擇及織機卷取ノ調節等幾多機構上ノ改善ヲ要スルモノアリ

猶輸出羽二重ノ出品物ニ見ルニ目付ハ二匁七分五厘以上三匁五分付以内ニ局限セラレタル傾向ヲ有ス一見其ノ特徴ニ向ヒ進ミツ、アルカ如ク見ユルト雖其ノ實際ニ於テ他主產地ノ壓迫ニ依リ滔々トシテ三匁未滿ノ境地ニ追ヒ込マルノ前提ニアラサルナキカ少ク共一本經一本緯トシテ四匁半以下有ラユル羽二重ノ優良ナルモノヲ製織シ得ルノ經驗ト研究トヲ常ニ持續シ注文者ニ對シ一地方ニ於テ其ノ望ム所ノ品種ノ製織物ヲ容易ニ得ラル、ノ便宜ヲ與フルノ用意ヲ要ス若之ヲ欠クトキハ物産ノ消長ニ大關係ヲ有スルモノトシテ技術上ノ餘裕ヲ常ニ持續スルノ必要ヲ認ム

壁織ハ最近發達シタルモノナルモ優秀ノモノ尠カラス只壁緯ノ撚班ニ依リテ其ノ品位ヲ低下セルモノアルハ遺憾トスル所ナレハ今後其ノ撚絲ニ一段ノ研究ヲ爲スヘシ尙精練仕上ノ甚タ粗惡ナル出品物アルヲ惜ム壁織ニ對スル精練仕上ハ一種特別ノモノナルヲ以テ此ノ種新規ノ製品ニ對シテハ相當ノ研究ヲ積ムノ要アルヘシ

後染縹子（年產額六千疋位）縞手巾（年產額二千疋位）ノ如キハ最近ノ製産ニ係リ羽二重製織ノ技術ヲ應用セルモノトシテハ優良ナリト認ムルモ尙一層ノ研究ヲ積テ相當ノ製産物タラシムルコトヲ望ム

要スルニ本縣ノ廣幅織物ハ輸出羽二重壁織以外僅少ノ後染縞子及縞手巾アリト雖其ノ製産機關ハ多ク輸出羽二重以外ニ出ツルコト能ハス極メテ貧弱ノ感ナクンハアラス輸出織物製産上ノ歴史ヨリ稽フルモ其ノ品種ノ僅少ナルコトハ其ノ土地ノ發達ノ速度遅キヲ示スモノナリ凡ソ製産機關ノ完備ニ進ムト稱スルハ製産力ニ彈力ヲ附與シ市況ニ左右セラル、ノ販賣ヲ爲サス自ラ市況ヲ左右スルノ基礎ト實力トヲ作ルニアリ然ルニ本縣ノ出品物ヲ見ルニ廣幅羽二重以外品種増加ニ對シテハ多ク其ノ進歩ノ跡ヲ認メス頗ル遺憾トスル所ナリ今後一段ノ努力ヲ希望ス

山形縣 本縣ノ輸出羽二重ハ明治二十七年西田川郡鶴岡町ニ於テ其ノ範ヲ福井縣ニ採リ創メタルニ起リ爾來幾多ノ變遷ヲ經テ長足ノ進歩ヲ爲シ殊ニ三十一年齊藤外市氏カ羽二重用カ織機ヲ創造シ研究ノ結果三十七八年頃迄ハ多ク重目羽二重ノ製織ヲ爲シタリシカ常ニ損失ヲ來ス場合多ク市場ノ趨勢ハ輕テ明治三十九年頃迄ハ多ク重目羽二重ノ製織ヲ爲シタリシカ常ニ損失ヲ來ス場合多ク市場ノ趨勢ハ輕目羽二重ニ利益多カリシ爲同年頃ヨリ全ク重目羽二重ノ製織ヲ廢シカ織機ノ利用ト共ニ輕目羽二重ノ製織ニ轉移シ羽前羽二重トシテ異彩ヲ放ツニ至レリ次イテ四十年頃ヨリ輕目縞子ノ製織ヲ開始シ爾來長足ノ進歩ヲ爲シ大正元年頃ヨリ羽二重ノ産額ハ減少セルモ縞子ノ製産額ハ益々増加シ從來ノ羽二重製織者ハ今日ニ於テハ大部分縞子ノ製織ヲ爲スニ至リ前聯合共進會當時ト全ク品種ヲ轉倒スルノ狀況ニ至レリ左レハ今回ノ出品ニ於テモ羽二重ノ出品ヲ見ルコトヲ得スシテ輸出縞子ノミノ出陳ヲ見タリ

本縣ノ輸出縞子ハ前述ノ如ク最近ノ發達ニ係ルモ本邦ニ於ケル輕目縞子ノ嚆矢ニシテ又本縣特有ノモノタリ近時致々トシテ原料ノ精選ヨリ整理仕上ニ至ル迄製造上ニ付研究ヲ努メ殊ニ工場組織ノ機業家團結シテ改良ヲ圖リ加フルニ力織機ノ製織ナルカ故ニ品質殆ント一齊セル結果漸次販路ヲ擴張シ來リ産額愈々増加ノ趨勢ヲ呈セリ今回ノ出品亦優良ナルモノ多キモ其ノ缺點トシテ認ムヘキハ一般ニ原料ノ精良ナル割合ニ經緯多キコトナリトス是レ製經ノ不完全ナルニ基因スルモノニシテ最モ注意ヲ要スル所ナリ其ノ他精練ノ不完全ナル爲色澤純白ヲ缺キ織耳ノ整一ナラサルモノアリ精練整理ニ於テ尙一段ノ研究ヲ要ス

縞朱子ハ未タ評スル迄ニ進マス染色及精練ニ於テ一段ノ研究ヲ要スヘシ

宮城縣 本縣ニ於ケル輸出羽二重業ハ明治十七八年頃仙臺市ニ株式組織ヲ以テ資本金一百萬圓ノ羽二重機業會社ヲ設立シ機臺百臺ヲ据付テ製織シタルニ始マル同社ハ四五年間繼續營業セルモ收支償ハス不幸解散ヲ見タリ其ノ後明治三十三年ニ至リ縣ハ羽二重機業獎勵ノ爲特ニ巡回教師ヲ置キ斯業ノ指導ニ努メシメ亦各郡樞要ノ地ニ羽二重生産販賣所ヲ設立セシメ之ニ年々三千圓ノ補助金ヲ交附シ羽二重ノ製販賣ニ從事セシムルト共ニ工女養成ノ任ニ當ラシメ其ノ後三十六年ニ至リ製販賣所ノ外更ニ一般機業者ニ對シ新タニ機臺ヲ設備スルモノニ補助金ヲ與ヘ或ハ整經器ニ對シテ補助シ若ハ精練工場ニ對シ精練費補助ヲ與フル等極力之カ發展ノ獎勵ニ努メ一時五十萬圓以上ノ産額ヲ見ルニ至リシモ機

業家ノ散在ハ相互ノ氣脈ヲ疎通スルニ便ナラス販賣機關ノ不備ハ當業者ノ金融ヲ圓滑ナラシムルコト能ハス市場ノ景況ヲ感知スルコト能ハサリシ爲收支償ハスシテ製産漸次減少シ今回出品ノ如キ僅ニ二人三點ノ出品ヲ見タルノミニシテ孤城落日ノ感アリ之レ畢竟前途ノ交通金融ノ兩機關不備ナリシニ由ルト雖一面ニ於テ地方人士カ未タ斯業ノ趨勢ヲ察セス徒ニ土地萬能主義ノ因襲的感念ニ捉レテ改良ヲ爲サ、ルコト其ノ最大原因ナルヘシ指導獎勵ノ局ニ在ル者注意セサルヘカラス

以上ノ外山形縣及秋田縣ヨリ廣幅絲織ノ出品アリ試製或ハ注文製織ニ係ルモノニシテ未タ其ノ産額少ク出品亦優良ナリト謂フコト能ハサルモ近時海外ニ於テ本邦特有ノ絲織ヲ需要セントスル傾向アルカ故ニ將來輸出増加ノ望ナキニ非ス由來本邦ハ海外ト其ノ風俗習慣ヲ異ニスル爲本邦固有ノ幅員ヲ有スル織物ハ海外ノ需要ニ適セス輸出織物トシテハ特ニ相當廣幅ノモノヲ製織スルノ必要アリ今日羽二重其ノ他二三ノ無地物以外多ク輸出ノ増進ヲ期スルコト能ハス又輸出織物業者カ常ニ海外市場ノ影響ヲ受クルコト鋭敏ニシテ堅實ナル發達ヲ遂クルコト能ハサルハ畢竟輸出向織物ノ種類少クシテ市況ノ如何ニ應シ潤達自在適當ノ品種ヲ仕向ケテ其ノ調節ヲ爲スコト能ハサルニ由ル故ニ輸出向織物トシテハ海外ノ織物ヲ模倣之レ事トセンヨリハ寧ロ需要ヲ内外ニ求メ得ヘキ幅員ヲ有スル織物ノ製産ヲ進ムルコトハ或ハ輸出織物ヲ發展セシムル捷徑ニアラサルカ此ノ意味ニ於テ今後益々本出品ノ如キモノノ製産増加ヲ獎勵セムコトヲ望ム

第三十類 廣幅織物出品並擬賞表

縣名	出品				計	出品人員ニ對スル擬賞ノ割合
	點數	人員	一等	二等		
宮城	九	三	一	一	一六	三〇・三三
福島	六	〇	三	二	一一	五〇・三三
巖手	一	一	一	一	四	一〇〇・〇〇
青森	一	一	一	一	四	一〇〇・〇〇
秋田	三	一	一	一	五	四〇・一〇
山形	一	二	一	一	五	四〇・一〇
合計	九九	四六	五二	二七	二二三	五〇〇・〇〇

以上今回出品ノ廣幅織物ニ付概略論評セルカ尙此等廣幅織物中東北産品ニ關係深キ絹物ノ最近ニ於ケル輸出狀況ヲ叙述シ當事者ノ參考ニ資セムトス最近ニ於ケル本邦ノ絹物輸出貿易ハ年額四千萬圓以上ニ達シ其ノ種類ハ布帛ニ於テ羽二重、縮緬、琥珀織縺子（絹製及絹綿製）絹綿紬、甲斐絹（絹製及絹綿製）絹、シフォン等ニシテ製品ニ於テ手巾、寢衣、きもの、肩掛、肌衣等ナリトス今此等絹物ノ最近三ヶ年間ニ於ケル輸出額ヲ舉クレハ左ノ如シ

絹織物

種別	大正二年		大正三年		大正四年	
	數量	價格	數量	價格	數量	價格
羽二平重織	二四七九六	三二八〇五九	二二九九九	二九三〇八	二九七〇三	三六三三九
同紋織及綾織	二八三一五	三〇七六二	一四七一	一五五五六	一八四八六	一九三三〇
甲斐絹製	一三九六六	九五二七	六八九	四八二五	一七八八二	一四八三四
同絹製	二五七八七	一一〇一四	一一二七七	四四八四	二五七三〇	一九一五四
縹子絹製	一一九一六	三九三三六	一三〇八五	三五八一	五〇〇八三	一三六一五
同絹製	一〇一八四	五四九一三	一五五七一	八七五三〇	一〇六六四	六五七七九
琥珀織	一五九〇八	七〇九〇二	一四四六四	六四六六三	一六三三三	七一九八二
シフオン	一七九四五	一一七八八	七三三六五	五二六三二	一一八七二	八九七三三
絹綿紬	一三四五六	五七〇三三	三五七六六	一六〇六四	一七四六七	七一四四二
縮綿紬	不明	不明	一五三三	七五九六	一〇九五七	五七四九二
其ノ他ノ絹織物	四七〇九四	七八三七八	五七〇九六	四六二五七	一一〇八〇	一〇七四一
計	三九三四七	四二〇四九	三〇二一六	三二二八五	三二二九四	三二二九四

絹製品

種別	大正二年		大正三年		大正四年	
	數量	價格	數量	價格	數量	價格
絹製手巾	一七〇四三	五〇〇一三	八七二	二、三六九	九七、八九六	二、七三二
絹製肌衣	七、三九九	一八六、五四五	六、八八四	一五、五四九	三、五八七	八七六二
同肩掛	三六、七四七	一八四、五九〇	三四、八〇六	一七、三七八	一八、四五二	一一〇八九
同寝衣	二〇五、二四	八九、一七四	一七一、九三	六六、七九四	一〇〇、〇一一	七、二五八
同着物	—	—	—	—	—	—
絹製計	—	—	—	—	—	—
合計	—	—	—	—	—	—

即チ絹織物中輸出ノ最モ多キハ羽二重ニシテ金額ノ約九割ヲ占メ其ノ他ノモノニ至リテハ遙カニ少額ニシテ縹子、縮綿、琥珀、絹綿紬、絹、甲斐絹、シフオン、順次之ニ亞キ又絹製品中最モ多額ナルハ絹手巾(全額ノ約六割)ニシテ寝衣、着物、肩掛之ニ次ク而シテ此等絹物ノ輸出先ハ製品ノ種類ニ依リニ大別スルコトヲ得ヘシ即チ一ハ羽二重ノ如キ原料の織物及絹手巾ノ如キ輕微ナル加工ヲ施セルモノ及特ニ日本趣味ノ翫賞ヲ目的トセラルル製品ヲ需要スル歐洲各國北米等ノ如キ比較の先進ノ文明國ニシテ他ハ縮綿、琥珀、甲斐絹、シフオン等ノ如キ比較の精巧ナル織物或ハ柄物ヲ需要スル東洋諸國及殖民地方面ナリトス

斯ノ如ク製品ノ種類ニ依リ需要ノ異ナル所以ノモノハ本邦産ノ比較の精巧ナリト目スヘキ織物モ歐洲列國ノ製品ニ對シテハ(一)精巧ノ度尙及ハサルコト(二)彼ノ流行ニ隨伴スル製出困難ナルコト(歐洲

ヨリノ注文後積出シ迄ニハ約三、四箇月ヲ要ス）（三）精巧ナル織物ハ却ツテ彼ノ得意トスル所ナルカ故ニ曾テ其ノ輸出ヲ試ミタルモノ少クシテ單ニ價格ノ點ニ於テ成算アルモノ又ハ需要廣キモノニ重キヲ置キタルコト等其ノ重ナル原因ニシテ東洋方面及其ノ他ノ殖民地方面ニ向ツテハ之ト異ナリ其ノ流行ノ變遷モ甚タ少ク其ノ需要上ノ趣味モ頗ル單調ナルト精巧ヨリハ寧ロ堅牢ヲ尚ヒ且之カ供給ニ對シ歐洲諸國ノ製品ト其ノ輸贏ヲ爭ヒツ、漸次其ノ販路ヲ擴張シ得ルノ利便ヲ有スルニ由ルモノノ如シ前掲統計ニ示ス如ク我絹物ノ昨年ニ於ケル輸出ハ空前ノ盛況ヲ呈シ大正三年ニ比シ九百四十餘萬圓ノ増加ヲ見タリ就中増加ノ著シキハ羽二重縮緬類ニシテ羽二重ノ如キ本邦ニ於テ輸出開始以來最も多額ナリシ三十七年ノ三千七百五十萬圓ヨリモ尙多キコト百萬圓餘ニシテ未曾有ノ盛況ト謂フヘシ只本年ニ入リテヨリ上半期ハ絲價暴騰ノ爲昨年ヨリ減少セルモ下半年期ニ入り新ナル注文入り來リ目下最も好況ニアルヲ以テ斯ル狀況ニシテ繼續センカ本年モ亦相當多量ノ輸出ヲ見ルナラント思ハル殊ニ近時海外ヨリ從來本邦ニ於テ製造セサリシ各種絹織物ノ注文陸續トシテ來ルモ全部之ヲ引受クルニ足ルヘキ技術及設備ノ完整シ居ラサルハ最も遺憾ナリトス只絹製品カ多ク増加セスシテ戰前ニ比シ却ツテ減少セルハ前述ノ需要地ノ多クカ交戰諸國ナルカ爲ニ多少需要ニ影響セルニ由ルモノノ如シ吾人ハ今回ノ戰爭勃發當時ニ於テ一般貿易ニ變調ヲ來シタルヲ見就中絲織物ノ如キハ一種ノ贅澤品ニ屬シ殊ニ羽二重ノ如キ大部分歐洲ニ輸出セラルルカ故ニ其需要モ時局ノ發展ト共ニ或ハ大ニ減少セサルヤヲ懸念シタ

ルカ今日ヨリ之ヲ觀レハ殆ント杞憂ナリシ感アリ勿論交戰國ノ工業界ハ武器彈藥其ノ他軍需品ノ供給ニ忙ハシク夜ヲ以テ日ニ繼クノ狀態ニアリ加フルニ熟練ナル職工ハ戰線ニ赴キ婦女子ノ勞働ニ就事スルモノ増加スルニ至リ更ニ金利騰貴シ原料ノ供給意ノ如クナラサル等ノ事情ヨリ彼ノ絹織物ノ製産國トシテ知ラレタル佛蘭西ノ如キ其ノ製産額ハ平時ノ半ハニモ達セサルコト及羽二重ノ如キ新ニ軍服用ニ供セラルルニ至リタル等ノ爲需要ハ供給ニ伴ハサリシ結果本邦等ヨリノ輸出増進ヲ見ルニ至リタルナランモ今日ニ於テハ絹織物ハ歐米ノ社會ニ於ケル婦人ノ衣服トシテ最早必要缺クヘカラサルモノニシテ一時ノ不景氣ノ爲ニ其ノ需要ニ多少ノ伸縮アランモ大體ニ於テ其ノ需要ニ激減ヲ來スカ如キコトナキハ時局ノ影響ニ依リ證明セラルル所ニシテ此ノ點ハ斯業ノ爲慶スヘク又吾人ノ努力如何ニ依リ斯業ノ發展ヲ期シ得ヘキ餘地ヲ認ムルモノナリ左レト戰後ニ於テモ果シテ能ク此ノ好況ヲ持續シ得ヘキヤ否ヤ前途ニ對シ容易ニ樂觀ヲ容ササルモノアリ一ニ斯業ニ從事スル者ノ努力ヲ希望セサルヲ得ス

第五部

第三十一類 絹織物

審査官 吉 田 信 一

絹織物ハ六縣共ニ多少ノ出品ヲ見サルナク其ノ點數千三百二十五、人員四百三十一ナリ而シテ今回ハ

廣幅物ノ爲ニ別ニ一類ヲ設ケ又交織物ハ第三十二類ニ屬セシメ純絹織物ノミヲ本類ニ於テ審査スルコトトセルカ故ニ之ヲ既往ノ共進會ノ出品數ト對比スルコト困難ナリト雖試ニ福島縣主催第六回奥羽六縣聯合共進會ニ於ケル絹織物及其ノ交織物ノ出品並群馬縣主催一府十四縣聯合共進會ニ於ケル輸出向織物及傘地服地等ノ廣幅物ヲ除キタル絹織物ノ出品點數人員ト比較スレハ左ノ如シ

縣名	今		群		福		島	
	點數	人員	點數	人員	點數	人員	點數	人員
宮城	七三	一六	七九	一五	一六〇	六四		
福島	一三四	九一	二五	一六	三三〇	二三〇		
青森	一七	七	九	四	一六	一一		
秋田	五二	七	七	三	一六	一一		
山形	一、〇四八	三〇九	九四八	三〇二	七四三	二一〇		
合計	一、三二五	四三一	一、〇六八	三四〇	一、四六四	五三三		

上表ニ就テ見ルニ群馬縣ノ共進會ハ秋田縣ノ參加セザリシニモ依ルナランモ今回ノ共進會ニ比シテ點數人員共ニ少ク又福島縣ノ際ノ統計ハ輸出織物ヲ含ムヲ以テ之ヲ控除スレハ内地向絹織物ノ出品點數ハ千百二十八點ニシテ今次ノ出品點數カ最モ多キヲ知ルヘシ而シテ今回ノ共進會ニ於テ點數人員共ニ

最モ多數ヲ占ムルハ主催地タル山形縣ニシテ其ノ他五縣ニ比シテ一頭地ヲ拔ケルヲ見ルヘク福島縣第二位ニ在リト雖出品點數ハ山形ノ八分ノ一ニ過キス人員ヲ比較スルモ尙三分一ニ足ラス宮城、秋田、巖手ノ諸縣ハ更ニ下リ青森縣ニ至リテハ全ク振ハス實ニ最小限度ノ出品トモ稱スヘシ
 關テ六縣ニ於ケル絹織物ノ生産狀況ヲ見ルニ米澤絲織、長井紬、仙臺平、八ッ橋、秋田八丈、秋田畝織等古クヨリ知ラレタルモノ少ナカラスト雖現在ニ於テ能ク其ノ名聲ヲ維持シ多額ノ製産アルモノ至テ少キカ如シ左ニ各縣絹織物ノ製産額ヲ掲ケン

縣名	年度		
	大正三年	大正二年	大正元年
宮城	二一四、五七四	三六〇、〇二三	三六六、七二七
福島	三、四六四、九〇八	四、二五六、七四二	四、一〇三、一四六
巖手	一六、五八四	一七、三六八	一八、七二六
青森	四、三五八	四、一四八	二、六四五
秋田	四二、八五四	七六、九七五	八六、四一七
山形	四、一四四、〇六〇	五、四五〇、四四六	六、〇九二、四九五
合計	七、八八七、三三八	一〇、一六五、七〇二	一〇、六七〇、一五六

上表ハ輸出向絹織物ヲモ包含セルヲ以テ内地向絹織物ノ正確ナル數ヲ知ル能ハスト雖出品點數ノ多少ハ略ホ生産額ニ比例セルヲ認ムヘク換言スレハ今回ノ出品ハ以テ各縣絹織物業ノ大勢ヲ察知スルニ足

ルモノト謂フヘク内地織物トシテハ米澤織、長井紬及福島縣ノ節絹等重要ナル地位ヲ占メ仙臺平、秋田織等之ニ次ク

抑モ東北ニ於ケル絹織物業ハ概シテ古キ歴史ヲ有シ勞力ノ低廉ナルコト原料ノ豊富ナルコト等斯業ニ對スル幾多ノ利益ヲ有スルニ拘ラス山形、福島ノ二縣ヲ防キテハ甚タ不振ノ状態ニ在リ交通ノ不便ニシテ需要地ト懸隔シ氣候不良ニシテ蟄居生活ノ長キコト等産業ノ發展シ難キ原因トナスヘキモノナキアラスト雖吾人ハ斯ノ如キ理由ヲ以テ東北ニ於ケル工業殊ニ絹織物業カ發展ノ望ナシト謂フヲ欲セサルナリ委シク説ク迄モナク米澤、長井乃至福島ニ於ケル實例ハ之ヲ證シテ餘リアリ當業者ノ自覺ニ依リ技術ノ研究ヲ專ニシ製産組織ヲ確立シ當局ノ指導其ノ宜シキヲ得ハ將來織物業ヲシテ相當ノ發達ヲ爲サシムルコト必スシモ難事ニアラサルヘシ左ニ縣別概評ヲ試ミム

宮城縣 本縣ノ出品ハ點數七十三、人員十六ニシテ仙臺平袴地最モ多數ヲ占メ八ッ橋之ニ次キ縮緬、羽二重、斜子等少數ノ出品アリ仙臺平ハ由來本縣ノ特産ニシテ袴地ト云ヘハ何人モ直ニ仙臺平ヲ聯想スルノ常ニシテ是レ其ノ實質ニ於テ能ク他ノ模スヘカラサル特長ヲ有スルヲ以テナリ然ルニ近年ノ産額ハ十萬圓ヲ維持スルコト難ク大正三年ノ如キハ僅ニ五萬圓ヲ算スルニ過キス其ノ名カ袴地ノ霸王トシテ普ク人口ニ膾炙スルニ拘ラス産額寧ロ年々遞減ノ傾向アルハ憶フニ他産地カ能ク技術上ノ研鑽ヲ重ネ新製品ノ考案ニ努メ以テ時好ニ投スルモノアルニ反シ本縣ノ當業者カ古來ノ名聲ニ安ンシ新銳ノ

意氣乏シキニ依ルニアラサルカ今回ノ出品ニ就テ見ルニ一二優品ナキニアラスト雖數年前ニ比シ概シテ進歩ノ認ムヘキナク苦心研究ノ跡渺シ意匠ハ平凡ニシテ組織ニ變化ナク且風合ニ乏シク優良ナル原絲ヲ使用スルニ拘ラス米澤等ノ製品ニ比シテ却テ見劣リスルノ感アルヲ免レス今ヤ袴地ノ産地トシテハ米澤アリ八王寺アリ越後アリ或ハ仙臺平ヲ模シテ本場以上ノ優品ヲ産シ或ハ新規ノ製品ヲ出シテ需要界ノ趨勢ヲ動カサントス徒ニ名聲ニ安ンシテ舊套ヲ墨守シ研究改善ヲ念トセサルニ於テハ仙臺平ノ將來知ルヘキノミ當業者タルモノ宜シク需要界ノ趨勢ニ鑑ミ原料ノ應用、組織、風合ノ研究ニ意ヲ致シテ益々其ノ特長ヲ發揮シ斯業ノ進歩發展ヲ期スヘク縣當局モ亦指導其ノ宜シキ致サムコトヲ切望ニ堪ヘス

八ッ橋モ亦古來名産トシテ知ラルト雖其ノ産額至ツテ少ク出品中ニハ壁緯ノ使用ヲ試ミタルモノ其ノ他多少ノ優品ナキニアラスト雖概シテ稱スルニ足ルモノナシ縮緬、節絹、羽二重斜子ハ出品少數ニシテ技術上ノ點ヨリ見ルモ特ニ論スルノ價值ニ乏シ一般ノ努力ヲ望ム

福島縣 本縣ノ出品ハ節絹最モ多數ヲ占メ白紬之ニ次キ其ノ他縮緬綾、紋羽二重等殆ント白物ノミニシテ出品點數百三十四、人員九十一ナリ節絹ハ比較的近年ノ發達ニ係リ専ラ農家ノ副業トシテ福島市信夫郡、伊達郡等ヨリ産出セラレ其ノ額今ヤ六十萬圓ノ多キニ達セルハ推賞ニ値ス今回ノ出品ニ就テ見ルニ線糸及品種ニ於テ稍々統一セルヲ認メタルハ一段ノ進歩ト稱スヘキモ往々ニシテ經緯原料ノ使

途ニ注意シテ繰糸セサルカ爲経緯ノ區分ヲ誤レルモノアリ織段掬等ノ缺點カラス量目ニ付テモ百十
勿見當ノ適品尠ク較々輕目ニ失シ縮リ軟弱ニシテ外見宜シカラス粗製ニ傾ケルノ點ハ最モ注意ヲ要ス
ヘク尙耳糸ニ於テモ改良ヲ要スルモノアリ叙上ノ諸點ニ對シテ相當ノ改善ヲ加フルニ於テハ將來産業
トシテ相當ノ地歩ヲ占ムルコト蓋シ難カラサルヘシハツ橋ハ主トシテ若松市ニ産シ紬太織ハ安達、信
夫地ニ産スルモ其ノ産額未タ大ナラス出品少數ナリシヲ以テ一般ニ評スルニ苦ムト雖品質ハ概シテ可
ナルカ如シ縮緬綾ハ品質上地方的需要ヲ充スニ止リ一般的商品トシテノ價值少キモノトス
岩手縣 本縣ハ古來紬、縮緬等多少ノ生産アリタルモ其ノ産額ハ微々タルモノニシテ物産トシテ廣ク
認メラル、ニ至ラス縣當局者ハ曩ニ染織講習所ヲ設ケ先年更ニ其ノ組織ヲ改メテ染織試驗場ト爲シ指
導獎勵ニ盡セリト雖絹織物工業ハ未タ著シキ發達ヲ遂クルニ至ラス絹織物ノ全産額約二萬圓ニ過キス
今回ノ出品種類ハ縮緬、節絲織、袴地等ニシテ點數一六、人員六名ニ過キス孰レモ技術尙幼稚ニシテ
研究改善ノ餘地甚タ多キヲ思ハシムルモノアリ將來縣當局ノ指導ニ依リ一段ノ奮勵ヲ爲スコトヲ要ス
青森縣 本縣ニ於ケル織物中綿織物ハ相當ノ産額ヲ有スルモ絹織物ニ至リテハ殆ント見ルニ足ルモノ
ナク産額ハ漸次増加ノ傾向ニ在リト雖大正四年ノ産額未タ僅ニ四千圓ニ過キス（大正三年ノ統計ニ依
レハ絹織物ノ産額カ本縣以下ニ在ルハ徳島香川ノ二縣ノミトス）出品ハ畦織一人一點アリタルノミニ
シテ特ニ評スルノ價值ニ乏シ將來本縣ノ絹織物ヲシテ相當ノ産業タラシメンコトハ前途遠遠ノ感ナク

ンハアラス

秋田縣 本縣ノ出品ハ絲織、八丈八端、蒲團地、畝織等ニシテ絲織最モ多數ヲ占ム出品點數五十二、此人
員七名ナリ八丈並畝織ハ古來名アリ八丈ハ此地方ニ産スル玫瑰根ヲ以テ染ムルヲ特色トス八丈、畝織
共ニ近年ノ産額ハ減少ノ傾向ヲ示セリ而シテ絲織ハ八丈ニ代リテ増加ヲ來シ今回ノ出品ノ如キモ大部
分ハ絲織類ナリシモ最近ノ絹織物ノ全産額ハ四萬圓ニ過キス勿論先年ノ凶作並戰亂ニ依ル染料ノ拂底
等産額減少ノ因ヲ爲セルモノアルヘシト雖當業者ノ努力ヲ要スルモノアリ絲織類ノ出品柄行並色目ニ
於テ相當ニ苦心ノ跡ヲ認ムト雖製品ニ腰ナリ絲ノ張力不同ナル爲カ著シク布面ニ皺付クノ缺點アリ組
織ニ於テハ平凡ニシテ見ルニ足ルモノ少シ綾蒲團地ハ相當ノ出來榮ナリシモ之ヲ郡内等ノ製品ニ比ス
ルニ見劣リノ感アルヲ免レス染色ハ概シテ不堅牢ニシテ改良ノ必要アリ要スルニ意匠、組織染色等ニ
就テ十分ノ研究ヲ遂ケ更ニ整理ノ技術ヲ研究シ他ノ長ヲ探リテ己ノ長ニ加ヘ本來ノ特色ヲシテ一段ノ
光彩ヲ發揮セシムルコト必要ナリト信ス

山形縣 本縣ノ内地向絹織物ハ其ノ多種多樣ナル技術ノ優秀ナル將又産額ノ多大ナル實ニ東北六縣中
ノ隨一ニ位スルノミナラス亦全國ニ於ケル有數ノ産地ニシテ今回ノ共進會ニ於テ染織物中場中ニ重キ
ヲ爲セシ所以ハ實ニ本縣ノ絹織物ノ存スルニ依リシモノト云フモ敢テ誣妄ノ言ニアラサルヲ信ス本縣
ノ内地向絹織物ハ其ノ産額四百萬圓ヲ超エ所謂米澤織物及長井紬ヲ以テ其ノ主要ナルモノトシ山形市

ニハ節織等ノ生産アリ又白地物トシテ羽二重、斜子、紹及縮緬等ノ出品ヲ見タルモ其ノ産額ハ未タ多キニ上ラサルカ如シ出品點數千四十八、人員三百九ナリ

米澤織物 米澤織物ハ舊藩主上杉鷹山公カ殖産工業ヲ以テ治國ノ大本ト爲シ當時越後ヨリ織工ヲ招致シテ藩中ノ子女ニ傳習セシメタルニ起因スルモノニシテ爾來漸ク發達ヲ遂ケ今ヤ四百萬圓ノ大物産トシテ普ク全國ニ販路ヲ有スルニ至レリ而シテ其ノ主タル販路ハ京阪地方ニシテ價格ノ低廉ナランコトヲ專トシ八王子織物カ東京ヲ以テ根據トシ品質ヲ本品トセルニ對セリ殊ニ米澤物ハ價格ヲ廉ニセントスルノ手段トシテ原絲ニ多量ノ増量ヲ爲スヲ特色トシ其ノ技容易ニ他ノ追隨ヲ許ササルモノアルモ其ノ結果ハ地質ヲ害シ往々其ノ弊ニ堪ヘス米澤物ハ一般ニ粗製品ト目セラレ總シテ不評ヲ免レス且組織柄行ノ如キモ他産他ノ模倣ヲ事トシ自ラ考案スルコト少キヲ以テ流行ヲ支配スルノ力乏シク需要界ニ勢力ヲ爲スニ至ラサルナリ然レトモ茲ニ逸スヘカラサルハ米澤カ此種織物ニ對シ率先シテ力織機ヲ使用スルニ至リタルノ一事ニシテ從來出機組織ヲ本體トセシニ近來力織機ノ發達ト共ニ其ノ使用増加シ工場組織ニ依リテ統一の製品ヲ出スモノヲ見ルニ至レリ尙一部當業者ハ品質ヲ向上セシメ米澤織ノ聲價ヲ回復スルノ急務ナルヲ自覺シ專ラ上等品ノ製造ヲ爲セルモ未タ粗製品カ米澤産品ノ大部分ヲ占メ居レルト一度需要者ノ腦裏ニ印セル米澤物ナル惡評ハ容易ニ拭フヘカラスシテ米澤ノ上等品ハ八王寺乃至京都品ナリトノ名ノ下ニ賣行フカ如キ奇觀ヲ呈セリト云フ

今回ノ出品ヲ通覽スルニ絲織、器械紋織、袴地、御召、男帶地等米澤産ノ主要ナル品種ヲ網羅セシモ開催時期ノ關係上最近ノ發達ニ係ル紹及紗類ノ出品ヲ見サリシヲ遺憾トス出品中最モ多カリシハ産額ニ於テモ最多數ヲ占ムル絲織ニシテ中柄類ハ割合ニ少シ器械紋織ハ紋御召ノ代用品トシテ地上ニ需要多ク近來米澤ノ獨占トモ稱スヘキ品種ニシテ將來相當ノ獎勵ヲ要スヘキモノナルヘク節絲織ハ近時此ノ地方ニ優良ナル原料ヲ産出シ産額ニ著シク増加ヲ來セリ將來此品種ニ對シ一段ノ努力ヲ爲スニ於テハ有望ナルモノナランカ御召類ノ出品ハ多カラス由來米澤ハ男物ヲ主トシ發達シ來リタルモノニシテ製品ノ品種多カラス女物ニ對シテハ多クノ自信ヲ有セサルカ如ク色目柄行等ニ對スル研究十分ナラサルモ將來米澤トシテハ更ニ女物ニ對シテ十分ノ研究ヲ遂ケ更ニ製品ノ種類ヲ増加スルノ要アルヘク御召類ノ如キ一段ノ研究ヲ加ヘラレンコトヲ望ム袴地中ニハ優品紗カラスト雖往々ニシテ粗製ニ傾ケルモノアリ近來ノ産額ハ袴地ノ產地トシテ全國第一ニ居ルニ鑑ミ一層ノ努力ヲ必要トス

博多男帶ハ出品少ク優品ニ乏シク本場品ニ比スルトキハ甚タ見劣リス更ニ一層ノ研究ヲ望ム

各品種ヲ通覽シテ米澤織物中最モ優品ヲ認ムルハ男子向着尺及袴地ニシテ推賞ニ値スルモノ紗カラニト雖柄行ハ概シテ平凡ニシテ目新キモノヲ見ス關西ヲ主要販路トスルノ結果ハ價格ノ低廉ヲ主トシテ外見ニノミ重キヲ置キ實質ヲ顧ス整理ノ研究ヲ缺キテ風合ニ乏シキノ憾アリ増量ノ過度ニ陥リシモノハ比較的少カリシモ往々ニシテ經絲染色ニ多量ノ木附子ヲ使用シ更ニ過量ノ油ヲ用ヒタルカ爲ニ手觸ヲ害シ塵埃ノ附着ヲ容易ナラシメ延テ變色褪色等ヲ促進スル虞アルカ如キモノヲ認メタルハ大ニ注意

ヲ要スヘク又袴地帯地等ニモ經絲ニ相當ノ原料ヲ使用セシ上等品中ニ油ノ過量ヲ使用セリト認メラルルモノナキニアラス緯絲ノ增量過度ニシテ油類ヲ多量ニ使用セルモノモ少數アリ抑モ「タンニン」增量ハ米澤織ノ特色タリシ所ニシテ米澤織今日ノ發展カ增量ニ負フ所少カラサリシハ勿論ナリト雖特長ハ同時ニ短所ニシテ粗製品ノ名ハ實ニ增量ニ起因スト云フヘク生産費ヲ低廉ナラシムルコトハ勿論必要ナルヘシト雖其ノ方法當ヲ得ス需要者ノ使用ヲ失墜スルニ至ツテハ斷シテ不可ナリ過度ノ增量ニ依ル手觸ノ硬直ヲ糊塗センカ爲ニ多量ノ油類ヲ使用シ更ニ油ノ包紙ニ浸潤スルヲ防止セントシテ包紙ノ改良ニ腐心スルモノアリト云フカ如キハ本末ノ轉倒セルコトモ亦甚シカラスヤ

原絲ノ染色ハ近來染料缺乏ノ結果大ニ困難ヲ來シ從ツテ不良ナルモノ多カルヘキヲ期待セラレシニ出品中甚シク不堅牢ナルモノハ尠カリシモ尙比較的不堅牢ナルモノアリ或ハ上掛ノ適當ナラサルモノアリ染料缺乏ノ際止ムヲ得サルニ出テシモノアルヘシト雖將來染色不良ノ因ヲ爲サシメサルコトヲ要ス然絲ニ關シテハ捻絡ミ絲ノ應用ヲ増シ此種ノモノハ比較的良好ナルモノアリシモ捻風ニハ更ニ一層ノ研究ヲ必要トスルモノアリ一般上等品ニハ較々捻度ノ不足ナルカ爲メ織物ノ光澤ニ於テ温雅ヲ缺ケルモノアリ整理ハ近來多少ノ進歩ヲ認ムルモ尙概シテ之ヲ輕視スルノ風アリ元來織物ノ風趣ハ整理ニ依リテ發揮セラルルコト多ク將來販路ヲ擴張シ新種類ヲ増加セントセハ更ニ整理ノ設備ヲ完全ニシ之カ方法ヲ研究スルコト甚タ必要ニシテ出品中ニアリテモ節織其ノ他整理ノ研究ニ依リテ其ノ眞價ヲ更ニ

發揮スルヲ得ヘク考ヘラレシモノ少カラサリシナリ

要スルニ米澤織物トシテハ將來意匠ノ改良ニ力ヲ注キ增量並染色ノ方法ニ注意シ更ニ進ミテ捻絲ノ應用ヲ研究シ從來ノ製品外尙品種ノ増加ヲ圖リ以テ販路ヲ擴張シ製品ノ信用ヲ高メ能ク其ノ基礎ヲ強固ニシ其ノ彈力ヲ増加スルコト最モ必要ナリト信ス

長井紬ハ其ノ産額三十萬圓ニ近ク大島紬ノ代用品トシテ廣ク需要セラル元來大島紬ハ其ノ風趣ヨリ邦人ノ嗜好ニ適スト雖其ノ價格甚タ不廉ニシテ一般ノ需要ニ適セス然ルニ長井紬ハ其ノ實質ニ比シテ價格ノ至廉ナル他ニ類ヲ見ス加フニ近來染色製織意匠ニ就テ大ニ研究ヲ加ヘ進歩ノ著シキモノアリ益々世ノ嗜好ニ投スルニ至レルハ推賞ニ値ス今回ノ出品ヲ見ルモ風合及緝足ノ味ニ於テ著シク大島紬ニ近ツキ殊ニ節絲ノ應用ニ巧ニシテ能ク細絲ノ風味ヲ出シ染色亦概シテ堅牢トナレリ柄合ニ於テモ進歩ノ認ムヘキモノアリト雖極メテ變化ニ乏シ元來緝ノ柄合ハ緝其ノ物ノ性質上變化ノ範圍少ク珍柄ノ考案ハ容易ナラサルモノアリ加フルニ長井地方ノ如キハ製造家ノ規模小ナルノミナラス製造期間ノ短キ爲主トシテ染織業者ニ於テ柄合ヲ考案スルノ風アリ之カ爲一層柄ノ研究ニ於テ後レ千遍一律ニ流ル、ノ憾アリ伊勢崎及埼玉地方ハ近來技術大ニ進歩シ殊ニ意匠ニ付專心研究ヲ積ミ新柄ノ考案ニ於テ見ルヘキモノアリ且其ノ廉價ニシテ實用的ナルヨリ大ニ世ノ推賞スル所トナレリ思フニ緝ノ如キハ柄合ノ變化ノ困難ナル丈之カ研究ヲ必要ト爲スモノニシテ此ノ點ニシテ後レタランニハ到底他ト競争シテ立ツ

大柄物ニ在テハ變化ノ較々自在ナル丈良好ノ柄アリ變リ色ヲ巧ニ應用セルヲ見タルハ賞スヘキモ由來此ノ種ノモノハ突飛ニ過キ失敗ニ陥リ易キヲ以テ注意ヲ要スヘシ尙節絲ヲ使用シタルモノニハ地合ノ點ニ於テ不充ナルモノアリ又新ノ白上リカ較々鮮明ヲ缺クモノ尠カラズ地色ハ概シテ黒ニ過キタルノ傾アリ色合一定セサルヲ遺憾トス要スルニ長井紬カ近來顯著ナル發達ヲ遂ケタルハ最モ快トスル所ニシテ將來ハ柄合ノ研究ニ一層ノ努力ヲ加ヘ以テ其ノ聲價ヲ永ク失墜セザランコトヲ期スヘシ其ノ他ノ絹織物トシテハ山形市及附近ノ節織アリ概シテ良好ナレ共其ノ整理ニ付テハ研究ヲ要スルモノアリ白地物モ概シテ良好ノ出來榮ナレトモ羽二重紹等他產地ニ比シテ遜色アリ一段ノ奮勵ヲ望ム

絹織物擬賞一覽表

縣名	出品數	人員	擬賞等級					計	出品人員 對擬賞ノ割合
			一等	二等	三等	四等	計		
宮城	七三	一六						三〇七	
福島	一三四	九一						二五三	
巖手	一七							一四三	
青森	一一							四三	
秋田	五二	七						五七一	
合計	一、〇四八	三〇九	六	五	一	二	二五	一〇一	
	一、三二五	四三一						一三五	
			六	五	一	二	二五	一〇一	
								三、二七	
								三、一三	

山形	一、〇四八	三〇九	六	五	一	二	二五	一〇一
合計	一、三二五	四三一						一三五
			六	五	一	二	二五	一〇一
								三、二七
								三、一三

第五部

第三十二類 綿織物、麻織物、絹綿毛麻交織物

審査官 澁谷 廣次

本類ニ屬スル出品物ハ需要最モ廣キ日常品ナルカ故ニ聯合各縣何レモ其ノ出品ヲ見サルナリ從ツテ其ノ點數千六百二十人員三百四十三ニ及ヒ其ノ最モ多キハ山形縣ニシテ製作ノ技術製品ノ品位共ニ優秀ニシテ聯合他縣ノ企及シ能ハサルモノアリテ其ノ間甚タ隔絶セルノ感アリ而シテ巖手縣之ニ次キ其ノ最モ少キハ青森縣ニシテ斯業ノ開發進展ニ關シテハ共ニ十二分ノ餘地ヲ認ムルモノナリ今各縣出品物ニ就キ之ヲ品種別ニ分類表示スレハ左ノ如シ

縣名	綿		麻		絹綿毛麻交織物		其他		合計
	種別	品名	種別	品名	種別	品名	種別	品名	
山形縣	綿	三七八	麻	一三三	絹綿毛麻交織物	三〇〇	其他	一九	五六四
巖手縣	綿	一七六	麻	四二	絹綿毛麻交織物	一〇	其他	二九	三五二
秋田縣	綿	一九六	麻	四	絹綿毛麻交織物	三	其他	一	二三三
福島縣	綿	二二	麻	一	絹綿毛麻交織物	七	其他	二	一七二
合計		一、〇四八		三〇九		六		五	一、三二五

種別	綿		色無		白無		布圍		袴地		麻織		蚊帳		敷布		タオ		紫藤		瓦斯		工夫		袋織		紙布		合計
	宮城縣	青森縣	宮城縣	青森縣	宮城縣	青森縣	宮城縣	青森縣	宮城縣	青森縣	宮城縣	青森縣	宮城縣	青森縣	宮城縣	青森縣	宮城縣	青森縣	宮城縣	青森縣	宮城縣	青森縣	宮城縣	青森縣	宮城縣	青森縣	宮城縣		
合計	二二三	二二二	一七	一	四	一	三	一	三	一	三	一	三	一	三	一	三	一	三	一	三	一	三	一	三	一	三	一	二六〇

抑モ東北ノ地タル交通運輸ノ開發世ニ後レ民度ノ進歩爲ニ遲々トシテ振ハス殊ニ富殖ノ源泉タル産業ニ在リテ最モ然リトス是ヲ以テ東北ハ常ニ消費地トシテ先進各地ニ囑目セラレ物資ノ移入ハ輸出ヲ超ルコト多ク年ト共ニ困憊其ノ度ヲ重ネ而シテ地方唯一ノ産業タル農産ハ既往ノ歴史ニ徴スルニ五年乃至十年ニ一回必ス不作ノ災厄ニ遭ヒ永ク其ノ頽勢ヲ挽回スルノ期ヲ得サルノ現狀ニシテ東北振興ノ聲ハ時々朝野ノ士ニ喧傳セラレ輿論亦喚起セラル、アルモ一トシテ之カ實現ヲ見サルハ適切ナル施設スヘキ方策ニ乏シキハ勿論放資ニ伴フ收利ニ於テ疑ヲ存シ着手ノ勇ヲ喚發セサルニ由ラスンハアラス是ヲ以テ東北ノ産業政策殊ニ染織工業政策ハ移入防遏ノ手段ヲ講シ地方自給ノ途ヲ圖ルハ現狀ニ適セル對策ニシテ(麻ノ如キ原料ノ豐富ナルモノハ除外ス)地勢上冬季長クシテ比較的豊カナル農閑時ヲ有スル地方ナルヲ以テ殊ニ其ノ然ルヲ信ス果シテ叙上ノ如クナラハ今回ノ出品物ハ其ノ意ニ於テ遺憾ナルモノアルヲ見ル即チ綿織物ノ如キハ日常用品ニシテ其ノ實質ニ於テ耐久性ニ富ムノ要アルヘク地質ニ太絲ヲ應用シ染色亦堅牢ナルヘキナリ然ルニ此ノ種出品少キニ非サリシモ各縣共ニ瓦斯織等ノ細絲應用品ヲ出シ其ノ柄合組織等ヨリ之ヲ按スルニ徒ラニ出品ノ美ヲ街ヒ之ヲ特製シタルニ非サルナキヤ

ノ憾ナシトセス而シテ出品解説ニ依テ之ヲ觀ルニ專業者ニシテ手織機乃至足踏織機等ヲ使用シ之カ經營ヲ爲セルモノ、多キハ時勢ノ進運ニ伴ハサルモノニシテ足踏織機ノ如キハ進ンテ出機トシテ農家ノ副業ニ移シ自家工場ニ於テハ力織機ヲ應用シ經費ノ節約ト製産増加トヲ以テ縣外移入品ニ拮抗スヘキモノナリト信ス其ノ業ニ從フモノ、奮勵ヲ望ムト共ニ開發誘掖ノ任ニ在ルモノ、獎勵指導ヲ希フテ已マサルモノナリ

綿木綿

綿木綿ハ本類ノ出品中其ノ數量最モ多ク且廣ク各縣ニ亘リ何レモ相當ノ出品アリ
 山形縣ノ出品ハ此種出品點數ノ三分ノ一以上ニシテ三百七十一點出品人員六十五人其ノ製産額ノ如キ山形市及東村山郡ノ主産地ノミヲ以テスルモ大正四年度ニ四十一萬一千七百十圓ノ多キニ達シ其ノ發達ノ狀勢ヲ察知スヘク其ノ經營ノ方法モ漸次機械力ノ應用ニ向ヒツ、アルハ甚タ喜フヘキ現象ニシテ當業者ノ熱心ト其ノ局ニ居ルモノノ指導宜シキヲ得タルニ由ルモノト言ハサルヘカラス而シテ地方製產品ハ自ラ地方的風味ヲ帶ヒ品質品位共ニ統一セラル、ヲ常トスレトモ今回ノ出品中特ニ此ノ感ニ乏シキハ之レ當業者間互ニ氣脈ヲ通スルコトナク互ニ連絡ヲ保チ協力其ノ業ニ從フノ美風ヲ缺ケルノ證ニシテ又其ノ地方ニ中心タルヘキ首腦者ニ乏シキニ非サルナキカ之レ他府縣品ニ對抗シ將來發展ニ資スヘキ素質ヲ缺ケルモノニシテ特ニ商品トシテ其ノ價値ヲ損スルモノナリ且意匠組織共ニ極メテ單調

ニシテ薪新ナルモノナク會々之ヲ見ルモ其ノ應用拙劣ニシテ徒ニ其ノ新ヲ街フニ過キス殊ニ細絲應用品ノ如キハ單ニ組織ノ粗密ヲ爭ハムヨリハ寧ロ新規ナル組織ノ應用ト特殊整理ニ依ル風合トニ依リ新製品ヲ見出スコト多シ而シテ瓦斯綿ハ勿論之ニ次クヘキ細絲應用品等ハ共ニ夫レ夫レ々々適當ナル整理加工ヲ施シ品位ノ向上ヲ圖ルハ必要ナル手段ニシテ製品ノ眞價ヲ發揮スル所以ナリト雖其ノ此ニ出テタルヲ見サルハ甚タ遺憾トスル所ナリ

其ノ他ノ諸縣ニ在リテハ出品ニ優劣少ク何レモ伯仲ノ間ニ在リ而モ點數ハ二百點未滿ナリ秋田巖手ノ出品中較々見ルヘキモノアリト雖其ノ他ハ概ネ批評ニ値スルモノナシ此等製產品ハ自給品ナルヲ以テ組織地質共ニ耐久力ニ富ミ染色亦堅牢ニシテ嘉スヘキモノ少カラスト雖製品ノ地色區々ニシテ統一ヲ缺キ組織單純ニシテ意匠揚ラス且價格ノ比較的高キニ失スルノ嫌アリ之レ其ノ製作工程ノ迂ナルト規模ノ小ナルニ起因スルモノ、如シ輓近各地ノ織物ハ漸次手工ヲ脱シテ機械工業ニ推移セントス此ノ時ニ當リ獨勞力ノ低廉ニノミ籍口シテ進ンテ之ヲ改メサルハ決シテ縣外品移入防遏ノ途ニ非サルヘシ加之他府縣產品ハ整理加工ニ依リ或ハ包裝仕立等ニ依リ美觀ヲ添ヘテ特ニ實質以上ニ人ノ嗜好ヲ引カンコトヲ努ムルニ反シ當地方ノ製產品ハ織リ卸ロシノ儘ニシテ其ノ實質ハ賞スヘシト雖人ノ嗜好ヲ喚起シ購買心ヲ挑發スヘキ商品ニシテ甚タ愚劣ナルヲ覺ユ宜シク改善ヲ施スヘキナリ而シテ巖手、青森兩縣ノ出品中絹紡絲應用交織品ハ組織價格共ニ相當ニシテ若シ夫レ意匠ノ時好ニ適スルアラハ縣外移出

品トシテ矚目ニ値スルヲ得ン

無地木綿

此種ニ屬スル織物中主要ナルモノハ紺無地ニシテ淺黃納戸之ニ次キ白木綿ハ極メテ僅少ナリトス紺無地木綿ハ山形縣東村山郡ノ出品中其ノ色合地風價格共ニ均衡ヲ得製品優良ニシテ進歩ノ狀顯著ナルモノアルヲ認ム其ノ他ノ製品ニ至リテハ色合不統一ニシテ染斑ニ因リ縷ノ縷ヲ生シタル等ノ缺點多ク淺黃納戸ノ無地織ニ在リテハ亦經ニ色斑ヲ認ムルモノ多ク製織粗放ニ流レ殊ニ織耳ノ整正ヲ缺ケル等向後一大改良ヲ要スヘキモノアリ宮城縣ノ白木綿ハ唯一人ノ出品ナリシモ其ノ製織良好ニシテ品質優秀ナリ將來益々工費ノ節約其ノ他經營其ノ宜シキヲ得ハ有望ノモノタルヘキヲ疑ハス

布圍地

布圍地ハ山形縣ノ三十點ヲ主トシ巖手、青森ノ十點之ニ次キ其ノ他僅少ノ出品ヲ見タリ青森縣出品ニ係ル絹紡絲應用品ハ此ノ種縞織ト共ニ良好ナリ配色ニ意ヲ用ヒ世ノ嗜好ニ投スルヲ得ハ縣外移出品トシテ優良品タルヘシ其ノ他ノ製品ニ至リテハ配色意匠共ニ粗野ナリ唯緯絲ノ打込ミヲ強クシテ地風ノ堅牢ノミヲ圖ルハ布圍地トシテ一考ヲ要スヘキモノト認ム

袴地

袴地ノ出品モ亦山形縣最モ多ク巖手縣ヲ除キ其ノ他皆之ヲ出品セリ此ノ種ノ出品中新製品ト認ムヘキ

ハ米澤市ノ絹毛交織品ニシテ組織意匠共ニ優良ニシテ殊ニ其ノ風合ノ良好ナルヲ認ム現今セル地袴ノ流行ニ當リ此ノ種ノ新製品ハ機宜ニ適セルモノニシテ中流以上ノ常用トシテ極メテ適當ナルモノト謂フヘシ其ノ他ノ製品ニ至リテハ意匠組織地風共ニ批判ヲ下スヘキ價值ナシ

敷布、紙布、タオル、紫蘇織、瓦斯銘仙、工夫緋、袋織

此等ハ皆特殊製品ニ係リ一々之カ批評ヲ試ムヘキ餘地ナシト雖特ニタオル織ハ巖手縣盛岡市ニ此ノ種織機ノ發明アリ爲ニ之カ應用ヲ見ルニ至レルモノニシテ輪毛整ヒ製織佳良ナリト雖色糸ノ染色堅牢ナラサルヲ遺憾トス秋田縣ニモ此等出品アリタルモ概ネ大同小異ナリ

麻織物

麻織物ハ巖手縣ノ八十一點福島縣ノ十五點山形、青森、宮城ノ三乃至五點ナリトス其ノ主ナルモノハ着尺生地布及疊縁地ニシテ蚊帳地之ニ次ク而シテ製品ノ優良ナルモノニ至リテハ福島縣ニ指ヲ屈スヘク巖手縣ハ其ノ出品多キニ拘ラス良好品ニ乏シキノ感アリ抑モ東北ノ地タル原料ニ富ミ冬季長ク從テ農閑時多キヲ以テ副業トシテ此等ノ製作ハ極メテ適良ナルモノト謂フヘク且輓近此等ノ需要増加シ常ニ供給不足ヲ訴ヘツ、アルナリ加之此ノ種麻布ノ原絲ノ手紡ニ改善ヲ加ヘ糸ノ整正ヲ圖リ製織ヲシテ更ニ精巧ナラシメハ洋服地及同心地等ト爲スヲ得ヘク將來有望ノ事業タルヘキヲ以テ決シテ閉却スヘキニ非サルナリ今回ノ出品物ヲ見ルニ每品區々ニシテ統一セルモノナク糸拵不充分ニシテ整一ヲ缺キ

或ハ經緯糸ノ均衡ヲ失シ或ハ用糸ト密度ノ調和ヲ得サル所アリ將來大ニ改善ヲ施シ地方特有ノ産業タラシムルニ努ムヘキナリ

之ヲ要スルニ本類ニ屬スル織物ハ極メテ幼稚ニシテ尙幾多ノ改善ヲ要スル所アリ種々相當ノ施設ニ俟ツヘキモノ多キヲ以テ當業者ノ熱心ナル研究ト持久ノ努力ヲ要スルト共ニ其ノ局ニ在ル者ハ常ニ指導啓發ノ任ニ當リ適當ノ施設ヲ以テ獎勵ニカメラレムコトヲ望ム今左ニ縣別ノ出品點數、出品人員擬賞割合ヲ舉ケテ參考ニ資ス

縣名	出品		擬賞					出品人員 ニ對スル擬 賞ノ割合
	點數	人員	一 等	二 等	三 等	四 等	計	
宮城	一六四	三一	一	二	二	二	九	二・七
福島	一七一	四二	一	二	四	六	一二	二・七
巖手	三五二	八八	一	二	五	三	二〇	二・二
青森	一三八	二五	一	一	三	四	八	三・二
秋田	二三二	五一	一	二	三	〇	一五	二・九
山形	五六四	一〇六	二	六	一〇	一七	三五	三・三
合計	一、六二〇	三四三	三	一四	二七	五五	九九	二・八

第五部

第三十三類 染物

審査官 齋藤修

本類ニ屬スル出品ハ點數五百四十、人員百五十ニシテ就中出品ノ最モ多キハ山形縣ニシテ其ノ約三割ヲ占メ福島、秋田、宮城、巖手ノ各縣順次之ニ亞キ青森ハ最モ少カリキ出品物ヲ通覽スルニ其ノ生地ハ絹布或ハ綿布ニシテ毛或ハ其ノ他ノ交織物ヲ見ス其ノ多クハ地方ノ受托ニ係ル黒紋付或ハ友禪裾模様等多ク裏地及染紺等ハ比較的少數ナリキ從ツテ一地方ノ物産トシテハ常盤紺形、紋紺、袴纏ノ外見ルニ足ルヘキモノナク地方産業トシテノ價值アルモノニ乏シキヲ遺憾トス以下順次各縣ノ出品ニ付概詳ヲ試ミムトス

宮城縣 出品點數九十、人員十六ニシテ染紺或ハ常盤紺形其ノ主ナルモノナリ本品ハ東北ニ於ケル物産的染色物トシテ秋田縣産染紺ト共ニ推賞スルニ足ルモノアリ其ノ染色ハ澱粉ノ代用品トシテ土糊ト稱スル一種ノ粘土ヲ使用シ該糊ニテ型付防染シ青藍ニテ浸染シタルモノニシテ硫化染料ノ輸入以來之ヲ使用スルニ至リ爲ニ幾分素地ヲ脆弱ナラシメタルモノアルモ概シテ其ノ染色堅牢ニシテ色相鮮麗ナリ且價格比較的ニ廉ナルヲ以テ今尙其ノ需需少ナカラス然レトモ其ノ意匠ハ千遍一律ニシテ十數年來其ノ進歩ノ跡ヲ見ス意匠ニ就テハ切實ニ今一段ノ研究改良ヲ望ム

印袴纏ノ出品ハ點數ニ過キサリシモ技術佳良ナルモノ多ク比較的優良品トシテ推賞ノ價值アリ

友禪類ノ地細工物ハ概シテ見ルニ足ルヘキモノナシ

福島縣 本縣ノ出品ハ點數百二十七、人員五十一ニシテ就中絹布黒紋付其ノ多數ヲ占メ絹布裾模様及小紋染ハ之ニ亞ク其ノ他紅染及信夫文字摺等種々雜多ニ亘ル就中須賀川町及白河町ノ絹布黒紋付ハ比較的優良ノ染色多カリシモ其ノ他ニ至リテハ概シテ色相區々ニシテ當今ノ嗜好ニ適セサルモノ多ク高價ナル材料ヲ使用セルニ拘ラス充分ノ注意ヲ缺キ精練及染色ノ際水洗ノ不充分ナル或ハ「カブリ」タルモノ多ク從テ光澤ニ乏シク生地ノ風合ヲ害シ摩擦ニ不堅牢ナルモノ少カラス又黒紋付中「ツヤ」刷毛ト稱シ染色後刷毛ニテ布面ヲ摩擦シ光澤ヲ附セルモノアリタルモノ之ハ單ニ光澤ヲ布ノ表面ニ與フルニ止マリ「ソコヅヤ」ヲ賞スル絹布黒紋付本來ノ趣味ヲ没却セルモノアリ

出品ニ使用セル生地ハ羽二重、斜子或ハ紹織等高價ナルモノ多ク節絹ノ本場タル本縣ニ於テ而モ平素其ノ染色物ノ多クカ節絹ナルニ拘ラス其ノ出品ノ僅少ナリシハ特ニ共進會モノトシテ製造セルニアラサルヤノ感アリ絹布裾模様染ハ一般ニ優良品少ク大體ニ於テハ山形縣ニ於ケルト同シク色合模様等ニ調和ヲ缺ケルモノ多シ特ニ注意セムコトヲ望ム若松市長谷川甚四郎ノ出品ニ係ル綿布黒紋付裾模様ハ他ノ絹布裾模様ニ比シ優秀ナルヲ認ム

節絹紅染ハ一般ニ色相鮮明ヲ缺キアク付等尙研究ヲ要スルモノ少カラス本品ノ如キハ本縣ニ於テ原料

豊富ナルヲ以テ宜シク其ノ染法ヲ究ムルニ於テハ一ノ物産ト爲サムコト至難ニアラサルヘキヲ信ス小紋染ハ意匠、色相及配色等ノ嶄新ナルモノノ乏シク染法モ亦拙劣ナリ今一層ノ研究ヲ望ム

巖手縣 本縣ノ出品ハ點數五十二、人員十三ニシテ出品ノ種類ハ紫根染、茜根染ノ外地細工物トシテハ黒紋付、裾模様、小紋織式等僅少ナカラ多種多様ニ亘リ何レモ近年多少進歩ノ跡ヲ認ムルモ概シテ技術未熟ナリ之レ單ニ地方ノ需要ニ應スルニ止マルヲ以テ熱心研究ノ上大ニ向上スルノ必要ヲ適切ニ感セサルニ因ルモノニシテ總テノ注意行届カス粗漏ノ個所多ク聯合縣中最モ不振ノ地位ニアルヲ遺憾ナリトス唯紫根染及茜根染ハ鹿角郡及本縣ノ地方的特産トシテ古來其ノ名アリ工業的物産トシテハ見ルニ足ラス一ノ骨董物トシテ僅ニ其ノ需要ヲ見ルニ過キサレモ今少シク染色ニ注意シ白ノ上リヲ鮮明ナラシメ斑紋ヲ防キ其ノ特色ヲ發揮スルニ努ムルノ要アリ左ニ最近工業試験所ニ於テ本品ニ付試験セル結果ヲ參考ノ爲記載スヘシ

紫根及「ニシゴリ」灰染色試験成績

一、紫 根

紫根中ニ含有セララルル色素ハ水ニハ不溶性ナルモ「エーテル」及「アルコール」ニ能ク溶解シテ紅色ヲ呈シ其ノ液ハ「アルカリ」溶液ニ遇ウテ青色ヲ呈ス而シテ該色素ノ「アルカリ」溶液ハ空氣中ニ暫時放置スル時ハ變質シテ暗綠色ヲ呈シ沈澱スルニ至ル又紫根中ノ色素ハ攝氏八十度以上ノ温度ニ熱スル

時ハ變質スルニ至ル其ノ變質シタル色素ハ染料トシテ素質ヲ失ヒ最早全ク價値ナキモノナルヲ以テ應用ノ際ニハ特ニ此ノ點ニ就キ注意ヲ要ス該色素ノ「アルカリ」水溶液ハ錫、鉛、銅、鐵「アルミニウム」、「クロム」、「マンガン」、「亜鉛」、「ニッケル」及「マグネシウム」等ノ水酸化物ト化合シテ種々ノ「レキ」ヲ造ル就中「アルミニウム」、「亜鉛」、「ニッケル」及「マグネシウム」、鹽類ノ「レキ」ハ其ノ色紫若クハ青色ニシテ纖維ニ應用シテ價値アルモノ其ノ他金屬鹽類ノ「レキ」ハ黑色若クハ暗紫色ニシテ應用ノ價値ナシ

紫根ヲ「エーテル」ニテ抽出スル時ハ蠟質ト共ニ色素全部ヲ抽出スルコトヲ得其ノ溶液ヨリ「エーテル」ヲ分離シ更ニ「アルコール」ニテ處理スルトキハ色素ヲ一層純粹状態ニ於テ抽出スルコトヲ得ヘシ其ノ「アルコール」ヲ分離シタル色素ノ量ハ紫根ノ重量ニ對シ六、七八%ニ相當ス色染用トシテ紫根ヨリ色素ヲ抽出スルニハ細碎セル紫根ヲ「アルカリ」水溶液ニテ處理シテ抽出シ得レトモ同時ニ色素以外ノモノヲ抽出シ色素液ヲ不鮮明ナラシムルノ虞アルカ故ニ紫根ヲ「アルコール」ニテ處理シテ色素ヲ抽出スルカ或ハ在來ノ方法ニヨリ温湯ニテ紫根ヲ處理シ浮游状態ニアル紅液ヲ分離シ更ニ其ノ搾殻ヲ「アルコール」ニテ處理シ抽出スルヲ可トス

一「ニシゴリ」灰

右「ニシゴリ」灰四十匁ヲ熱湯一升ニ投入シ之ヲ濾過シ其ノ灰汁中ニ含有スル可溶性固形物ヲ定量セ

シニ一八・三〇六% 灰量ニテ得タリ

右可溶性固形物中ニ含有スル成分ノ定量分析成績左ノ如シ

珪酸 (SiO ₂)	〇・〇五%	アルミナ (Al ₂ O ₃)	三・九二%
硫酸 (So ₃)	三三・五四%	石灰 (CaO)	〇・〇三%
炭酸 (Co ₂)	一七・六九%	苦土 (MgO)	〇・一五%
鹽素 (Cl)	二・六〇%	酸化鐵 (Fe ₂ O ₃)	〇・〇二%
加里 (K ₂ O)	四一・一五%	曹達 (NaO)	一・六二%

而シテ右成績ヨリ推定スルニ紫根染ニ對シ該灰分中ノ有効成分ハ「アルミナ」及炭酸加里ヨリ成ルモノト認ム然ラハ此等主要有効分ハ藥品ニテ容易ニ代用シ得ヘキヲ以テ現今ニ於テハ該灰ハ最早紫根染ニ於テハ價値ナキモノト認ム

一、應用法

木綿色染法「ロート」油ヲ十倍量ノ水ニ溶解シタル液中ニ精練漂白ヲ施セル綿布ヲ浸漬スルコト一夜間ニシテ一様ニ紋リ上ケ之ヲ空氣中ニ懸ケ置クコト一晝夜ノ後「トワドル」八度ノ鹽基性明礬溶液中ニ浸漬スルコト一夜間ニシテ一様ニ紋リ上ケ空氣中ニ懸ケ乾燥シ再ヒ「ロート」油溶液及鹽基性明礬溶液中ニ浸漬乾燥スルコト前記ノ如シ次ニ別器ニ木綿ノ重量ニ對シ五%ノ炭酸石灰ヲ含有スル水ヲ攝氏四十度ニ熱シ前記ノ絹布ヲ浸漬スルコト三十分間ニシテ引上ケ水洗シタル後綿布ノ重量ニ對シ

二%色素トヲ含有スル紫根色素ノ「アルコール」溶液ヲ適當量ノ水ニ注加シ色素ヲ浮游状態トナラシメタルモノ又ハ紫根ヲ破碎シ熱湯ニテ抽出シタル在來ノ紫根紅液ニ更ニ綿布ノ重量ニ對シ〇・一七%ノ苛性加里(又ハ〇・一三五%ノ苛性曹達)ヲ混合シ青色液ニ溶解セシメタル後前記媒染工程ヲ經タル綿布ヲ浸漬シ一様ニ紋リ空氣中ニ乾燥スル濃度ニ依リテハ該工程ヲ數回反覆施行スル必要アルコトアルヘシ最後ニ醋酸ノ〇・一%溶液ニ浸漬スルコト十分間ノ後引上ケ水洗シテ乾燥ス絹色染法水千分ニ對シ明礬六十分及結晶炭酸曹達六分ノ割合ヲ以テ鹽基性明礬溶液ヲ造リ之ニ精練ヲ施セル絹絲ヲ浸漬スルコト一夜間ニシテ紋リ上ケ「トワドル」〇・五度ノ珪酸曹達溶液ニ通スルコト三十分間ニシテ引上ケ水洗シ次ニ木綿ノ場合ト同様ニ染液ヲ造リ木綿ト同様ニ色染ス

秋田縣 本縣ノ出品ハ點數百六人員二十ニシテ重ナルハ常盤紺形ニシテ紺木綿、紫根染、茜根染及藍摺等各多少ノ出品アリテ受託品ノ地細工物ハ僅少ナリキ

横手町ニ産スル染紺ハ宮城縣ノ紺形ト其ノ染法大同小異ニシテ染色物トシテ當縣ノ白眉ニシテ重要ナル物産ノ一タリ由利郡本莊ニ産スル紺木綿ハ染色堅牢ニシテ實用ニ適スルモ硫化染料ヲ多量ニ使用シ脆弱ナルモノ少カラス此等ハ水洗ヲ充分ニセサル結果ニシテ注意ヲ要ス露摺ハ寧ロ一ノ名産ト稱スルニ止マリ染色物トシテ評スルニ足ラス又地細工物ハ平時ハ他地方殊ニ山形縣ヨリノ輸入ニ係ルモノ多キカ故ニ見ルヘキモノ少ク只秋田市ニ二三ノ優良品無キニアラサルモ概シテ不振ニシテ擧テ評スルニ

足ラス之ヲ要スルニ當縣ニ於テハ紺形及紺木綿等ニカヲ盡シ益々之ヲ改良シテ縣外輸出ヲ増加スルコトヲ圖ルヲ以テ適策ト認ム

紫根染ニ付テハ前記巖手縣ニ同シ

青森縣 本縣ノ染色業ハ聯合縣中比較的微々トシテ振ハス出品ハ點數十六人員五ニシテ印袴纏ノミナリキ本品ハ縣内ニ需要セラルルノミナラス多少ノ縣外輸出アリテ出品亦比較的進歩シ較々優良品アリタルモ其ノ産額少キヲ遺憾トス

山形縣 本縣ノ出品ハ點數百四十九人員四十五名ナリ出品ハ大體ニ於テ受托品タル絹布黒染、裾模様小紋及裏地等ニシテ極メテ多種ニ亘レリ

黒紋付ハ出品中最モ多數ヲ占メ優秀ナルモノ少カラス就中酒田町矢澤吉次出品ノ絹布黒染ハ色相手觸紋部上リ等總テノ點ニ於テ殊ニ優秀ニシテ所謂京都檳榔子黒ニ拮抗シ得ヘシ斯ル出品ノ今後益々多カランコトヲ望ム

裾模様ハ友禪ト共ニ聯合六縣中ノ最タルモノニシテ近時長足ノ進歩ヲ見タリ就中鶴岡方面ノ出品殊ニ技術優レ山邊町、酒田町及高畑町等ニモ二三ノ優良品アリタルカ一般ヲ通シテ模様ト總地トノ調和ヲ缺キ或ハ柄ト模様ノ高サトノ均衡ヲ失シ圖案ノ應用千遍一律ニシテ配色亦其ノ當ヲ得サルモノ多ク或ハ紋ノ大サニ於テ男子ノ紋ト同徑ノモノヲ染出セルカ如キ要スルニ需要者ノ年齢或ハ趣味ニ深キ注意

ヲ拂ハス調和ヲ缺クモノ多キヲ遺憾トス之レ畢竟需要者ノ多クカ其ノ地方ニ限ラルルカ爲ニ當業者ヲ刺戟スルコト少キニ因ルナランモ業ニ從フモノ此等ノ注意ヲ怠リテ可ナランヤ

紅染ハ酒田ノ一名産トシテ古來名アリ染色光澤共ニ見ルニ足ル只生絹ノ製産ナキ爲近年微々トシテ振ハサルヲ遺憾トス

本綿紺染裏地類ハ概シテ染色堅牢ニシテ改良ノ跡ヲ認ムルモ薄色物ニ染色堅牢ナラサルモノアリ此等ノ需要多キ品種ニ付テハ適當ノ染料ヲ選擇シ染法ノ研究ヲ行ヒ以テ益々其ノ産額ノ増進ヲ圖ラムコトヲ望ム

第三十三類 染物擬賞一覽表

縣名	出品				計	出品人員ニ對スル擬賞ノ割合
	點數	人員	一等	二等		
宮城	九〇	一六	—	—	四	二・五〇
福島	一二七	五一	—	—	二	一・三五
巖手	五二	一三	—	—	四	三・〇八
青森	一六	五	—	—	一	二・〇〇
秋田	一〇六	二〇	—	—	六	二・〇〇
山形	一四九	四五	—	—	一	二・八九
合計	五四〇	一五〇	—	—	四〇	二・六六

第五部

第三十四類 絲編物、絲組物

審査官 吉田 信一

本類ニ屬スル出品ハ羽織紐最モ多數ヲ占メ其ノ他綿「メリヤス」肌衣、靴下「レース」皿敷「パテンレース」卓掛等ノ出品アリシモ其ノ數甚タ少ク殊ニ山形縣、福島縣等ニ於ケル輸出向「レース」類ノ意外ニ少數ナリシハ遺憾トスル所ナリ

羽織紐ハ山形縣ノ出品ニ掛リ米澤商會出品ハ純絹絲、人造絹絲、綿絲等ノ配合ヲ巧ニシテ廉價ナラシメ男子用丸打、平打其ノ他女子用紐共ニ良好ナルヲ見シモ他ハ多ク技術幼稚ナルヲ免レス色合等ニ付キテモ一層ノ研究ヲ必要トスヘシ

靴下及肌衣等ハ福島、宮城、青森ヨリ出品セラレ孰レモ綿製ニシテ多クハ編物ノ整一ヲ缺キ染色亦幼稚ニシテ外觀宜シカラス肌衣ノ如キハ仕立方ニ就テモ一段ノ改良ヲ必要トス

「クロシエレース」皿敷類ハ山形縣及宮城縣ヨリ出品アリ本品ハ比較的近來ノ發達ニ係ルモノナルモ手工的製品ニシテ將來本邦ヨリノ輸出品トシテ大ニ發達ノ望アリ

戰亂以來歐羅巴ニ於ケル産地ノ生産減少シタル爲一層輸出増進ノ傾向ニ在リ山形縣出品ヲ見ルニ價格ニ於テハ相當ナルモ編製ノ技術十分ナラス殊ニ原料ノ粗悪ニ過クルモノアリ改善ヲ要ス宮城縣出品ハ

價格甚タ不廉ニシテ商品タルノ價值ナキヲ遺憾トス福島縣ノ「パテンレース」ハ相當ノ出來榮ナリ要スルニ本類出品ハ甚タ不振ナリシモ副業的製品トシテ特ニ東京地方ニ適スルモノアルヘキヲ以テ來一層ノ努力アラムコトヲ切望ニ堪ヘス
各縣ノ出品數並擬賞數ヲ表示スレハ左ノ如シ

縣名	出品數				擬賞等級				出品人員 ニ對スル 擬賞割合
	點數	人員	一等	二等	三等	四等	計		
宮城	二四	三					一	五〇〇	
福島	九	二					一	一〇〇〇	
青森	五	一						一〇〇〇	
山形	二五	五					二	五〇〇	
秋田	一九	四					一	五〇〇	
合計	八二	一五					四	二、六六	

第五部

第三十五類 染織業用器具、機械、圖案

審査官 吉岡 直富

今回ノ共進會ヲ一瞥シテ最モ遺憾ニ覺ユルハ工業製品ノ出陳點數ノ甚タ多カラサルノ一事ナリトス之レ共進會ニ出品スヘキ用意ノ缺如セル爲然ルニアラス其ノ實ハ出陳スヘキ工業製作品ノ種類多ラサルニ由ルモノニシテ由來東北ハ工業ノ發達ニ於テ最モ遅レタル地方ナリ之カ原因ハ交通、金融、兩機關ノ不備不整ナルト企業資金ノ缺如ニ由ルコト勿論ナリト雖一面ニ於テ地方人士カ未タ文明ノ趨勢ヲ知悉セス徒ニ土地萬能主義ノ因襲的觀念ニ捉ハレツ、アルカ如キハ其ノ最大原因トモ見ラルヘシ近時此等ノ原因ヲ除去シ工業發達ノ必要ヲ觀取スルノ傾向アリト雖未タ十分ナラス染織工業ノ如キ他ノ工業ニ比シ聊カ見ルニ足ルモノアレト只米澤カ内地向絲織ノ產地トシテ又川俣、鶴岡ハ輸出羽二重ノ產地トシテ本邦中較々有數ノモノニ屬スルノミ其ノ他ニ至リテハ未タ以テ盛ナリト謂フ能ハス左レト此等鶴岡、川俣及米澤カ常ニ本邦ニ於テ絹織物ニ力織機ヲ利用スルモ先驅ヲ爲セルハ一ノ奇觀ト云ハサルヘカラス之レ奥羽ニ於テ何レモ此等織機ノ發明者アリテ然ルモノニシテ東北ノ染織業發展ノ事蹟ヲ舉クルニ際リ力織機ノ發明ナル事實ハ忘ル可ラサルコトニ屬ス願レハ明治三十一年鶴岡町齊藤外市氏カ力織機ヲ發明シ特許ヲ得齋藤式ト稱シ之ヲ世ニ公ニシテヨリ羽二重カ力織機ヲ利用スル聲漸ク高マリ二階堂、平田、武田、大橋、高柳、千葉、遠藤、徳山等諸式ノ力織機ノ發明踵ヲ接シテ起リ多年手織機ニ依リ副業的ニ經營セラレシ輸出羽二重業ハ漸次工業的組織ノ下ニ此等織力機ヲ使用スルニ至リ今日ニ於テハ羽二重ニ力織機ヲ利用セサルモノ僅少ナルニ至レリ又内地向絹絲織ヲ力織機ニ依リテ完全ニ製

織セシムヘク織機ノ改良ニ付先年農商務省ハ金壹千圓ヲ補助シ八王子久保田喜右衛門ヲシテ實驗研究セシメタリシ際其ノ未タ良果ヲ見サルニ先チ米澤市西野芳太郎氏ハ一ノ織機ヲ發明シ之カ使用ヲ開始シタリ最初ハ機構宜シカラス普及スルニ至ラザリシカ漸次之ヲ改良シ次チ高柳式ノ發明アリテ山形、新潟、山梨等ニ使用セラル今日ハ未タ以テ羽二重製織ノ場合ノ如ク廣ク力織機ヲ利用スルニ至ラザルモ米澤ノミニテモ之ヲ使用スルモノ數百臺ヲ算スルニ至レリ如斯力織機ノ利用ニ依リ製品ノ品質ヲ齊整シ製産費ヲ低廉ニシテ勞力ノ効果ヲ増加シタル等ノ事蹟ハ東北ノ機械工業ヲ見ルニ當リテ特ニ記憶ヲ要スル所ナリトス今回ハ此等羽二重用カ力織機ノ出品ハ一モナク本類ニ屬スル出品ノ比較的僅少ナリシハ最モ遺憾トスル所ナリ左レト絲織用ノ西野、高柳兩氏ノ出品アリテ相互比較研究スルヲ得タリ西野式力織機ハ從來機構ニノミ拘束セラレ織機ノ堅牢耐久ヲ忘却シタルノ評アリシモ近年漸次改良ヲ加ヘ今回出品ノ織機カ大ニ此ノ如キ部分ヲ減少セルハ喜フヘキコトナリトス然レトモ尙「スプリング」ヲ使用セル部分少ナカラス更ニ一層ノ改良ヲ望ム本機ハ開口ト箆打ノ關係完全ニシテ織物ノ風合ヲ良好ナラシメ殊ニ「ドビー」ノ開口ニ曲線運動ヲ利用シ運轉ノ順逆ヲ自由ナラシメタルハ賞スヘシ將來運轉速度ヲ増シ製産力ヲ増加スルコトヲ望ム

高柳式力織機ハ卷取ニ獨特ノ裝置ヲ有シ比較的耐久力ニ富ム唯外枠「フレーム」ノ構成充分ナラサルノ爲ニ衝動アリテ織物ニ緯段ヲ生スルコトアリ

第三十五類 染織用器具、機械、圖案

四四四

横山式力織機ハ機構簡單ニシテ其ノ運轉輕快ナリ從ツテ所要動力少ク製産力ニ富ミ且價格低廉ナリ又開口及箠打ト送出シ装置ノ關聯巧妙ニシテ織物ノ風合ヲ適當ナラシム
森鍵式「タオル」力織機ハ機構ノ着想可ナルモ其ノ構成ニ工夫ヲ缺キ且材料ト運動力トノ關係ニ權衡ヲ失シ織機運轉上ノ調和ヲ妨クル所アリ從ツテ無用ノ動力ヲ要スルヲ遺憾トス
箠、綜統及杼ノ出品ハ概シテ佳良ニシテ技術練熟セルモノアリ是レ機業ノ進歩ニ隨伴セル結果ニシテ喜フヘキ事實ナリトス

圖案ノ出品ハ長井紬ノ圖案ノミニシテ二三優良ナルモノアリタルモ多クハ陳腐ナルカ又ハ實用ニ適セサルモノ多ク之ヲ論評スル價值ニ乏シ

第三十五類 染織業用器具機械圖案出品並擬賞表

縣名	出品				計	出品人員 ニ對スル 擬賞ノ割合
	點數	人員	一等	二等		
宮城					二	○
福島					二	○
青森					二	○
秋田					三	○
合計	六四	二〇	二	二	七一	五〇

第五部

第三十六類

染織業ノ經營及生産ニ關スル方法成績

審査官 吉田 信一

本類ノ出品ハ僅ニ山形縣三點アリタルノミニシテ概シテ自家ノ施行シタル方法成績ニ對スル説明トシテ不十分ニシテ或ハ自家ノ成績ニ就テハ何等捕捉スルヲ得サルカ如キモノアリ一般ニ成績ニ就テ確實ナル材料ヲ提供セス未タ顯著ナル成績ヲ擧ケタリト認ムヘキ點ナシ思フニ本類出品ノ如キハ一般製品ヲ出品スルコト能ハサル同業組合ノ如キモノニ對シテ一層出品ヲ獎勵スル必要アルモノニシテ將來此等組合ノ如キハ其ノ實際ニ施行セル方法成績ニ就キ率先シテ出品シ正確ナル材料ニ依リ十分ナル説明ヲ加ヘ以テ自家ヲ顯ハシ他ノ模範タランコトヲ期スヘク之ニ要スル統計等ハ平時ニ於テ十分用意スヘキナリ

第六部 諸工業

第三十七類

陶磁器、瓦、煉瓦、土管

第三十七類

陶磁器、瓦、煉瓦、土管

四四五

審査官 北村 彌一郎

本類ノ出品ハ聯合六縣ニ亘リ其ノ人員ハ總計九十八名ニシテ點數ハ五百六十二點ナリ之ヲ品種ニ依リ區別スル時ハ普通ニ陶磁器ト稱スルモノ最モ多數ニシテ人員ニ於テ總體ノ七割七分ヲ點數ニ於テ八割九分ヲ占メ其ノ他ヲ建築陶業品タル瓦、煉瓦、土管等トシ何レモ少數ナリ左ニ出品ノ品種別縣別人員及點數表ヲ示サン

品種別縣別出品人員及點數表

縣名	陶磁器		瓦		煉瓦		土管		合計	
	點數	人員	點數	人員	點數	人員	點數	人員	點數	人員
福島	二九〇	四六	一四	一一	一	四	四	三	三二二	五八
山形	一〇三	一四	七	一	一	一	三	二	一一三	一六
宮城	五三	七	四	一	一	一	五	四	六二	一一
秋田	二九	三	三	一	一	一	二	二	三九	六
巖手	二七	四	一	一	一	一	二	一	二七	四
青森	二	一	一	一	一	一	一	一	九	三
合計	五〇二	七四	三〇	二〇	二	一九	二	一三	五六二	九八

備考 最下部合計欄ニ於ケル人員數ノ上部各欄ノ人員數ヲ合セタルモノヨリ少數ナルハ瓦、煉瓦

及土管ノ出品者中ニ一人ニテ二種或ハ三種ヲ出品セシモノアルニ依ル

右ノ出品ニ對シ審査ノ結果擬賞セシ縣別等級別人員左ノ如シ

縣別等級別擬賞人員一覽表

縣名	出品				計	出品人員 ニ對スル 擬賞割合
	點數	人員	一等	二等		
宮城	六二	一一			一一	一・八二
福島	三二二	五八			三二二	三・二七
山形	二七	四			二七	二・五〇
青森	二七	三			二七	三・三三
秋田	三九	六			三九	三・〇〇
巖手	二七	一			二七	五・〇〇
合計	五五九	九八			五五九	三・二六

左ニ出品物ヲ普通ノ陶磁器及建築陶業品ノ二種ニ大別シテ之ヲ論評セン

陶磁器

福島縣 本縣ハ我邦東北地方ニ於ケル陶磁器第一ノ生産地ニシテ今回ノ共進會ニ於テモ亦其ノ出品ハ聯合六縣中第一ニ位シ人員及點數共ニ全出品ノ過半ヲ占有セリ其ノ産地ハ大沼郡本郷町、北會津郡川

南村、相馬郡中村町、八幡村、双葉郡大堀村ヲ主トシ其ノ他福島市、東白川郡棚倉町、岩瀬郡長沼町ニ涉レリ

大沼郡本郷町ト北會津郡川南村トハ行政上ヨリセハ郡ヲ異ニセリト雖互ニ相隣接シ製陶業上ヨリ見レハ同一區域ニシテ所謂會津燒ノ生産地ナリ製品ノ品種ハ土瓶、茶器、蓋物、花瓶、火鉢等ノ如キ所謂袋物ナル日用飲食器及什器類ト電氣用器具類ヲ主トシ其ノ品質ハ佐竹富三郎出品ノ半磁器ヲ除キ何レモ普通ノ磁器ニ屬セリ出品者中手代木榮吉ハ同地ニ於ケル熱心家ニシテ同地ノ改良發達ニ苦心セシコト少ナカラス其ノ出品モ概シテ稱スヘシ就中火鉢ヲ可ナリトセリト雖彫刻ヲ施セル花瓶ノ價格百圓ナルモノハ多大ノ手工ヲ要セシモノタルニ拘ハラズ裝飾品トシテハ成形ニ旋軸ニ拙劣採ルニ足ラス佐竹富三郎ノ半磁器ハ當地地方ニテハ同人最近ノ創製ニ係レリト雖該品種ハ數年前ヨリ京都市ニテ製出スル處ノモノニシテ半磁器ナル名稱モ同地ニ於テ付與セラレタルモノナリ其ノ品質ハ素地ハ白色ニシテ透性ヲ有セサルモ殆ント透明質ヲ有セスシテ磁器ニ近シ是レ蓋シ半磁器ナル稱呼アル所以ナリ其ノ出品ノ品種ハ茶器ヲ主トセルカカ合ノ鮮麗ナル模様ノ清楚ナル賞スルニ足ル爾餘ノ出品ニ就テハ多少ノ佳品ナキニアラサルモ一般ニ品質ニ形狀ニ模様ニ改良ノ見ルヘキモノ稀ナルハ遺憾トスル所ナリ由來會津燒ハ所謂袋物類ノ製造ヲ長所トシ廉價ニ之ヲ産出シ就中土瓶類ハ特産ニシテ單ニ内地向ノミナラス海外ニ輸出サル、コト久シキニ係ハラス停滯不振其ノ輸出額ノ増加セサルハ畢竟徒ニ舊套ヲ墨守ス

ルニ過キサルニ依ルヘク當業者ノ注意ヲ要スヘキ事ナリトス又皿類ノ如キ平物類ハ當地ニテハ原料ノ關係ヨリ其ノ製造ヲ困難トスル所ナリ之カ爲同地斯業ノ發展ヲ阻害スルコト少ナシトセス此點ニ關スル研究モ亦當業者ノ特ニ願慮スヘキ處ナリトス電氣用品ノ製造ニ就テハ漸次經驗ヲ重ね其ノ産額モ増加シ植松合名會社及湯田忠吾ノ如キ比較的良ナルモノナリト雖之ヲ關西地方ニ比スレハ未タ微々タルヲ免レス此種製品ノ改良發達ニ就テハ其ノ製造設備ヲ完全ナラシムルコト殊ニ肝要ナリ當業者之ニ留意シ其ノ設備ヲ完成シ品質ニ生産能力ニ一層進歩ヲ遂ケンコトヲ希望ス

抑本縣ノ陶磁器製造業ニ就テハ數年來縣當局者ニ於テ其ノ發達助長ニ留意シ技術者ヲ聘用シテ調査スル所アリ最近ニ至リ殊ニ會津製陶地ノ同業組合ニ補助シテ電壓試驗機ヲ設備セシメ以テ高壓碍子ノ試驗ヲ爲サシメ又當業者ヲシテ模範工場ヲ設置シ製品品質ノ改良研究ノ計畫ヲ爲サントシツ、アリシニ本年五月不幸ニシテ同地ハ未曾有ノ大災火ニ遭遇シテ製陶工場ノ燒失セルモノ少カラス之カ爲ニ其ノ實行ヲ中止スルニ至レルハ甚タ遺憾トスル所ナリ然レトモ其ノ後當業者ノ協同心力シテ坯土購買組合ヲ設ケ品質一定ノ坯土ヲ供給セントシ又生陶器共同製作所ヲ起シ機械的設備ヲ整一シ以テ斯業ノ發展ヲ計畫セントシツ、アリト云ヘハ近キ將來ニ於テ其ノ計畫ノ實現トヲ希望セスンハアラス相馬郡中村八幡村及双葉郡大堀村ノ出品ハ所謂相馬燒ニシテ品種ハ花瓶、茶器、菓子器等ヲ主トセリ同燒ハ其ノ産出古ク一種ノ雅趣ヲ有スルヲ以テ著名ナリシモ近年ノ製品ハ一般ニ俗惡ニ流レ濫ニ水金

ヲ施シ或ハ無意味ニ器面ニ凹凸ヲ付シ濫造ニ走り對或ハ組ヲ爲セル器物ノ其ノ形狀大小ノ著シク不整ナル其ノ他或ハ着畫ニ彫刻ニ嫌厭スヘクシテ却テ之ヲ付セサルヲ可ナリトスルモノ少ナシトセス唯中村町ナル田代清治右衛門ノ製品ハ舊法ヲ固守スルニ止マルモ製作温雅ニシテ粗製ニ陥レコトナキハ稱スヘク又志賀貞之進ノ白貫入品ハ稍可ナルモ施釉其ノ他一般ニ製作上ノ注意ヲ缺ケリ

福島市ノ出品ハ金澤忠右衛門一名トシ最近ノ創業ニ係レリ品質ハ磁器ニシテ釉下着畫品ト釉上着畫品トアリ其ノ製作比較的優良ニシテ着畫モ亦可ナリト雖未タ試験的時代ヲ脱セス將來益努力センコトヲ望ム

棚倉町ノ出品モ亦磁器ニシテ一名トシ所謂鹿ノ子焼ナルモノナリ其ノ色澤皓白ニシテ品質不良ナラサルモ近來其ノ産出ノ減少セルヲ聞クハ惜ムヘキナリ

長沼町ノ出品者ハ二名ニシテ是亦磁器トス品種ハ茶漬碗及井類ニシテ染附型紙着畫及銅版印刷着畫ヲ施セリ何レモ下等品ナルモ安物トシテ下等社會ノ需要ヲ充タスヲ得ヘシ此種ノ製品ハ敢テ美術的ニ精巧化スルノ要ナキモ實用的廉價品トシテモ製造上改良進步ノ餘地少ナシトセス

山形縣 本縣ハ陶磁器生産額ニ於テ聯合六縣中福島縣ニ次クモノニシテ今回ノ出品ニ於テモ亦同縣ニ次キ第二位ニアリ其ノ産地ハ南村山郡瀧山村字平清水ヲ主トシ其ノ他同郡柏倉門傳村、最上郡新庄町西置賜郡十王村ヨリ僅少ノ出品アリ

平清水産ハ所謂平清水焼ト稱スル磁器及炬器ニシテ品種ハ茶碗、皿類、德利、火鉢、植木鉢、花瓶、甕、片口、摺鉢等ノ日用飲食器及家具什器類トス抑平清水ハ縣當局者保護獎勵ノ下ニ漸ク近年世ニ現ハレタル一製陶地ニシテ其ノ産額未タ大ナラスト雖漸次其ノ製品ノ進步ヲ示シ就中千歲燒模範工場及丹羽定五郎ノ磁器ハ本會出品中比較的良好ニシテ賞スヘシト雖其ノ成形ニ燒成ニ向後改良ヲ要スヘキ點少ナシトセス尙出品中ニ見ルヲ得サリシモ丹羽定五郎ニ依テ製出サレツ、アル釉上着畫品ノ如キ將來有望ナルモノナリ是亦釉下着畫品ト共ニ一層ノ研鑽努力ヲ希望セスンハアラス當地ニ於テ俗ニ土焼ト稱セラル、炬器ハ其ノ品質技術共ニ本邦東北地方ニ於テ冠タルモノニシテ火鉢、植木鉢、甕類、便器等ヲ主製品トセリ殊ニ白色ノ衣土即化粧土ヲ以テ裝ハレ染付着畫ヲ施セルモノハ其ノ最モ特色トスル所ナリ其ノ品質ハ之ヲ關東地方ノ盆子燒笠間焼ニ比シ優秀ニシテ遠ク關西ノ信樂燒ト競ヒ得ヘク其ノ價格モ亦高カラサレハ工場設備ノ改善ト共ニ販賣組織ヲ改良セハ其ノ發展ハ蓋見ルヘキモノアラン當業者ノ願慮ヲ要ス千歲燒模範工場出品ノ「インキ」瓶ハ新ニ開キタル品種トス近來化學工業發展ト共ニ之ニ要スル炬器ノ需要大キヲ加フルニ至ルヘキヲ以テ此方面ニ對スル發展モ亦必要ナリ平清水ヨリ含鉛釉ヲ施セル黃色ナル軟質陶器ヲ出セルモノアリ其ノ製品ハ蓋物井類ヲ主トス品質粗劣ニシテ稱スルニ足ラス

新庄町ノ出品ハ土鍋、行平、糸取鍋類ニシテ十王村ノ出品ハ甕及摺鉢類ナリ何レモ價格低廉ニシテ地方ノ實用ニ適スヘキモ商品トシテノ發展ヲ爲サシメンニハ製造及販賣上一層ノ改善ヲ要ス柏倉門傳村ノ出品ハ土器七輪トス其ノ形狀製作共ニ拙劣ナリ三河産ニ倣ヒ研究セハ得ル所少ナカラサルヘシ宮城縣 出品者ハ全部仙臺市ニ屬セリ出品ハ一名ノ樂燒ヲ出セルモノアリシ外ハ何レモ炬器質粗陶器ニシテ品種ハ水甕其ノ他ノ大甕、摺鉢、植木鉢及火鉢ノ如キ粗大器ヲ主トシ其ノ他花瓶、井、抹茶器等アリ其ノ中ニ於テ花瓶抹茶器ノ如キ裝飾的或ハ雅物的製品ハ有望ナルモノニアラサルモ實用的製品ハ地方ノ需用ヲ充タスニ適スルモノニシテ其ノ生産ノ増進ハ勸奨スル所ナリ將來調土ニ成形ニ一層ノ改良ヲ切望セスンハアラス出品中久野養之助ノ製品ハ比較的良好ナリ樂燒製品ハ便器及植木鉢類トス品質粗劣ニ成形モ亦幼稚ナリ

秋田縣 本縣ノ出品ハ磁器及白泥器ノ二種トス白泥器ハ出品者二名何レモ秋田市ナリ其ノ品種ハ酒器及茶器類ヲ主トシ概シテ彫刻模様ヲ施セリ本品ハ一種ノ雅味ヲ有スルモ工業的製品タルノ價值ニ乏シク稱スルニ足ラス支那宜興ノ泥器ニ倣フテ一層ノ改良ヲ施スヲ可ナリトス磁器ノ出品者ハ秋田郡増田町ナル増田製陶合資會社ニシテ染付着畫ヲ施セルモノト白磁品トアリ着畫中ニハ筆畫ナシトセサルモ多クハ銅版印刷畫トシ品種ハ碗、皿、徳利ノ如キ日用食器ヲ主トシ僅少ノ裝飾品ヲ混セリ其ノ製作ハ何レモ幼稚ニシテ形狀甚ク不揃ナルノミナラス燒成不良ノ爲ニ或ハ着畫ノ散逸シ或ハ釉ニ罅裂ヲ生セ

シモノアリテ一般ニ試製の境遇ヲ脱セス將來一層ノ研鑽ト熟練トヲ積ミ大成センコトヲ希望ス

巖手縣 本縣ノ出品ハ盛岡市及巖手郡米内村ノ朱泥器及九戸郡長内村小久慈ノ炬器質陶器トス朱泥器ハ茶器及輪立類ヲ主製品トシ其ノ製作ハ比較的可良ニシテ秋田ノ白泥器ニ優レリト雖未タ佐渡ノ無名異燒ニ及ハス本品ハ其ノ品質上ヨリ地方土産物の製品ニ止マリ工業品製品トシテ賞讃スルヲ得ルニ至ラス本品モ亦絶ヲ支那宜興産ノ泥器ニ取リテ形狀ニ製作ニ更ニ一層ノ改良ヲ加ヘンコトヲ希望セスンハアラス炬器質陶器ハ其ノ製作未熟ナリ

以上各縣ニ涉リ其ノ出品ノ概要ヲ評記セシカ要スルニ奥羽ニ於ケル陶磁器ハ會津燒ヲ第一位トシ平清水燒及相馬燒之ニ次ク本會ノ出品ニ就テハ會津燒及平清水燒ノ兩者ハ發達ノ認めヘキモノナキニ非サリシモ相馬燒ハ舊法ヲ墨守スルニ止マレリ由來我邦ノ陶磁器製造業ハ手工的家的内のナリシカ近來其ノ製造上ニ學理ヲ應用シ機械的設備ヲ整ヘ工場組織ヲ完備セシモノ少ナカラスシテ大體ニ於テ順調ノ發達ヲ爲シ其ノ品質ニ就テモ或物ハ世界ノ商品トシテ遜色ナキニ至リ殊ニ歐洲ノ戰亂ハ斯業界ニ未曾有ノ好影響ヲ與ヘ一層ノ活況ヲ呈シツ、アルニ拘ラス聯合各縣下ニ於ケル陶磁器業ハ停滯振ハス其ノ進步ノ一般ノ大勢ニ伴ハサルハ甚ク遺憾トスル所ナリ當業者此好機ヲ利用シ奮勵努力世ノ趨勢ニ後ル、ナク製造上ニ關シテハ設備ヲ完成シテ坯土ノ調製ニ器物ノ成形ニ燒成ニ益改良ヲ加ヘ同時ニ販賣上ニ關シテハ其ノ組織ニ改善ノ方法ヲ講究シ以テ斯業ノ發展ヲ企劃センコトヲ希望セスンハアラス

瓦、煉瓦及土管

瓦 家根瓦ハ聯合六縣中巖手縣ヲ除クノ外何レモ多少ノ出品ヲ爲セリ其ノ品種ニ二種アリ一ハ素地ノ赤褐色ニシテ釉ヲ施セル所謂赤瓦ナルモノニシテ一ハ無釉ニシテ黒灰色ナル所謂黒瓦ナルモノアリ抑黒瓦ハ氣候温暖ナル地方ニ赤瓦ハ寒冷ナル地方ニ多ク使用セラル、モノナレハ聯合縣下ハ主トシテ赤瓦ノ需用地タリ從テ本會ノ出品モ亦赤瓦ヲ主トシ黒瓦ハ從位ニ立テリ

赤瓦ハ山形縣山形市金子榮作ノ製造ニ係ルモノ出品中最モ優秀ニシテ佳良ナリト雖其ノ他ハ一般ニ形狀整一ナラサルノミナラス色合及釉ノ光澤不良ニシテ統一ヲ缺キ黒瓦ハ宮城縣志田郡古川町柏葉五郎ノ棧瓦比較的可ナリシモ之ヲ關西地方産ニ比スレハ未タ及ハサル所アリ

福島縣岩瀨郡須賀川町ナル須賀川陶瓦株式會社ヨリ家根瓦以外ニ擬花崗石製建築用裝飾貼付瓦ヲ出セリ其ノ品質ハ未タ稱賛スルニ足ラス

煉瓦 煉瓦ノ出品ハ福島、秋田及青森ノ三縣ニ止マリ出品者僅カニ九名ナリ何レモ普通ノ並形赤煉瓦ニシテ手拔製トス出品中秋田縣河邊郡仁井田村戸澤銀治製端黒品最モ可ナリシモ其ノ他ハ品質形狀概シテ粗雜ニシテ賞スルニ足ラス聯合縣下ニハ福島縣湯本ニ於ケル品川白煉瓦株式會社湯本支工場ノ如キ有力ナル耐火煉瓦ノ製造工場ヲ有スルノミナラス其ノ他ニモ耐火煉瓦ノ製造者ナシトセサルニ該品ニ就テハ一ノ出品ヲ見ス

土管 土管ハ巖手縣ヲ除キ各縣ヨリ出品セリ八寸以下ノ薄土管ヲ主トシ概シテ地方ノ排水及耕地整理用ニ供給セラル、モノニシテ其ノ製作可良ナラス或ハ原料中ニ粗砂礫ヲ混合セルカ爲ニ小凸起若ハ小龜裂ノ甚シキモノアリ或ハ坏土捏練ノ不充分ナルカ爲振レノ著シキモノアリ原土ノ精選ニ坏土ノ捏練ニ成形ニ焼成ニ一層注意改良ヲ要ス秋田縣北秋田郡大館町金澤慶吉ハ厚土管ヲ出セリ其ノ口徑ハ尺五ト尺トス出品中ノ最大ナルモノニシテ其ノ品質モ比較的佳ナリ

以上建築陶業品タル瓦煉瓦及土管ノ出品ニ就テ其ノ概要ヲ記述セシカ要スルニ本會ニ於ケル建築陶業品ハ一般ニ手製品ニシテ品質ハ粗惡ニ製作技術ハ拙劣ナリ而モ其ノ生産供給力モ亦微々トシテ工業的價值甚タ貧弱ナリ從テ其ノ擬賞ハ何レモ四等賞ノミニ止マリテ高級ノ褒賞ナカリシハ亦止ムヲ得サリシナリ抑モ建築陶業品ハ何レモ多量ノ原料ヲ要シ而モ坏土ノ捏練ハ極メテ緊要ニシテ其ノ良否ハ製品品質ニ緊密多大ノ關係ヲ有シ又製品ノ多クハ其ノ形狀頗ル簡單ニシテ同一品ヲ多量ニ要スルモノナレハ其ノ製造上ニ機械力應用ノ極メテ適切ナルハ多辯ヲ要セサル所ナリ之ニ加フルニ文化ノ進步ハ勞働賃金ノ増加ヲ促シシ教育ノ普及ハ勞働者ヲシテ冬季跣足ニテ坏土ヲ踏練スルカ如キ操作ヲ厭忌セシムル傾向ヲ有スルカ故ニ關西地方ニ在テハ西洋ヨリノ移植工業タル煉瓦製造業ハ勿論土管製造ニ於テモ本邦在來ノ家根瓦製造ニ於テモ機械力ヲ應用スルモノ漸次多キヲ加ヘテ好成績ヲ擧ケツ、アルニ東北ニ於ケル斯業ハ依然トシテ手工的ニ安シ其ノ進步ノ見ルヘキモノ稀ナルハ概スヘキナリ今ヤ我邦ノ建

築界ハ益不燃質材料ノ使用ヲ要求シ又歐洲ノ戰亂ハ工場建築及土木事業ノ繁盛ヲ促スアリテ我邦建築
陶業品製造ノ前途ハ益有望ナレハ斯業ヲシテ機械的タラシムルノ有利ナルハ益著大ナリトス當業者深
ク此點ニ留意シ其ノ進步發展ヲ企圖センコトヲ希望セスンハアラサルナリ

第六部

第三十八類 漆器、漆地

審査官 牧 瀨 三 郎

澤 口 悟 一

本類ノ出品ハ聯合六縣共ニ漆器ヲ産スルヲ以テ其數頗ル多ク出品ノ總數千八百一點人員四百十三人ニ
及ヘリ隨テ各產地ニ於テ夫々特有ノ技能ヲ發揮シ互ニ競争出陳ノ狀ヲ呈シ與羽地方ニ於ケル他ノ工産
品ニ比シ漆器工業ノ優勢ナルコトヲ示セリ

此等出品ヲ通覽スルニ内地向日用品最モ多ク次ニ裝飾品、佛壇、漆地等ノ多種多方面ニ亘レリ漆地、
髹漆、蒔繪及其ノ他ノ裝飾ハ區々ニシテ漆地ニ乾燥不充分ナルモノアリ形狀ハ概ネ素朴ニシテ變化ニ
乏シク髹漆ハ漆地ヲ主トシ漆堅地之ニ次キ膠地ハ單ニ佛壇ニ應用セシニ過キス上塗ハ塗立過半ヲ占メ
製漆法ニ不充分ナルモノアリ又其裝置ノ不完全ニ起因スル缺點アリ蠟色塗ハ未タ圓熟ノ域ニ達セサル

モノ多シ裝飾ハ陳套ヲ脱セサルモノ多ク中ニハ圖按ノ嶄新ナルモノアリ又技工ノ見ルヘキモノアリト
雖共ニ研練未タ充分ナラス且意匠圖按ト髹漆其ノ他ノ技術トノ調品ヲ缺キタルモノ多キハ洵ニ遺憾ト
ス故ニ概シテ地方的製品タルニ止マリ一般ノ嗜好ニ適セス販路ハ狭少ニシテ産額ノ増大セサル一原因
ヲ爲セリ將來販路ヲ擴張セントシテ從來ノ製品ヲ提ケ中央市場ニ臨ムカ如キハ寧ロ徒勞ニ屬スヘキヲ
以テ先ツ須ラク舊弊ヲ打破シ意匠圖按ニ改良ヲ加ヘ實質ノ堅牢ヲ期シ時勢ノ變遷ニ伴ヒ用途ノ適否ヲ
考ヘ又裝飾ニハ一般ノ注意ヲ加ヘテ嶄新ニシテ趣味アルモノト爲シ而シテ一般人士ノ嗜好ニ投スルト
共ニ一面ニハ機械力ヲ應用シ工費ヲ節減シ實質ヲ損セスシテ廉價ノモノト爲シ他ト競争ノ餘地ヲ作リ
常ニ優勝ノ地位ヲ確保スルノミナラス更ニ進ンテ海外ニ輸出ノ途ヲ開拓スルノ覺悟ヲ要ス
今回ノ出品中遅々トシテ進歩セサルモノアレトモ概シテ從來ノ缺點ヲ反省シ益々改善進歩ノ趨勢ヲ示
シタルハ本業ノ爲メ最モ慶スヘシ
審査ハ豫テ審査長ノ指示セラレタル方針ニ基キ慎重審議ヲ遂ケ其ノ賞格ニ上レルモノ百二十六名ニ及
ヘリ

出品人員等級別擬賞數等左表ノ如シ

縣 名	出 品		擬 賞 等 級					出品人員 ニ對スル 擬賞割合
	點 數	人 員	一 等	二 等	三 等	四 等	計	
宮 城	三三二	七〇	一	三	五	一一	一〇	二・八五

第三十八類 漆器、漆地

縣名	出品		擬賞等級				計	出品人員 ニ對スル 擬賞割合
	點數	人員	一等	二等	三等	四等		
福島	六一六	一三九	二	五	九	四〇	二・八七	
巖手	一〇八	三八	一	一	一	一三	三・四二	
青森	六七	九	一	一	一	四	四・四四	
秋田	二〇四	三六	一	三	五	一六	四・四四	
山形	四七四	一一一	一	五	九	三三	二・七二	
合計	一八〇一	四一三	六	一八	三三	一二六	三・〇五	

縣別評論

宮城縣 本縣ノ出品ハ仙臺市ノ板物類ヲ主トシ玉造郡鳴子ノ丸物類之ニ次ケリ仙臺市ハ根來塗多ク梨子地塗其ノ他蠟色塗ニ屬スルモノ多數ヲ占メ塗立ハ少數ナリ根來塗ハ塗色艶麗ニシテ優良ナルモノ少ナカラス梨子地塗ハ塗層凹凸ヲ存シ平坦ナラス蠟色塗ハ技術未タ請巧ノ域ニ達セス又塗立ハ他縣ニ比シ遜色アルヲ以テ共ニ一段ノ研究ト練磨ヲ要ス意匠ハ更ニ進歩ノ迹ナク形狀ハ一定セルカ如ク變化無キヲ遺憾トス次ニ木彫衝立及堆朱塗ハ其技術未タ熟達セサルモ將來大ニ改良ヲ加ヘ研究ヲ怠ラサルニ於テハ或ハ仙臺漆器トシテ聲價ヲ揚クルニ足ランカ蒔繪ハ幼稚ニシテ評スルノ價值ナシ

鳴子漆器ハ往年本縣ノ主産地ナリシニ拘ラス今ハ萎微振ハサルハ遺憾ニ堪エス當業者ハ其ノ原因ヲ究メ驟然トシテ大改良ヲ加ヘ奮勵以テ其ノ名聲ヲ復活セサル可ラス當地方ハ大形挽物ノ製作ニ秀テ今回

ノ出品又賞スルニ足ルヘキモノアリ猶鬼首村其他ヲ抱括スルヲ以テ丸物漆地ノ豊富ト板物漆地ノ廉價ナル點ハ甚タ有望ナリ、然ルニ漆地ニテ他ニ販出スルカ如キハ甚タ不可ナリ特ニ當業者ノ反省ヲ望ム漆地ハ玉造郡鬼首村及名取郡秋保村ヨリ出品アリ少數ナレトモ構造堅牢ニシテ價格低廉ナリ然レトモ形狀及技術上ニ於テ改良ノ餘地ヲ存スルヲ以テ當業者ハ相戒メ互ニ製品ノ改善ト産額ノ増大ニ盡力セサル可カラス

福島縣 本縣ノ出品ハ最も多數ニシテ品質優良ナルモノ多シ然レトモ形狀ニ改良ヲ加ヘタルモノ乏シク髹漆ハ熟練シテ澁滯ナシト雖塗立ノ技術未タ以テ他ニ誇ルニ足ラス蠟色塗及變塗ハ尙一段ノ練習ヲ要ス下地ハ從來ノ澁地ニ満足セス之ヲ改良シ更ニ堅牢度ヲ増進セサル可ラス特ニ日用飲食器ニ於テ必要トス次ニ上等物ニハ漆堅地ノ製作ヲ奨勵セサル可ラス最も堅牢ナル漆器ハ常ニ漆堅地ヲ要ス又上等蒔繪ノ發達ニ伴ヒ之ト調和スベキ漆器ヲ必要トナスヲ以テナリ蒔繪ハ益々進歩ノ趨勢ヲ示シ技工ノ推賞スヘキモノ多シ然レトモ往々圖樣及技工共ニ消蒔繪ノ風習ヲ帶ヒ品位乏シキヲ缺點トナスハ今後ノ研究練習ニ依リテ脱スルコト蓋シ至難ナラサル可シ消蒔繪モ亦圖樣繁雜ニ流レス金鈔ノ材料美ニノミ賴ラス單ニ模様トシテ見ラルヘキ圖按ヲ蒔繪セサル可ラス

喜多方町出品ハ形式構造共ニ若松市出品ト同様ナレトモ其技及ハサルヲ以テ一層ノ研究ト努力ヲ望ンテ止マス特ニ本縣當業者ノ猛省セサルヘカラサルハ從來本縣ハ我國漆器界ノ重鎮トシテ東北地方ニ其

ノ盛名ヲ恣ニセント雖近來四隣ノ斯業界ニ急激ナル進歩ヲ加ヘ本縣ノ壘ヲ摩セントスルモノアレハ一層ノ努力ヲ盡セ、ル可カラス又我國輸出漆器ニ先鞭ヲ付ケタル本縣ハ往年ノ元氣ナク若松市ノ如キハ殆ント顧ミルモノナキハ洵ニ遺憾ニ堪エス

巖手縣 本縣ノ出品ハ二戸郡荒澤村ト瞻澤郡衣川村ト對抗シ尙盛岡市ヨリ比較的多數ノ出品アリタルハ喜フヘシ荒澤村ハ山間ニシテ農業少ク漆器及本地挽業ヲ副業トナスモノ多シ爲ニ意匠技術ノ進歩ニ關シ多ク注意ヲ拂ハサルカ如ク主トシテ日用ノ椀類ヲ製出セリ形狀粗剛ニシテ髹技未タ幼稚ナルモ價格ノ低廉ナル點ニ至リテハ實ニ全國ニ冠タリ

衣川村ハ丸物ト共ニ板物ノ日用品ヲ出陳セルモ一般ノ技術尙充分ナラサルヲ以テ荒澤村ト共ニ技工ノ練習ヲ要シテ止マサルナリ

盛岡市ノ出品ハ髹漆見ルヘキモノアリ又南部繪ヲ復活シテ應用シタルモノアリ雅致愛スヘシト雖之ニ因ハル、コトナク更ニ新意匠ヲ加ヘテ益々其ノ特色ヲ發揮スヘシ概シテ本縣ハ他ノ産地ニ比シ徑庭アルヲ以テ一層ノ奮勵ト努力ヲ要ス

青森縣 本縣ノ出品ハ人員點數共ニ少數ニシテ專ラ津輕塗ナリ品質ノ堅牢ナル點ハ他ニ優越セリト雖意匠髹漆概ネ單調ニシテ變化ニ乏シク或ハ同一手法ヲ繰返シテ繁雜ニ流レ徒ラニ勞力ヲ費シ美感ヲ損スルノ弊アリ之ハ一ニ津輕塗ノ舊法ニ因ハレタルノ結果ニシテ當業者ノ反省セサル可ラサル點ナリ今

回ノ出品中此等ノ缺點ヲ改良シ更ニ乾漆粉具類等ヲ應用シテ新生面ヲ開キタルモノアレハ大ニ喜フヘシ次ニ内部ノ塗立ハ一般ニ未熟ナルヲ以テ塗立ニ一段ノ研究ヲ加ヘ裝飾ヲ簡潔ニシ價格ヲ低廉ナラシメサル可ラス漆地ハ頑固ニ過キ鈍重ノ感アルヲ以テ用途ニ從ヒ適宜改良ヲ加フヘシ

秋田縣 本縣ノ出品ハ雄勝郡川連村大部分ニシテ能代町之ニ次ケリ川連村ハ日用品ヲ主トシ能代町ハ專ラ春慶塗ヲ出陳セリ能代春慶ノ名古來著名ナリト雖千遍一律ニシテ毫モ進歩ノ迹ナク管ニ舊法ヲ墨守シテ斯業ノ趨勢ヲ顧ミサルカ爲單ニ名物ノ名ヲ存スルニ過キサルハ甚タ遺憾トス須ク意匠ヲ改良シ圓熟シタル技能ヲ廣ク應用シテ其ノ眞價ヲ發揚セサルヘカラス尙近來春慶塗ノ優品ハ各地ニ産出セラレントスルヲ以テ昔日ノ如ク本縣ノ獨占ヲ許サ、ルコトヲ忘ルヘカラス

川連漆器ハ近年其ノ進歩著シク從來ノ面目ヲ一新セリ髹漆ハ塗立蠟色塗共ニ優品少ナカラス澁下地ノ堅牢ナルコトハ他ニ優越セリ蒔繪ハ技工着實ニシテ圖按見ルヘキモノ少ナカラサルモ前途遠遠ノ感アリ沈金ニ新工夫ヲ凝シタルハ喜フヘシ漆地ハ形狀素朴ニシテ一般ノ嗜好ニ適セス且乾燥ノ不充分ナルモノ少カラス尙漆地、髹漆、蒔繪ノ應用其ノ當ヲ得ス不調和ニ陥リタルモノ往々アルハ遺憾トス當業者小成ニ安ンセス一致協力シテ益々奮勵スルニ於テハ蓋シ將來ノ大成至難ナラサルヘシ

山形縣 本縣ノ出品ハ福島縣ニ次キ多數ニシテ技術ノ進歩著シク努力ノ跡歴然タルモノアリ而シテ舊藩ノ關係ヨリ山形市ト庄内方面トハ自然形式及製法ヲ異ニセリ山形市ハ範ヲ若松市ニ採リ準會津式ナ

リ庄内方面ハ鶴岡町ヲ中心トシ酒田町等之ニ屬セリ鶴岡町ハ舊藩時代ヨリ其ノ業連續シ漆堅地ニシテ殊ニ竹塗ノ技ニ長ス酒田町ハ廉價ナル日用品ヲ特色トス

鶴岡町ノ竹塗ハ意匠技工動モスレハ雅致ヲ缺クノ弊アリ價格亦不廉ノ嫌アルヲ以テ技術ノ研究ト共ニ價格ノ低廉ヲ期セサルヘカラス

山形市ハ髹漆、蒔繪ノ技術長足ノ進歩ヲ爲シ將ニ福島縣ノ勁敵タラントス而シテ蠟色塗ニ於テハ寧ロ其ノ優レルヲ認メサルヲ得ス蒔繪ハ技工精良ナルモノアレトモ若松市ト等シク蒔繪ニ囚ハレタルノ弊アリ改良ヲ要ス

本縣ハ丸物用ノ適材豐富ナルニ拘ラス丸物ノ産出少キハ甚タ遺憾トス郡部出品ハ樺如輪木ノ製品少ナカラサルモ塗色鮮麗ナラス徒ニ高價材ヲ濫用シタルノ感アリ斯カル製品ハ内部ニ狂ヒ少キ木材ヲ用ヒ外部ニ薄板ノ練材ヲ使用シ木材ノ經濟ト實用ノ便トヲ計ラサル可ラス

佛壇ハ山形市ノ出品大部ヲ占メ技術概シテ幼稚ニシテ彫刻、髹漆、金具ヲ通シテ改良研究ノ餘地充分存スルヲ以テ今後一層ノ努力ヲ要ス尙價格ノ低廉ト産額ノ増大ヲ期セサル可ラス出品中彫刻ノ技術稍見ルヘキモノアリタルモ高價ニ過キ普通商品ニ適セサルノ憾アリ

第六部

第三十九類 金屬製品

審査官 伊藤 宜良

本類ニ屬スル出品人員ハ三百三十四名ニシテ其ノ點數一千六百七十四點ナリ便宜上之ヲ金銀銅器鑄造品及利器ニ大別シ前者ニ在リテハ岡崎雪聲、山本久次郎、後者ニ在リテハ加藤東一郎ノ審査員諸氏ト共ニ審査ニ從事セリ其ノ出品人員並點數左ノ如シ

金屬製品、出品人員及點數表

縣名	金銀銅器及鑄造品		利器		合計	
	人員	點數	人員	點數	人員	點數
宮城	六	三三	五	九	一一	四二
福島	三	一五	四	三	六	一七〇
巖手	六一	二六七	〇	〇	六一	二六七
青森	一	五	二	〇	三	七〇
秋田	三二	二四三	一	九	六二	三六二
山形	六六	五一四	二	九	六八	七六三
計	一六三	一、〇七七	一六五	五九七	三二八	一、六七四

更ニ本類ノ擬賞等級別人員ヲ掲クレハ左ノ如シ

第三十九類金屬製品擬賞一覽表

縣名	出品人員	擬賞等級				計	出品人員ニ對スル擬賞ノ割合
		一	二	三	四		
宮城	一一					一一	三・六二
福島	四六					一一	三・二六
巖手	六一					二二	二・九五
青森	二二					一一	二・一三
秋田	六二					一一	二・五八
山形	一一					一一	三・五一
計	三三四	一一	一三	一九	七一	一〇四	三・一一

今本類出品ノ概評ヲ爲サンニ今回ノ出品ハ東京大正博覽會ニ於ケル六縣ノ出品ニ比スルニ概シテ進歩ノ跡アリ此種工業ノ爲洵ニ人意ヲ強フスルニ足ルモノ尠カラズ更ニ互ニ製作技術ニ於テ研究シ競争シ材料ノ購入、製品ノ販賣ニ於テ協同セハ斯業ノ合理的發達ヲ爲スコト蓋シ難事ナラサルヘク當局者從來ノ盡瘁ヲ感謝スルト同時ニ尙一段ノ指導獎勵ヲ望ムヤ切ナリ

概評ヲ縣別ニ述フレハ左ノ如シ
宮城縣 同縣ノ出品ハ點數僅ニ四十二ニシテ利器並鑄物ニ於テハ特ニ評スヘキモノヲ見出スコト能ハサリシモ辻多利治ノ貴金屬製裝身具並辻文治ノ煙管ニハ意匠殊ニ彫刻ニ於テ見ルヘキモノアリ此種ノ製品ニ在リテハ場内ニ冠タリ蓋シ聯合縣中第一ノ都會タル仙臺市ノ地ノ利ノ然ラシムル所ナルカ

福島縣 同縣出品ノ鑄造物ハ其ノ數極メテ少ク技術上亦許スヘキモノナシ須加川ニハ由來古雅掬スヘキ鐵器アリト聞キシニ之ヲ見ルコトヲ得サリシハ遺憾ト謂フヘシ煙管モ亦普通ナリ

利器ハ日下部重道ノ庖丁類、神田重則ノ下駄職用具等見ルヘキモノ少カラス特ニ日下部ノ庖丁ハ大阪府堺新堀縣三條ノ名作ニ比スルモ毫モ遜色ナキノミナラス寧ろ優等ナリト認メタリ但シ出及ノ刃元ノ較々薄クシテ骨ヲ切ルニ適良ナラサルノ憾アリ概シテ同縣ノ出及ハ少シク薄ク薄及ハ較々厚キニ失スルノ感アリ

同縣若松市ハ古來鋸ヲ以テ名アリ殊ニ近年動力應用ノ鏈ヲ用ヒテ鋸身ノ延展ヲ爲シ及先ノ形成及ヒ燒入法ニ於テ合理的經濟的改良ヲ加ヘツ、アリト聞キシニ今回ノ出品ヲ硬^{スレスコ}度計ニ依リ檢定セル結果ニ依レハ優等ト稱スルヲ得ス且及先ノ「燒キナマシ」ヲ施シタルモノハ較々軟キニ失セルモノ多カリシヲ遺憾トス猛省研究ヲ望ム

巖手縣 同縣ノ出品ハ鐵瓶、湯釜、風呂、鍋釜等ノ鑄造品ニシテ殊ニ鐵瓶ハ百九十一點ノ多キニ達シ南部鐵瓶カ如何ニ同縣金屬業ニ於ケル重要品ナルカヲ示シテ餘アリ

大正博覽會ニ於ケル南部鐵瓶ハ形狀着色共ニ優等品ニ乏シカリシカ今回ノ出品ニハ此等ノ點ニ於テ研究ノ跡著シク特ニ金澤千代吉、有阪重次郎ノ出品ノ如キハ大ニ稱スルニ足リ尙一般ニ品位ノ向上セルヲ見ルハ喜フヘシト雖未タ手取り重ク火受ケ厚キモノ多シトス、鐵瓶ノ釣ハ由來緩ミ易キモノナレト

モ出品中ニハ嵌メ込ミ法ニ依リ安全ニ固定セルモノ賞スヘキコト、ス、平形鐵瓶ニ於テ嘴ヲ肩部高ク附シテ嘴内ト身内トノ水面ヲシテ一ナラシメ沸騰ノ際、湯溢レヲ防ケルモノアリ漸次實用的方面ニモ研究ノ及ヘルヲ喜フ

風呂及釜ハ漸次正シキ形狀ヲ失フカ如ク特ニ耳ニハ殆ト缺點ナキモノヲ見出シ得サリシヲ遺憾トス此等古式アルモノハ之ニ準據スルヲ可トスヘク古名作ノ寫シハ其ノ要領ヲ失ハサル様注意ヲ要ス

同縣ノ鐵瓶並湯釜ニハ從來往々鑄疵ヲ鐵漆ニテ填充セルモノアリシカ今回ノ出品ニハ盡ク檢定ノ證票ヲ貼附シ無疵及鐵氣止メヲ保證セリ此事ハ平時ノ販賣ニモ之ヲ履行スト云フ洵ニ一大美事ト謂フヘシ更ニ製作者並販賣者ノ印ヲ捺シ責任ヲ明ニセハ將來一層其ノ信用ヲ博シ大ニ斯業ノ發展ヲ期シ得ヘシト信ス

青森縣 同縣ノ出品ハ極メテ微々タルモノニシテ技術ニ於テモ藤田英太郎ノ鎌、三橋金平ノ漁業用庖丁、苫部地由太郎ノ機械鉋ノ外ハ見ルニ足ルモノナシ機械鉋ハ産額多カラサレトモ經木桐紙ノ製作ニ頗ル適當セルヲ認ム

秋田縣 同縣出品中利器ニハ人見助之丞ノ打及物ノ如キ其ノ他山刀、鎌、鋏等ノ農工具ノ如キ銅鐵鑄物ノ如キ見ルヘキモノ無キニアラスト雖場中最モ人目ヲ惹ケルモノハ銀器ナリトス秋田銀器ハ従前ノ共進會博覽會等ノ審査ニ於テ常ニ模様打出ヲ勸メラレツ、アリシカ今ヤ當業者モ大ニ反省スル所アル

モノ、如ク片切彫ノミニ偏スルノ迂ヲ脱シタルハ大ニ喜フヘシト雖未タ鈍目ノ雅致ヲ學ヘルモノ少キヲ遺憾トス又其ノ打出セル模様ハ肉厚キニ失シタルモノ多ク恰モ銀鍍金セル「アンチモニー」製品ノ如キ感アルヲ以テ品位高シト謂フヲ得ス更ニ一層ノ研究ヲ要ス又硫化加里ヲ以テ黒色ヲ附シ若ハ赤銅黃金等ノ部分鍍金ヲ爲シテ象嵌ヲ擬スルカ如キハ銀器トシテハ其ノ品位ヲ低落セシムルモノト謂フヘシ

鐵瓶ハ近來製作家著シク増シ形狀較々可ナリト雖塗漆ノ光澤多ク巖手縣等ノ製品ニ比シ下品タルヲ免レス鍔入鐵瓶ハ餘リニ奇矯ノ感アリ且多數製作シ得サルノ憾アリトス

紫銅色銅器ニハ着色較々可ナルモノアレトモ品種形狀トモ陳腐ト謂ハサルヲ得ス今少シク時勢ニ適應セル作品ヲ望ム

山形縣 同縣ハ或ハ講習ニ或ハ技術教師ノ聘用等ニ依リテ金屬工業ノ獎勵ニ盡力セルコト頗ル多ク近來著シキ進歩ヲ示セルト今回共進會ノ主催縣タルトノ故ヲ以テ當業者ノ意氣頗ル盛ニシテ出品人員並點數トモ金屬製品全體ノ三分ノ一以上ヲ占メ品質亦頗ル優等ナルモノ多ク從ツテ受賞ノ等級其ノ數ニ於テモ嶄然頭角ヲ顯セリ

山形市ノ鐵瓶並銅器ハ輒近頗ル佳境ニ入り用實の方面ニ在リテハ重量輕ク火受薄ク水切良ク釣附ノ安固ナルモノ等頗ル多ク美的及技術的の方面ニ在リテハ湯口ノ止リ手際良ク恰好着色並模様等頗ル良好ナ

ルモノ多カリシハ喜フヘキコト、ステニ鐵瓶ノ模様ハ砂肌上ニ施シタルヲ以テ平易ニ而カモ上品ニシテ落着キ良シ菊地熊治ノ出品ハ以上ノ諸點ヲ具備スルモノ多ク以テ他ノ範ト爲スニ足ルモノナリ

青銅器ノ進歩モ亦鐵瓶ニ讓ラス特ニ彫刻ノ圖樣肉取等ニ於テ其ノ然ルヲ見ル、青銅置物ニ在リテモ獅子、鶴、馬等頗ル見ルニ足ルモノアリ馬像ハ世界共通の置物ニシテ奥羽ハ馬ノ名産地ナレハ原型研究上多大ノ便益アリ益々此種置物製作ノ研究ヲ望ム

銅鐵ノ鑄造品ニハ頗ル大形ノ出品アリ其ノ成績ニ依レハ技術進歩著シキヲ證スルニ足ルモノアリ

山形市ノ鋸、米澤市ノ鍋ハ福島市ノ料理庖丁ト等シク奥羽産利器中ノ白眉ト稱スルヲ得ヘシ「シヨール」氏ノ硬度計ニ依リ鋸ノ硬度ヲ檢セル成績ニ依レハ横引ハ及先五乃至六五度、及元六〇乃至七〇度、縦引ハ及先五〇乃至六〇、及元五五乃至六五度ニシテ略ホ理想ニ近キヲ見タルハ大ニ喜フヘシ

當地方ノ鎌ハ背厚ク及薄ク且彎曲セルヲ以テ鍛冶充分ニシテ且彈力アリ草刈用トシテ最モ適良ナリ而シテ其ノ販路ノ兵庫縣三木ノ鎌、長野縣諏訪ノ鋸等ニ及ハサルコト甚タ遠キハ自製販賣ヲ主トシ間屋取引ノ法ヲ採サルニ職由スルニアラサルカ攷究ヲ望ム

終ニ蒞ミ聯合各縣ニ希望シタキハ金屬工業ニ關スル學理的研究ニ付當業者ヲ一層指導獎勵スルト同時ニ硬度計立體顯微鏡等ノ設備「ゲーヂ」ノ設定、販賣方法ノ協定等ニ關シ充分ナル補助ヲ與ヘラレンコト之ナリ

第六部

第四十類 紙、紙製品

審査官 牧 瀨 三 郎

紙及紙製品ハ青森縣ヲ除ク外各聯合縣多少ノ出品アラサルナク出品ノ品種ハ主トシテ楮皮ヲ原料トセル手漉紙ニシテ半紙、美濃紙、障子紙、傘紙、麻布紙、仲折紙、蠶卵臺紙等ノ和紙類多ク木質バルブ薬等ノ代用紙料ヲ配合セルモノ極メテ少シ紙製品トシテハ和傘、防水紙及油紙加工品、紙箱提灯等ニシテ其ノ出品總數五百五點、人員三百八十三名ニ及ヘリ

各縣別出品人員、出品點數、擬賞數、及擬賞割合ヲ表示スレハ左ノ如シ

紙及紙製品擬賞一覽表

縣 名	出 品					計	出品人員ニ對スル擬賞割合
	點數	人員	一等	二等	三等		
宮 城 縣	一二四	六一				一〇	二〇六二
福 島 縣	八七	六五				一六	二〇九二
青 森 縣	一七一	八六			四	一九	二〇六七
合 計							

縣名	出品		擬賞等級				出品人員ニ對スル擬賞ノ割合
	點數	人員	一等	二等	三等	四等	
秋田縣	一四	八				二	二・五〇
山形縣	一〇九	六三			一	二	三・三三
計	五〇五	二八三		一	一五	六五	二・八六

今各縣出品ニ付之カ概評ヲ試ムルコト左ノ如シ

宮城縣 本縣ノ出品ハ強製紙、障子紙、美濃紙、傘紙、料紙等ナリ強製紙ハ特許二五七七五號及第二四〇五〇號ノ防水加工紙ニシテ其ノ品質強靱佳良頗ル實用ニ適ス更ニ實用廣キ應用製品ヲ研究シ以テ益々其ノ販路ノ擴張ヲ期スヘシ名取漉紙モ亦品質優良賞スヘシ

本縣ノ傘ハ出品多カラス蛇目傘ハ較々佳ナル普通品ト稱スヘク仕上梨地塗ハ寧ロ色漆塗上ニスルヲ可トスヘク掛絲不同ノ爲松葉骨ニ歪ヲ生スルモノアルカ如キ若ハ澁色奴傘ニ染色ノ引斑アル等注意ヲ要ス

福島縣 本縣ノ産紙ハ半紙、美濃紙ニシテ紙質良好ナルモノ多シ、改良半紙ハ品質佳良ナルヲ認ムラムラクハ木質バルブノ濫用ヲ慎ミ紙質ノ強靱ヲ期スヘク生紙、強力紙等ハ益々生産ヲ獎勵シ斯業ノ發展ヲ期セサル可カラズ

仲折紙、大奉紙等ニアリテハ紙質ノ粗ニシテ販路狭少ナルヲ以テ論スルニ足ラス
相馬傘ハ亦評スルノ價值ナシ

巖手縣 本縣ノ産紙ハ障子紙ノ出品多數ニシテ紙質ハ強靱ナルモ抄紙ノ技術盡ク舊法ニ屬シ色澤不良ニシテ軟質ナルモノ多シ一段ノ改良ヲ要ス

紙製品トシテハ防水水囊應用宜シキヲ得タリ進テ輸出ノ増加ヲ期スヘシ、番傘ハ出品多數ニシテ品質亦一般ニ堅牢實用ニ適スルモノ多キハ賞スヘキモ形態較々大ニ過クルモノアリ今少シク小型ニ仕上ケ廣ク縣外ノ需要ニ應スル製品ヲ産出スルニ努ムヘク往々ニシテ仕上粗笨ナルモノアリ注意ヲ要ス軒絲掛ハ絲ノ本數ヲ多クシ二重軒ヲ除ク方得策ナルヘシ

秋田縣 本縣ノ産紙ハ美濃紙、半紙等出品僅少殆ント評スヘキモノナシ加工紙落摺紙モ亦名物ト稱スルニ過キス更ニ需要廣キ普通日本紙ノ産出ニ努力セサル可カラズ

山形縣 本縣ノ産紙中特産麻布紙ハ品質精良ナルモノ多キハ賞スヘシ只産額ノ多カラサルヲ惜ム且出品中往々ニシテ徒ニ外觀ヲ美ナラシメントシテ天具帖風ノ組織ニ轉化セントスル傾アルモノアリ麻布紙トシテハ寧ロ其ノ本色ヲ損スルモノト稱スヘク務メテ從來ノ漆濾用ニ適スル強靱ナル特質ヲ發揮セムニトシテ望ム天具帖紙トシテハ更ニ品種ヲ改メテ新タナル産出ヲ標示スルヲ可トセン

深山仲折紙ハ紙質強靱ニシテ賞スヘキモ舊法ヲ脱却セサルヲ以テ進テ抄紙ノ方法ヲ改善シ以テ楮紙ノ美質ヲ發揮スルニ努ム可シ蠶卵臺紙ハ紙質概シテ佳良寧ロ材料ノ浪費ヲ惜ム心紙トシテ混合紙ヲ利用シ適當ノ耐水サイズヲ施スヲ可トセム其ノ厚味ニ在リテモ中ニハ紙質柔軟ニシテ非常ニ厚キニ過キタ

ルモノアリ或ハ亦餘リニ薄キニ過タルモノ等厚薄宜シキヲ得サルモノアルハ注意ヲ要ス
 紙製品トシテハ番傘實用ニ適スルモ價高シ蛇目傘ハ虚飾ニ馳セテ實用ニ遠シ油及紙ハ一般ニ佳良ニシ
 テ骨拵亦優良ナルモノ多キモ往々ニシテ染色ニ班アルモノ轆轤ノ形狀不良ナルモノ仕上ノ不完全ナル
 モノ等アリ改良ヲ要ス提灯ハ出品僅少製作亦平凡何等ノ進歩ヲ認メス特ニ評スヘキモノ無シ
 之ヲ要スルニ東北ノ製紙ハ楮皮ヲ紙料トセル純粹手漉紙多ク舊製日本紙ニ屬スル障子紙、美濃紙、半
 紙、傘紙等紙質ハ一般ニ強韌ナルモ技工尙幼稚ナルヲ免カレズ漉判小ニシテ勞力ヲ要スルコト多ク、
 漂白不充分ニシテ色合ノ不良ナルモノ原料精選ノ不行届ナル爲メ塵埃ノ多キモノ手打叩解ノ不完全ナ
 ル爲纖維固結シ紙面均整ヲ缺ケルモノ紙料煮熟ノ不充分ナル爲蒸班アルモノ、水洗度ニ過キ紙質柔軟
 ニシテ和紙特有ノ光澤ヲ損スルモノ、若ハ厚薄不同ナルモノ、或ハ漉班、板目、刷毛切レ、水泡、刷毛
 皺、汚レ、床腐レ、竇亂、斷歪ミ等數ヘ來レハ缺點多クシテ諸般ノ注意ト改良トヲ要スル所少ナカラ
 ス。貴重ナル楮紙料ヲ以テ粗惡ナル劣等ノ紙ヲ抄造セルモノニテ進歩ノ跡ヲ認ムルコト尠ナキハ遺憾
 ナリ、尙往々ニシテ製紙ノ用途ニ不適當ナルモノ多ク、障子紙ニ在リテ色合濃厚ニ過キ、透明度不充
 ナルモノアリ甚シキハ障子紙ニ糊入レシタルモノ傘紙ノ餘リ薄キニ過キタルモノ、蠶卵臺紙ノ餘リ厚
 キニ失シタルモノ、文書用紙ノ餘リニ柔カキモノアリ、一般ニ張金引ヲ施サ、ル舊式ノ漉桁ヲ使用スル
 モノ多キ爲厚キ桁跡ヲ印スルモノ多キ等抄紙ノ方法舊習ヲ脱セス改良ヲ要スヘキ點甚タ多キヲ認ム、

希クハ機械ノ應用ト抄紙技術改良ト相俟テ産額ノ増加ヲ圖リ以テ東北産紙業ノ發展ヲ期センコトヲ

第六部

第四十一類 筆硯石盤、白墨等ノ文房具

審査官 秋 保 安 治

文房具ノ出品ハ宮城縣ノ二百三點ヲ最多トシ巖手、秋田、山形ノ四縣ニ涉ルト雖其ノ出品ノ種類ハ筆
 硯、石盤、石盤、白墨等ノ外ニ出テス而シテ其ノ審査ノ結果左表ノ如シ

第四十一類 擬賞一覽表

縣名	出品						計	出品人員ニ對スル擬賞ノ割合
	點數	人員	一等	二等	三等	四等		
宮城	二〇三	三三			五	六	一二	三・六三
福島								
巖手	六三	九				二	三	三・三〇
青森								
秋田	三	一					一	一〇〇〇
山形	二九	九				三	四	四〇〇
合計	二九八	五二			八	一一	二〇	三・八四

今本類ノ出品ヲ通覽スルニ毛筆ニ於テハ各縣競フテ其ノ品質ヲ精選シ工作ヲ親切ニシツ、アルモノ、如ク價格ニ比シ品質ノ優良ナルモノ多キハ喜フヘシ特ニ宮城縣小村長三部出品ノ毛筆ハ極メテ丁寧親切ナル製作トシテ賞スルニ足ル唯此等ノ毛筆ノ原料タル多クハ聯合縣外ヨリ來ルモノナレハ工賃ノ低廉ニシテ他ニ比シテ生産費ノ少ナキモノアルニアラサレハ此事業ノ將來ハ大ニ樂觀スルヲ許サ、ルナリ況ンヤ萬年筆鉛筆ベン等ノ日ニ月ニ其ノ用途ヲ擴大シ來ルアルニ於テオヤ、故ニ實用的商品トシテ之カ販路ヲ擴大セントスルニハ根本的ニ工作ノ方法ニ向ツテ研究ヲ試ムルノ必要アルヲ感ス然ルニ現在ニ於テハ從來ノ方法ノ外何等機械力ノ應用モナク加工方法ニ新ナル工夫モナキハ研究ノ必要ヲ自覺セサルノ致ス所ナランカ當業者ノ考慮ヲ望ム

硯ハ宮城縣產ノモノ普通商品トシテ廣ク販路ヲ有スルハ原料產地トシテ當然ナルモ價格モ廉ニ品質モ相當ニ注意ヲ拂ヒタル製作ナレハ無難ナリ
 巖手縣ノ硯ハ特殊原料ニ依ルモノナレハ一般商品トシテ之ヲ觀ルコト尙早ノ感アルモ一層加工ノ意匠形式及技術ニ力ヲ致シテ特殊ノ名産トシテ販路ノ擴大ニ努ムヘキナリ
 白墨ハ山形縣ノ外出品ナク品質加工共ニ適當ニシテ原料產出ノ狀況ニ依リテハ販路狹カラサル商品ナレハ一層ノ奮勵ヲ要ス

之ヲ要スルニ文具中ニハ今回出品セラレタル種類ノ外現ニ地方的ノ品種モ少カラス加フルニ近時海

外輸出ノ著シク増加シツ、アル品種ナレハ東北地方ニ於テモ此種ノ當業者ハ單ニ從來製造シ來レル筆硯等ニ限ラス木材紙等ヲ原料トスル文具及附屬品等ニ向ツテ手ヲ觸ル、カ如キハ今日ノ時勢ニ於テ努力スヘキコト、信ス

第六部

第四十二類

疊表、莫蔭、繩、苳、叭、藁草履、草鞋

審査官 松 倉 順 一

本類ニ於ケル藁製品ノ出品ハ宮城最モ多ク巖手、福島、青森、順次之ニ次キ山形、秋田ハ最モ少シ而シテ繩類ハ宮城ヲ最トシ是ニ次キテ秋田、青森、福島等トス又草鞋類ニ至リテハ山形、秋田最モ多ク巖手、宮城、福島之ニ次ク擬賞一覽表次ノ如シ

疊表、莫蔭、繩、苳、叭、藁草履、草鞋、擬賞一覽表

縣名	出品				級計	出品人員ニ對スル擬賞ノ割合
	點數	人員	一等	二等		
宮城	一四七	一三二	一	一	二四	三〇
福島	六〇	五六	一	一	九	一六
						二〇二七
						二〇八六

第四十二類

疊表、莫蔭、繩、苳、叭、藁草履、草鞋

四七五

縣名	出品數	擬賞等級				計	出品人員ニ對スル擬賞ノ割合
		一等	二等	三等	四等		
巖手	六一		一			一三	二〇六五
青森	七四		四		八	一六	二〇五八
秋田	九八		二	五	一六	二三	二〇六四
山形	七六		一	四	一二	一七	二〇六五
合計	五一六		一〇	二八	七七	一一五	二〇五五

蘭製品

由來東北ノ地ハ蘭製品ニ於テ見ルヘキモノアルニ拘ラス今回出品ノ振ハサリシヲ遺憾トス之ヲ農表ニ見ルニ一、二ノ出品ハ地質色澤等中國地方ノ本場品ニ對シ稍々比肩シ得ルモノヲ認メタルモ概シテ其ノ程度ノ未タ及ハサルヲ知レリ原料トシテハ蘭草ハ硬軟何レカノ一方ニ偏シ又製織ニ方リテハ蘭草ノ根部ニ赤色ノ錆ヲ有スルモノ若ハ頭部枯死シテ茶褐色ヲ呈スルモノヲ混織シ又材料ノ色合細太ノ選擇ヲ怠リ頗ル品相ヲ損スルモノアルモ見タリ而シテ莫産類ニ於テモ亦疊表ト略々其ノ軌ヲ一ニシ一般ニ地合薄キニ過キ又花苧ハ其ノ出品少數ナリシモ概シテ幼稚ノ域ヲ脱セサルヲ遺憾トス今少シク各縣ニ涉リテ批評ヲ試ムレハ山形縣出品ハ蘭質柔軟ニ過キ色澤不良根部ニ白色若ハ赤褐色ヲ呈セルモノアリ又開花センモノヲ使用シテ織成シ毛取不十分ナルヲ以テ地荒甚シクシテ外觀甚タ惡シク着莫産ニ於テ殊

ニ此ノ感多キヲ覺ヘタリ而シテ青森縣出品ハ一、二原料ノ色澤硬度及製織等ニ於テ佳良ナルモノアルヲ見タルモ尙一層ノ研究ヲ要スヘク又秋田縣出品ハ品質左迄惡シカラサリシモ出品點數僅少ニシテ批評ノ餘地ナキヲ憾ム尙巖手、宮城兩縣出品ハ可ナリ見ルニ足ルモノアリシモ全般ヨリ云ヘハ原料ノ色合不良、製織不十分ナル嫌アルモノアリ又福島縣出品ハ甚タシキ劣等品ヲ認メサルモ出品少數ナリシテ以テ全般ヲ知ルコト能ハサリシヲ遺憾トス

以上ノ結果ヨリ見レハ各縣共ニ織成技術ニ於テ尙大ナル努力ヲ要スヘキヤ勿論ナリト雖又原料栽培法ニ對スル研究ハ最モ必要ニシテ其ノ原料ノ良否ハ直ニ其ノ製作品ノ品相及品質ニ影響ヲ及ホスモノナルコトヲ忘ルヘカラス

今蘭製品ニ於ケル全國生産額ヲ見ルニ一日平均職工五名以上ヲ使用スル工場製品ハ僅ニ二十萬圓内外ヲ算フルニ過キササルニ反シテ農家ノ副業製品ハ左表ニ示スカ如ク七百萬圓以上ニ達シ輸出ハ花苧二百二十八萬圓疊表八萬圓ニシテ當時ニ於テハ尙未タ振ハサル狀勢ニアルモ内地用品ノ需要増進シツ、アレハ農家ノ重要副業品トシテ益々其ノ改善ニ努力スヘキナリ

農家ノ副業ヨリ成ル蘭製品生産統計表

兵庫	一四二、七四〇	埼玉	一三、九三五	静岡	四六八、七九九
新潟	一七、九七三	三重	一五、八三七	宮城	二四一、〇三二

山形	四六、六〇二	岡	三、三四八、六三九	計	七、一九七、四四一
佐賀	六二、二一〇	島根	一三八、九七九	沖繩	二九、六二〇
福岡	五九九、七三〇	島取	一一、六四六	熊本	二四九、〇三七
青森	一二、六四三	富山	四二、七七七	山口	二五、三四一
巖手	三〇、九八四	石川	三〇五、五八六	廣島	一、二〇八、八二四
福島	三二、四四一	福井	三二、〇六六	島	一、二〇八、八二四

花蔦類輸出高十ヶ年統計表

年	連	製	單	製	疊	表
明治三十九年	五、六〇一、六七八	二二七、九六七				
同四十年	五、五三五、六一八	二〇七、六六一				
同四十一年	五、五五九、八四一	二〇五、二二二				
同四十二年	四、三一五、八一三	二八六、二一一				
同四十三年	二、九四六、三八五	九九〇、八九一				
同四十四年	二、三八二、〇〇〇	一、三六四、四三四				
大正元年	二、一四〇、〇〇三	一、六一二、八七〇				
同二年	一、八七六、五二八	二、一七七、八七七				
同三年	一、二四八、八〇二	一、五六五、〇七一				九〇、五六九
同四年	八八七、〇一六	一、三九三、七九五				八六、〇五三

藁工品 藁工品ハ本邦ニ於ケル最モ有力ナル産地ヲ聯合縣内ニ有スル關係上極メテ多數ノ出品ヲ見タリ此ノ内最モ多數ナルヲ繩草鞋類トシ此等ニ次クラ蔦叭類トシ何レモ圓熟セル工技ヲ示セルモノ尠カラス是レ大ニ推賞スヘキコトナリト雖同時ニ其ノ缺點モ亦明カニ指摘シ得ラル、ヲ遺憾トス即チ材料タル稻藁ニ於テ乾燥ノ不充分ナルモノハ藁打ノ適當ナラサルモノ及ヒ葉鞘ノ除去不充分ナルモノ又製品トシテノ蔦ニ於ケル厚薄ノ度著シキモノ繩ニ於ケル線度ノ細太甚シキモノ叭ニ於ケル縫接不充分ナルモノ草鞋ニ於ケル前「ツボ」及踵付ノ不備ナルモノ若ハ緒ノ細キニ失シテ實用的ナラサルモノ等尠多クノ研究ヲ要スルモノアルカ如キ是レナリ

今大正三年ニ於ケル農商務統計(平均一日職工五人以上使用スル工場製品)ノ表示スル所ニ據リ藁工品ノ生産ヲ見ルニ兵庫三二四五一〇圓、靜岡二一、八五二圓、石川一七〇圓、岡山二八、一六〇圓、愛知七八〇圓、滋賀四、五〇〇圓、鳥取一、二〇〇圓、廣島二、九〇六圓、徳島二〇〇圓、福岡一〇五圓、總計三十八萬四千二百八十三圓ニシテ其ノ生産ノ極メテ微々タルモノナルヲ知ル是レ藁工品ハ大部分農家ノ副業ニ成リ斯ル工場製品ハ僅ニ其ノ一部分ヲ占ムルノミナルカ爲メニシテ更ニ之ヲ農商務省農務局ノ調査ニ係ル大正元年農家副業ニ關スル調査ニ掲載スル所ニ見ルニ其ノ統計ニ表示セラル、モノ、ミニ於テ己ニ八百八十餘萬圓ニ達スルカ如キ其一證トスヘシ元來藁工品ハ其ノ製作ヨリ得ル利潤極メテ薄キモ原料ハ概ネ自家生産ニ係リ操作亦簡易ナルヲ以テ農家ノ副業ニ適シ且其ノ多クハ包装材料品タルヲ以テ内地工業ノ發展

ト隨伴シテ需用増進スヘキモノナレハ頗ル有望ナル商品タリ一層ノ奮勵ナカラサル可カラス而シテ其ノ輸出ニ至リテハ主ニ朝鮮、關東州方面ノ需用ニ限ラレ農産品水産品等ノ包装用ニ供セラレ明治四十年頃ハ輸出旺盛ニシテ其ノ額百萬圓以上ニ達シタルカ本邦ノ需用増加其ノ他ノ原因ニ依リ近來ハ五、六萬圓ニ減シ萎靡振ハサリシモ大正三年以後再ヒ増進ノ傾向ヲ示セリ

本邦農家副業藥品縣別生産統計表

北海道	五九、一〇〇	茨城	三二七、五四六	石川	五〇九、二二四
東京	六五、二六四	滋賀	一三〇、三一二	富山	九九四、八九七
京都	二〇五、七四九	長野	五〇、五四八	鳥取	二八、六五九
大阪	三七三、九四一	宮城	二〇二、二四〇	島根	四一、六四〇
神奈川	一九、〇九三	福島	五七五、七五四	廣島	二六三、一三四
兵庫	一、一九三、五九五	巖手	二七三、九六八	和歌山	二九、五三八
長崎	四五、一〇〇	青森	三一、八五九	合計	八、八五〇、〇二三
新潟	二八九、二四六	山形	二六四、二七六		
埼玉	四四五、七八〇	秋田	五〇〇、〇〇〇		
千葉	五〇〇、七二六	福井	二一六、一七五		

藥製繩索吹及蕨輸出十ヶ年統計表

明治三十九年

九一九、七三四

同四十年

一、五一四、六九七

同四十一年	一、一一六、九八二	大正元年	六五、五八二
同四十二年	一、三二〇、六六六	同二年	六八、五九八
同四十三年	五七七、二五六	同三年	一一六、五一三
同四十四年	六六、二六六	同四年	一一四、六四五

第六部

第四十三類

指物、家具、建具、挽物等ノ木工品

審査官 秋保安吉

本類ノ出品ハ指物、和洋家具、挽物、曲物、桶、樽、杖等ノ多種ヲ網羅シ其ノ出品者ノ範圍モ宮城縣ノ百二人ヲ最多トシテ聯合各縣ニ涉リ其ノ出品人員二百六十三名出品點數實ニ一千四十三點ノ多キヲ算セリ而シテ此等ノ商品タル多クハ奥羽地方ニ生産多キ木材ヲ基礎トシ且大部分ノ加工ヲ手工ニ依頼スル性質ノモノナレハ奥羽地方ノ工業品トシテハ頗ル適切ナルモノナリ然ルニ從來秋田木材株式會社及秋田木工株式會社等ノ製品ノ外未タ海外ニ輸出スルモノナキノミナラス内地他府縣ニ向ツテノ移出ヲサヘ觀ルコトヲ得サリシハ洵ニ遺憾ナル事實ニシテ東北振興ノ上ニモ放任シ難キ感ナキニアラス蓋シ東北地方ハ交地ノ便比較的少ナク専門智識ノ普及到ラサルモノアルヲ以テ材料ノ豊富ニシテ工賃ノ甚タ不廉ナラサルニモ拘ラス此結果ヲ觀ツ、アルモノト想像セラル、ヲ以テ今回ノ出品審査ニ當リテモ専ラ力ヲ學理應用ト意匠圖案ノ巧拙トニ置キ尙移輸出品トシテ適否ノ上ヨリ之ヲ觀察調査シタル結

果賞格ニ入ルモノ一等賞以下七十一名ヲ出スヲ得タリ其ノ出品人員點數及擬賞數等左表ノ如シ

第四十三類 擬賞一覽表

縣名	出品人員				擬賞等級				出品人員ニ對スル擬賞ノ割合
	點數	人員	一等	二等	三等	四等	計		
宮城	三三九	一〇二				五	一三	二〇	二〇五
福島	八三	二三					六	七	三〇四
巖手	三七	六					二	二	三〇三
青森	七五	二六			一		二	三	一〇一五
秋田	二三四	四二					八	一六	三八一
山形	二一五	六五					一	六	三三八
合計	九八三	二六四	一	五	一七	四七	七〇	二〇六	二六九

今之ヲ各縣ニ就テ精査スレハ宮城縣ニ於テハ仙臺箆筒ヲ中心トシテ和洋各種ノ家具ヲ網羅シ加フルニ埋木細工ヲ以テシ福島縣ハ洋風家具ニ於テ出色アリ巖手縣ハ樺細工ヲ李村理平治ノ名作アリ青森縣ニハ樺樽及曲物等ノ出品比較的多ク秋田縣ハ西洋家具ニ於テ東北ニ冠タルノ觀ヲ呈シ而シテ山形縣ニ於テハ箆筒及黒柿細工火鉢等甚タ多ク且品質モ不良ナラス更ニ進ンテ左ニ之カ細評ヲ試ミム

宮城縣 出品人員ト其ノ點數トニ於テ確カニ東北一ノ大都會ヲ有スルヲ證據立ツルモノアリ由來家具指物等ノ類ハ都會人口ノ多少ニ比例シテ發達スルモノト稱スルヲ得ヘキ性質ノモノニシテ此見地ヨリ

スレハ其ノ人員點數等ノ宮城縣ニ最大ナルハ素ヨリ其ノ所ニシテ且品質優良ナルモノモ亦本縣ニ觀ルヲ得ヘキ理ナリ然ルニ今回ノ出品ヲ觀來レハ本縣ノ家具指物ハ遠ク福島縣ニ開催セラレ共進會當時ノ出品ニ比シテ優ル所甚タカラス西洋家具ニ於テ島田利八出品ノ卓子椅子書棚等ノ組物ヲ除キテハ殆ント舊習ヲ脱セス進歩ノ蹟極メテ乏シキハ洵ニ遺憾ナリ

仙臺箆筒ハ仙臺市ノ特色アルモノトシテ一時ハ海外ニモ多少ノ賣行ヲ觀タルモノナレハ爾來改良ニ力ヲ致スニ於テハ今回ノ如キハ大ニ發展シ居ルヘキ筈ノモノナルニ本品サヘ何等改善ノ跡ナク形體ニ於テハ更ニ衣食住ノ變遷ニ注意シタル改良ナク其ノ構造ニ於テハ寸法、格恰殆ント千遍一律箆筒本來ノ目的ヲ如何ニ解釋シタル製作ナリヤヲ把握スルニ困シマサルヲ得ス一重ネ八十圓乃至百圓ト云フ代價ヨリ測レハ室内裝飾品ノ意味ニ於テ作ラレタルモノト見做スヘキカ如キモ其ノ意匠構造等ヨリ之ヲ觀レハ裝飾的價值殆ント之ナク實用品トシテハ其ノ引出シ乃至服盆等ノ寸法形式ニ根據ナク且異常ナル高價ヲ保ツ所殆ント其ノ價值ヲ認ムル能ハス今ヤ東京地方ノ產出スル實用箆筒ハ縱令實用的ニハ甚タ軟弱ナリト云フト雖其ノ一重ネノ價實ニ十圓以下ニ到ルモノアリ若シ夫レ室内裝飾ノ意味ヲ加味セル高等ノ品種ニ至レハ其ノ代價ニ殆ント限度ナシト雖七十圓以上ヲ值スルモノハ意匠形體金具等實ニ日本建築ト調和シ而モ相當堅牢ニシテ重量甚タ輕シ今ヤ交通日ニ益々便トナルニ從ツテ東京箆筒ノ中等品ハ實ニ一重ネ十圓八十圓位ニテ宮城縣ニ達ス故ニ宮城縣ニ箆筒ヲ製スルモノ若シモ之ヲ縣外ニ輸出

セントスルニ於テハ可及的重量ヲ減スルコト形體ヲ成ルヘク均一ニスルコト金物ヲ軟弱ナラサル程度ニ少クスルコト等ヲ考究セサルヘカラス以上ノ見地ヨリ觀テ本縣ノ簞笥ハ其ノ何レニモ不適當ナレハ甚タ當ヲ得サルモノト言ハサルヘカラス

簞笥以外ノ日本家具ハ特ニ批評ヲ加フヘキモノ殆ント無シ簞笥ノミ多キニ拘ラス之ニ附帶スヘキ鏡臺針箱、火鉢、用簞笥、机、本箱等ノ種類ノ極メテ稀ニシテ而モ簞笥ノ千遍一律ナルニ引換ヘ餘リニ雜多ニシテ實用上面白シト思ハル、一定ノ形式ヲ認メサルハ甚タ遺憾ナリ簞笥ノ如キモノハ多シ生産ヲ爲スコトニ依リテ始メテ廉價ニシテ且堅牢ナルモノヲ得ヘキ性質ノ家具ナレハ或方面ヨリ觀察スレハ簞笥ハ東京等ノ大市場ニ半加工品ヲ木材產地ヨリ集メ此處ニ加工仕上ヲ爲シテ再ヒ各地ニ販賣スルノ方法ニ出ルヲ寧ロ勝レリトスルモノアレトモ鏡臺針箱等附隨の小物ニ至リテハ然ラス寧ロ地方的ニ産出スルニ適スル性質ノ品物ナレハ本縣ノ如キモ此等ノモノニ向ツテハ一層ノ奮發ヲ要スモノト認ム

本縣ノ西洋家具ハ意匠、仕上、構造等總テノ點ニ於テ更ニ研究ノ跡ヲ見出シ得ス極言スレハ素人ノ根底ナキ試作トモ評スヘキ亂雜ナルモノニシテ洋服棚及書架等何レモ西洋建築ノ縮圖ヲ觀ルノ感ナキ能ハサルハ缺點ナリ建築ト其ノ内ニ裝飾サルヘキ家具トハ其ノ意匠ノ根本ヲ異ニセサルヘカラス島田出品ノ西洋家具モ此ノ點ニハ缺點ナキヲ得サルモマホガニト色ヲ試ミタルコト及象嵌等ノ試ミニ於テ餘リニ新奇ヲ街ハス比較的技術ノ宜シキヲ得タルハ賞スルニ足ル西洋家具業ノ發展上聯合各縣中最モ都

合宜シキ位置ニアル本縣カ西洋家具ノ研究ト實現トニ於テ秋田福島ニ及ハサルコト遠キカ如キハ寧ロ奇異ナリト云フノ外ナシ宜シク講習、視察、講話、展覽會其ノ他種々ナル方法ニ依リテ他ノ利ニ適スル發展ヲ畫スルハ刻下ノ急務ナルト同時ニ當業者ニ於テモ工業技術ノ事ハ政治法律等トハ大ニ其ノ趣ヲ異ニシ其ノ教ヲ聞クヘキノ士ハ必スシモ天下ノ大家ヲ要スルニアラス要ハ舊慣ヲ棄テ心ヲ虛フシテ他山ノ石ヲ研磨ノ料ニ採用スルノ雅量ヲ養ヒ依テ以テ經濟的ニ解決ヲ策スレハ足ルモノナレハ此點ニ於テ將來ニ向ツテ大ニ反省ヲ望マサルヲ得ス

次ニ特産埋木ニ至リテハ曩ニ明治四十一年福島主催ノ共進會ノ出品ニ對シ余ノ審査報告ニ指摘シタル批評ヲ再茲ニ繰返スコトヲ要スルヲ悲ム

此埋木ハ元來脆弱ノモノナレハ之ヲ以テ組立テタル箱物等ヲ作ルハ實用上價值ナキモノナルヲ以テ主トシテ茶托盆等ノ平物ヲ作ルヲ適當ト認ム、然ルニ今回ノ出品ヲ觀ルニ床置キノ如キ彫刻物ヨリ糞入、菓子器等ノ組物ノ少ナカラサルハ甚タ意ヲ得サル所ナリ(中略)埋木細工ノ價值ハ埋木其ノ物ノ材質ヲ以テ立ツニアルヲ以テ徒ラニ拙劣ナル彫刻等ヲ施スヲ避ケ寧ロ其ノ形態ト仕上ケトニ一層ノ奮勵ヲ試ムルヲ要ス云々

トハ當時ノ報告中ノ一節ナリ爾來將二十年ナラントシテ再ヒ此言ヲ繰返サ、ルヲ得サルハ又以テ其ノ進歩ノ遅々タルヲ證明スルモノト謂ハサルヘカラス今回ノ出品中盆ノ製作意匠及技術ニ於テ又彫刻ア

ル手袋管ノ如キ短冊入ノ如キ技術較ヤ觀ルヘク意匠ノ高尚ナルモノアルヲ得タルハ喜フヘシト雖將來ハ成ルヘク從來嘗テ應用セサリシ方面ニシテ餘リニ材質ヲ選フノ必要ナク力ヲ要セサル種類ヲ試ミルノ要アルヘシ例令ハペン皿及ペン軸等文房具ノ一部ニ應用ヲ試ムルモ面白カルヘク又他ノ家具殊ニ小ナル指物類ニ對スル寄木、象箆材料トシテ應用ヲ試ムルモ可ナラン先年農商務省商品改良仙臺市立工業學校ヨリ小テーブルノ甲板ニ埋木ヲ寄木材ニ用ヒタル出品アリシヲ喜ヒタリシカ此苗ハ遂ニ生長セサリシト見エタリ昨年桑港博覽會ニ出品シタリシ石垣ギノホーク、スプーン其ノ他ハ全部賣約濟トナリシモ此等ハ將來ニ研究ヲ要スル種類ナルヘシ要スルニ埋木細工ハ相當ノ厚サヲ有シ表面積ノ大ナラサル平物菜箱位ニ止メ而シテ價格ヲ一層低廉ナラシムル工夫ヲ要スヘシ

福島縣 福島縣ノ出品中ニハ箆筒及西洋家具多ク就中西洋家具ニ於テ特色ヲ呈スルモノアリ鈴木直太郎出品ノ如キハ西洋家具各種類ヲ網羅シ工作モ意匠モ優良ト稱スルヲ得サルモ楓ノ貼木及象箆ノ應用等舊套ヲ脱シテ現在ノ實用品ニ力ヲ致シ價格モ實用品トシテ適當ナレハ將來ニ於テモ徒ラニセセツシヨン等ノ新奇ニ流レサルコト並意匠圖案及構造ノ形態ニ於テ複雜ニ失セサルコトニ注意シ堅牢ニシテ低廉ナルモノヲ作ルコトニ研究ヲ進ムルニ於テハ販路ノ擴大ヲ致スヲ得ヘシ一般ニ地方ニ於テ新奇ナル製作ヲ試ミルノ場合ニハ往々ニシテ意匠濃艶ニ失シ構造複雜ニ過クルヲ以テ徒ラニ軟弱ヲ加ヘ實用的價值ヲ減シ且價格ノ不廉ヲ來シ而モ却テ全體ノ調和ヲ破リ前面ニ於テ裝飾品ナルカ如クニシテ側面

ヨリ觀レハ實用品ノ低級品タルカ如キモノヲ製出スルニ至ルハ通弊ト認ムヘキ點ニシテ今回本縣出品ノ西洋家具ニハ明カニ此共通ノ缺點ヲ表現シ就中大橋忠助ノ出品ニ於テ甚シキヲ觀ル大橋出品ノ小卓又ハ椅子等ハ最新ノ西洋風ニ日本趣味ヲ加ヘテ和洋兩用ニ充テント企テタルハ寔ニ時好ニ投シタル考案ナレトモ不幸ニシテ意匠工作之ニ伴ハス爲ニ却ツテ俗惡ニシテ上流ノ用ニ適セス高價ニシテ中流以下ノ需用ニ間ニ合ハサルモノト成リ終リタルハ實ニ遺憾ナリ象箆ト稱シ寄木ト稱スルモ織物ニ模様アリ正服ニ定紋アルカ如キ程度ニ收メサルヘカラス徒ラニ寄木ヲ用ヒ所嫌ハスニ模様ヲ配シテ其ノ製品ノ緋リヲ失ヒ中心ナキ落付カサルモノト爲セルヲ以テ將來此點ニ大ニ注意スルヲ要ス

日本家具出品ノ大部分ハ箆筒ニシテ工作ハ拙劣ナラスト雖其ノ材料ノ適用及仕上及仕上ケ等ニ至リテハ尙大ニ改良研究ヲ爲スヘキコト多シ宮城縣出品ニ就テ說述セル所ヲ參照シテ改良ヲ企圖スルヲ望ム終リニ和洋家具ノ全體ヲ通シテ述フヘキコトハ構造及意匠ノ補助材タル金物ノ形體大小並色彩等ニ關スル一事ナリ金具ヲ用フル目的ハ構造ノ堅牢ヲ主トスルモノナルモ之ヲ外形ニ現ハスニ於テハ裝飾ノ意味ニ合致セサルヘカラス然ルニ裝飾ヲ目的トシテ其ノ構造ノ堅牢ヲ助成スルノ意味ヲ没却シタルカ如キ出品ナキニアラス此等ハ藝術的作品ニ於テハ當然ナランモ實用的商品トシテハ極メテ誤レルノ企圖ナリ。前面ヨリ觀タル表面積ノ甚タ大ニシテ一見極メテ堅牢ニ而モ其厚サ異常ニ薄キカ爲ニ實用的目的ヲ達シ居ラサルモノ又ハ厚サ大サ適當ナルモ其ノ之ヲ取付クル釘ノ寸法甚タ短細ニシテ「ナイフ」

ヲ以テ能ク之ヲ剝脱シ得ルカ如キモノアリ何レモ改良ヲ要スルモノトス。然レトモ福島縣出品ノ全部ヲ通覽スレハ前年福島市ニ於テ開催セル共進會當時ニ比スレハ實ニ其ノ進歩ノ度ニ於テ隔世ノ感アリ努力ノ跡大ニ稱揚セサルヘカラス望ムラクハ種々ナル機會ヲ利用シテ需要者ノ眼識ヲ養ハシメ以テ斯ノ如キ努力ノ結果カ容易ニ地方人ニ認識セラレテ工作者ノ研究ヲ新タナラシムルニ努メンコトヲ巖手縣 巖手縣ノ出品ハ其ノ數甚ダ少ナク別ニ評スヘキノ價値ヲ認ムルヲ得スト雖唯季村理平治出品ノ樺細工ト池野金太郎出品ノ刷毛ハ逸スヘカラサルモノニ屬ス季村理平治ハ樺ノ貼付ニ妙ヲ得タルノ工人ニシテ今回ノ出品モ亦其ノ技甚タ巧ナリト雖其ノ試ミタル出品カ何レモ實用ノ商品トシテ之ヲ見ルコト能ハス特殊ノ嗜好ニ投スル藝術品ト其ノ方面ヲ同ウシテ而モ藝術品トシテ探ルニ足ルノ意匠形體ヲ具備セサルハ遺憾ナリ樺細工ノ缺點ハ貼付ノ軟弱ニ存スルコトハ言フ俟ス從テ同氏ノ如キ技巧ハ此種商品ノ發展上大ニ歡迎セサルヘカラス望ムラクハ此巧妙ナル技術ヲ或ハ楊子入ノ如キ或ハ家具用半加工材(例合ハ袋戸ノ鏡板ノ如キ)等ニ應用スルヲ努メラレンコトヲ。

次ニ池野金太郎出品ノ刷毛ハ必スシモ特ニ稱揚スヘキ優良品ニアラスト雖東北地方殊ニ馬毛ヲ主トスル刷毛類ヲ馬產地ノ本縣ニ試ミタルハ枯渴セル奥羽ノ産業上ニ一大光明ヲ認ムルノ感アリ且創業後日尙淺キニ比シテハ工作ノ技術モ惡カラス價格モ比較的低廉ニシテ前途ニ矚目スヘキモノタリ當業者ニ於テ將來益々技術ヲ研磨シ以テ生産費ノ低廉ヲ計ルコト肝要ナラシ

青森縣 青森モ亦曲物種類等ヲ除キテハ其ノ出品殆ント言フニ足ルモノナク津輕檜ノ產地ニシテ需要少ナカラサル北海道ヲ前面ニ控ユル本縣トシテハ甚ダ奮發ノ足ラサルヲ思ハサルヘカラス近來弘前ニ於ケル縣立工業學校青森市ノ經營ニ係ル徒弟學校及八戸町立ノ工業徒弟學校等何レモ本工科ヲ設置シテ銳意之カ改良ニ腐心シツ、アレハ當業者ハ宜シク此等ニ就テ改良方法ノ研究ヲ爲スヘク殊ニ縣立工業學校カ參考館ニ出セル製作品ノ如キハ隱健ニシテ新奇ヲ街ハス意匠嶄新ニシテ而モ頗ル調和ヲ保チ和洋何レノ建築ニモ適應スルヲ得セシメタルカ如キハ今回ノ共進會出品ノ木工品中ノ白眉タルヲ失ハス斯ル優良品ヲ示ス所ノ公機關ヲ有スル本縣ノ當業者ハ今一段ノ奮發ナカルヘカラス

曲物及桶類ハ都鄙ヲ通シテノ實用品ナルヲ以テ各縣到ル所ニ製産アルヘク從テ優良ナルモノモ少カラサルヘシト雖今回ノ出品中ヨリ之ヲ觀レハ本縣出品ニ於テ甚ダ良品ト稱スルヲ得ヘキヲ觀ル殊ニ葛西勝太郎出品ノ曲物ハ技術ノ優等ナルニ比シテ價格廉ナルヲ認メタリ

秋田縣 秋田縣ハ木材ノ產出ニ於テ奥羽ニ冠タルノ地ニシテ東洋唯一ノ挽材會社ヲ能代ニ有スルカ如キ縣勢ニアルヲ以テ之ヲ主材トスル和洋家具類ニ於テ他縣ヲ凌駕スル素ヨリ其ノ所ナリト雖本縣木工業近時ノ發達ハ實ニ目醒シキモノアルハ當局ノ獎勵宜シキニ適シ當業者ノ奮發尋常ナラサルモノアリシヲ思ハシムルモノニテ奥羽ノ産業上大ニ喜フヘキコトニ屬ス日本家具ニ於ケル箆筒ニ觀ルモ西洋家具ニ於ケル種々ナル出品ヲ通覽スルニ於テモ特ニ琴ノ製作ニ迄手ヲ觸レ來レルカ如キ點ヲ考フルモ誠

ニ優良ナルモノニ乏シカラス加フルニ湯澤ノ秋田木工株式會社ノ事業經營ハ偶々時局ノ影響ヲ受ケテ其ノ成果ヲ擧ケ今ヤ木製品ヲ代表スルモノトシテ曲木製品ヲ輸出スルノ名譽ヲ博スルニ到レルハ洵ニ慶スヘキコト、ス

唯本縣ノ西洋家具ニハ甚シク突飛ニ「セセツシヨ」ヲ學ヒタルモノ少カラス爲ニ其ノ形狀意匠ノ頗ル俗惡ニ陥レルモノアルハ大ニ考慮ヲ要ス所ナリ元來セセツシヨ形式ナル形式ハ近世復興式濃艶豐富ナル形式ニ倦ミタル結果其ノ反動トシテ起リ來レル形式ナルヲ以テ未タ落付キタル一定ノ様式ヲ爲スニ至ラス從テ此等ノ新方面ヲ試ミント欲セハ充分卓越シタル技量ヲ奮フニアラサレハ所謂虎ヲ畫イテ猫ニ類スルモノヲ生シ易シ今回本縣出品中ノセセツシヨ形式ハ正ニ此ノ缺點ヲ曝露シタルモノト言フヘシ地方ノ需要ニ投スルヲ目的トスル商品等ハ成ルヘク落付キタル様式ニ依ラサルヘカラス比較的菲難ナキヲ得ルモノハ秩父治右衛門出品ノ袖折机ナリ價格ノ不當ニ廉ナリシハ疑問ナレトモ全體ノ調和宜シキニ適シ和洋兩様ノ室内ニ用ヒ得ヘシ

今回ノ出品西洋家具中最モ優良ノモノハ佐藤政治出品ノ洋風テスク兼用書棚トス其ノ材料ヲ桐ニ採リ之ニ色彩ノ調和セルタガヤサンノ縁ヲ用ヒテ全體ヲ堅メ焼繪ヲ以テ全體ノ中心ヲシテ威アラシメタルカ如キハ實ニ上品ニシテ實用ニ適セルモノニテ價格亦相當ナリ唯金物ノ構造不適當ナル爲ニ片手ヲ以テテーパー板ヲ開閉シ得ルコトト上部周圍ノ手摺子ニ桐ノ横材ヲ用ヒタル爲ニ毀損シ易カリシハ大ナ

ル缺點トス此材ヲ縦ニ剥キ合セテ用ヒナハ強クシテ外觀美ニ於テ前者ト異ナラサル結果ヲ得タリシナラン

次ニ本縣出品西洋家具中ノ白眉トモ稱スヘキ秋田木工株式會社ノ曲木類ハ出品ニ於テ特ニ賞スヘキモノナキモ既ニ商品トシテ海外ニ販路ヲ開拓シ且其ノ技術モ優良ニシテ東京製品ト甲乙ナキニ到レル苦心ノ跡ハ嘉スヘシ尙一般木工品ノ將來ニ向ツテ針路ヲ示スカ如キ力アルハ其ノ効没スヘカラス奥羽ノ木工品ハ其ノ他ニ於テモ此ノ如クニ縣外ニ輸出セラル、商品ノ品種ヲ見出スコトニ努力スルコト肝要ナルヘシ

本縣出品ノ和洋家具ハ箆筒ヲ多シトシ且其ノ工作形體共ニ無難ナルハ喜フヘシ殊ニ阿久津豊治出品ノ如キハ和洋兩種共ニ優良ニシテ注意深キ製作ト謂フヲ得ヘシ

琴ノ出品ハ價格ニ比シテ優良ト稱スルヲ得サルモ地方ノ製作品トシテハ實用的ニ惡シカラス將來益々樂器トシテノ要所ニ注意シ販路ノ擴大ニ努ムヘシ

本縣産權細工ハ仙臺ノ埋木ト其ノ類ヲ同フシ其ノ發達改善ノ遲々タル點ニ於テモ其ノ軌ヲ一ニス由來此種ノ製品ハ材料ニ制限セラレテ其ノ種類ニ於テモ形體ニ於テモ發展ノ方面少ナキハ已ヲ得サル所ナルモ尙實用向ノ品種ニ此種材料ヲ應用スルヲ試ムルコト必要ナルヘシ仙臺ノ埋木ハ外觀ノ美ヲ誇ルノ外長所ナキ材料ヲ素トシ本縣ノ權細工ハ外形ノ美ヨリハ耐久力アル材質ヲ基礎トシ且他種ノ材料ニ觀

サルノ趣ヲ存スル點ニ於テ一日ノ長アリ故ニ此材料ハ一般家具指物ノ部分材トシテ使用スルカ如キ又ハベン軸ベン皿等ノ文房具ノ一部ニ適用シテ東京方面ニ販路ヲ試ムルカ如キ或ハ樺貼鏡板材(パネル)等ヲ作ルカ如キ或ハ引出ノ前面ニ此材ノ應用ヲ試ムルカ如キハ下駄材等ニ樺皮ヲ用フルニ勝ルコト多シ而シテ全體ヲ通シテ生産費節約ノ方法ヲ講シテ價格ヲ低廉ニスルコトヲ發展上ノ要素ト爲ス切ニ當業者ノ考慮ヲ望ム

山形縣 本縣ノ出品中西洋家具ト見做スヘキモノハ田崎淺藏出品ノ外評語ヲ加フル價值アルモノヲ認メス田崎出品ノ椅子其ノ他ハ聊カ新奇ヲ街ヘルノ嫌アルモ全體ノ調和宜シキニ適シ從ツテ格好ノ新シキニ比シテ落付アリテ嫌味ナシ唯各部ノ高サ巾等ノ寸法ニ於テ實用ニ適セサル所アリ宜シク此寸法等ニ就テ一層ノ考究ヲ遂ケムコトヲ望ム

日本家具ハ一般ニ良好ナルモ火鉢長火鉢及茶棚等ノ製作甚タ舊式ナリ其ノ製作ノ技術モ拙劣ニシテ控ルニ足ルモノ少シ齋藤末吉出品ノ長火鉢ノミ形體仕上等ニ於テ群ヲ抜クモ内部ノ構造及工作ハ外部ノ美觀ニ副ハサルコト甚シ技術上一層ノ奮發ヲ要ス

黒柿細工ハ唯一ノ材料產地ナル爲見ルヘキ技巧ノモノ少ナカラス就中前田安吉出品ノ文机ノ如キハ其ノ最モ優秀ナルモノニシテ技術ノ精巧形體ノ美等殆ント間然スル所ナシ然レトモ全般ヲ通シテハ黒柿細工モ亦黒柿細工トシテ黒柿ノミヲ用フルカ如キ傾向アルハ面白カラス例令ハ硯箱短冊箱等ハ素ヨリ

黒柿ノ特色ヲ以テ立ツルハ當ヲ得タルモノナランモ箆筒本箱等形體ノ大ナルモノニ黒柿ノミヲ使用スルハ縦合貼木ニシテ表面ノミニ之ヲ用フルトスルモ甚シク材料ヲ濫用スルノ嫌アリテ而カモ多量ニ黒柿ヲ使用シタルカ爲ノ面白ミハ之ニ比例スルモノニアラス宜シク黒柿材ト他ノ材料トヲ按配シテ其ノ間ノ調和ヲ見出し以テ黒柿ノ濫用ヲ防止スヘキナリ黒柿製箆筒ノ如キハ形體モ惡シカラス其ノ製作モ巧妙ナルモ黒柿材ヲ多量ニ使用シタルニ伴フ價值ハ之ヲ認ムルヲ得ス將來黒柿細工ヲ製スル場合ニハ當ニ此材料ノ節約ヲ考究問題トシテ研究セラレンコト切望ニ耐ヘサルナリ

之ヲ要スルニ各縣ヲ通シテ根本的ニ遺憾ナルノ事實ハ徒ラニ地方日用ノ用途ニ適スル商品換言スレハ消費者ノ注文ニ應シテ作製スルカ如キ品種ノミニシテ一般商品トシテ縣外ニ輸出セラル、カ如キ品種ノ極メテ少ナキノ一事ナリトス東北地方ハ木材ノ産出多シト言ヒ勞銀甚タ低廉ナリト言フト雖優良ナル木材ハ概ネ京阪大都市ノ工業家ノ手ニ吸收セラレテ地方ニ散在スルコトヲ許サス勞銀低廉ナルモ優良ナル技術ノ力ニ依リテ大都市ト競争センコトハ各種ノ事情ニ制セラレテ地方ノ企及シ得サル所ナルヲ以テ地方ニ於ケル良材ノ多少ヨリハ寧ロ粗材ヲ多量ニ用ヒテ製シ得ル小形ノ商品ヲ多數生産ノ利點ニ依リテ製造シ之ヲ縣外ニ出シ之ニヨリテ地方ノ富力ヲ高ムルカ如キ方面ニ思フ改サ、ルヘカラス京阪地方ニテ販賣スルカ如キ木工品ヲ其ノ儘踏襲シタリトテ之ト競争スルコトノ際ル困難ナルコトハ新潟縣三條ノ及物ノ實例能ク之ヲ證明スルモノアリ天下屈指ノ低廉ナル賃銀ニ依リ人類ノ容易ニ爲シ能

ハサル異常ノ勞働力ヲ以テシテ尙且粗製低價品ヲ以テ特色トスルノ外ナキニアラスヤ故ニ地方産業ノ發展ヲ期スル上ニ大ニ考慮スヘキ根本問題ハ如何ナル品種ヲ選フヘキカ如何ナル方針ニ依リテ製作スヘキカ如何ナル方面ニ販賣ヲ試ムヘキカ如何ニセハ多數生産ノ方法ニ依リテ生産費節約ノ競争ニ勝チ得ヘキカノ點ニ存ス家具ノ如キモ秋田木工ノ曲木ノ如キ方面ニ力ヲ致セハ縣外輸出ヲ超脱シテ海外輸出品タルヲ得タル實例アリ秋田木材株式會社ノ茶箱等ノ如キ、セメント樽ノ如キ方面ニ木材利用工業ノ研究ヲ積マハ家具中ニテモ机上ノ書棚ノ如キ文房具ニ附屬スル品種ノ如キ折疊運搬ニ適スル臺所用具ノ如キアリ必シモ京阪地方ノ日新月歩ナル新意匠品又ハ高等ナル裝飾の方面ヲ學ハサルモ此等ノ中央市場ニ販路ヲ求メテ成功シ得ルモノ少ナカラサルヘシ神奈川ノ箱根細工モ静岡ノ漆器工業モ富山縣ノ金屬器モ青森ノ蔓細工モ皆此意味ニ於テ發展シ粗製品ニシテ尙能ク京阪地方人ノ企及シ得サル大販路ヲ有スルニ到レルモノナリ近時技術ニ關スル講習會流行シ到ル處ニ行ハレ從ツテ東北ニモ縣廳所在地等ニハ毎年何等カノ實技講習アラサルナク斯界ノ發展上洵ニ慶賀スヘキコトナリ然レトモ此等ノ會ニ於テ教授ノ任ニ當ル人ノ多クハ技術者ニシテ商人ニアラス從テ技術ノ改良ヲ指導スルト雖縣外輸出品トシテ如何ナル品種ノ上ニ自己ノ學ヒシ改良技術ヲ試ムルコトヲ要スルヤハ自己ノ工夫ト地方當業者ノ團體的活動ノ結果ニ待ツノ外ナシ、今回ノ出品中ニ技術上ノ改良進步ヲ相當認メ得ルモノアルハ確カニ此等講習ノ結果ト觀ルヘク東北ノ木工品ノ上ニ高サヲ加ヘシメタリト雖商品トシテノ品種形體

構造上ノ進步ハ殆ント觀ルヘキモノナキカ如シ本邦ニ於テ貴重木材ノ減少ヲ憂ヒテ貼木ノ獎勵ヲ爲シツツアル間ニ歐米ニ於テハ鋼材ヲ以テ木材ニ代ヘ之ニ貴重材料ノ木理班紋ヲ擬塗スルノ術ニ依リテ木材使用ノ必要ヲ減セシメ爲ニ貼木材ヲ専門トスル有名ナルシカゴ市ノウエリーギヲシテ其ノ業ノ將來ヲ悲觀セシメツ、アルニアラスヤ將又仕上ニ塗料ヲ施スニハ之ヲ塗ルノ外ナシト心得其ノ刷毛ノ選擇ニ腐心シツ、アル間ニ歐米ニ於テハ或ハ塗料ノ湯浴ヲ施シ又ハエーアブラステンダノ方法ニ依リテ空氣ヲ利用シ表面ニ塗料ヲ施ス等ノ新案ヲ行ヒ之ニ依リテ生産費ヲ減シツ、アルナリ
斯ノ如ク材料ノ變遷甚シク加工方法ノ改善ノ盛ニ行ハル、現今ノ時勢ニ於テハ地方當事者カ各個人ノ利益ノ爲ニ蝸牛角上ノ爭ヲ事トスルカ如キ狭小ナル頭腦ニ依リテ徒ラニ從來有リ來リタル筆筒火鉢ノ局部ニ改良ヲ施スノミニテハ何レノ日ニカ東北ノ物産ヲシテ東北ヲ富マシメ得ヘキ思フテ茲ニ到レハ東北ノ木工業ノ將來ヲシテ縣外輸出品ヲ作ルノ點ニ成功セシメンニハ此等ニ適スル商品ヲ選定スルコト及之カ廉價生産ヲ爲スニ適スル加工方法ノ案出ヲ爲スコトニ向ツテ有ラユル一切ノ障害ヲ排除シ官民協力シテ之ヲ研究セムコトヲ切望セサルヲ得ス

第六部

第四十四類 下駄、下駄表、草履表、足袋、靴

審査官 松 倉 順 一

本類ニ屬スル出品中下駄及草履表ハ其ノ主ナルモノナリ最モ多數ナリシハ山形ニシテ之ニ次クワ野城トス擬賞一覽表次ノ如シ

下駄、下駄表、草履表、足袋、靴擬賞一覽表

縣名	出品				擬賞等級				計	出品人員ニ對スル擬賞ノ割合
	點數	人員	一等	二等	三等	四等	計			
宮城	一五九	四三	—	—	—	—	八	一三	三〇・二	
福島	三〇	一一	—	—	—	—	三	五	四〇・一七	
青森	八六	二五	—	—	—	—	六	八	三〇・二〇	
秋田	九〇	二五	—	—	—	—	六	八	三〇・二〇	
山形	一二八	一九	—	—	—	—	九	一〇	五二・二六	
合計	五二三	二〇四	四	二	一	—	四八	六四	三〇・一三	
合計	一、〇一六	三二八	—	—	—	—	八〇	一〇八	三二・二九	

今回出品ハ聯合各縣ニ於ケル地方状態ノ然ラシムルモノナリトハ言ヘ一般ニ實用ヲ專ラトセル商品多ク徒ラニ裝飾技工ノミニ走レル高價品ノ僅少ナリシハ賞スヘシ而シテ之ヲ品種ノ上ヨリ見レハ表付下駄ニ於テハ宮城又塗下駄ニ於テハ福島各其ノ特色ヲ以テ他ヲ壓シ臺下駄ニアリテハ山形ノ黒柿製品一異彩ヲ放チ桐柎下駄ハ概シテ巖手優秀ニシテ之ニ次クワ宮城トシ他ハ山形、青森ノ順序トス元來青森ハ本品ニ對シ見ルヘキモノアルニ拘ラス今回ノ出品中見ルニ足ルヘキモノ少カリシヲ遺憾ト

ス而シテ下駄表ハ(南部表トシテノ)是レ亦當時秋田産ノ聞ユルモノアルニ拘ラス其ノ出品佳良ナラスシテ宮城ニ一步ヲ讓ルニ至リ且一巖手ハ之ニ次クノ結果ヲ來セリ又藤表ニ至リテハ青森、秋田共ニ繊巧ナル技工ヲ示シタルモ晒白及價格ニ於テ未タ充分満足スル能ハサルモノアルヲ見タリ尙山形産草履表ハ他縣産ニ比シテ價格廉ニシテ且技工ノ優レタルヲ認メタリ茲ニ更ニ各品ニ對シテ細評ヲ加フレハ表付下駄ニ於ケル宮城ハ殆ント東京品ヲ凌クノ技能ヲ示シタルモ又缺點ナキ能ハス即チ下駄臺ニ於ケル中央部ヘ鑿列餘リニ意匠ニ流レ爲ニ體重ニ堪ヘサルヤノ感アラシメタルト前「ツボ」ノ穿孔餘リニ上部ニ失シ歩行ニ不便ナラサルカノ懸念ヲ懷カシメタル等是レナリ又各縣共通ノ缺點タル下駄臺仕上ノ拙劣ナル亦見逃カスヘキニアラス例ヘハ色附磨出シノ疎漏及足駄ニ於ケル椋齒ノ膠着不充分及柎目使用若ハ「タボ」箱入ノ位地ノ誤レルカ如キ鼻緒ノ取付ケ不完全ナルカ如キ紙ノ裝釘疎漏ノ爲下駄表ヲ損傷セルカ如キ又藤表ニ於ケル晒白ノ過度ナルヨリ其ノ特有ノ趣味ヲ減却セシメ恰モ「セルロイド」製タルカノ感ヲ起サシメタルモノ、如キハ其ノ缺點トスヘキナリ而シテ其ノ最モ注意ヲ要スルコトハ表付下駄ニ於ケル材料ノ組合カ極メテ比例ヲ失セルコト大ナリ假リニ一例ヲ舉クレハ表ノ價格一圓程度ノモノニ對シ四十錢ノ臺及十錢ノ鼻緒ヲ使用セルカ如キ優良ナル材料ニ劣等品ヲ配合シ故意ニ低級品タラシメタルカ如キハ努メテ避ケサルヘカラス又草履表ハ製作ノ巧價格ノ廉等ヲ以テ大ニ販路ヲ擴大シ伊勢、大和、遠州品ヲ風靡セントシツ、アル努力ハ推賞スヘシ然レトモ強ヒテ希望ヲ言ハシムレ

ハ其ノ不揃ニ對スル改善ニアリ

足袋ハ宮城品ニ於テ其ノ形式其ノ縫接ノ頗ル優レルモノアルヲ認メタルモ出品僅少ニシテ批評ノ餘地ナキヲ遺憾トス足袋ハ實用品中ノ需要多キ商品ニ屬シ別掲統計表ノ示スカ如ク其ノ生産多ク殊ニ盛ナルハ大阪(百二十萬圓)福岡(百十萬圓)埼玉(六十八萬圓)岡山(五十三萬圓)徳島(五十萬圓)等ニシテ全國ニ於ケル一ケ年ノ生産額ハ別表ニ示スカ如ク數ニ於テ二千九百萬足、價格四百九十萬圓ニシテ尙表示ニ洩レタルモノヲ總計セハ頗ル多額ニ上ルヘク實ニ有望ナル商品タリ然レトモ其ノ海外需要ニ至リテハ主ニ在留本邦人用ニ係リ又支那人用襪子ハ我足袋ニ酷似セルヲ以テ一見本邦品ヲ以テ代給シ得ヘキ感アルモ莫大小製靴足袋ノ支那ニ輸入セラレテヨリ多クハ其レヲ用フルニ至リ又襪子ヲ用フルモノ、多クハ家庭ノ自製品ヲ用ヒ他ヨリ購入スルモノ僅少ナルノ状態ナレハ支那ニ對シテハ先ツ輸出ノ見込ナキ商品ナリ尙大正四年ニ於ケル本邦ヨリ海外ヘノ足袋ノ輸出ハ十三萬圓程度ニアリ靴ハ鈕釦品ニ於テ實用的ナラサルモノ及ヒ踵積ミ極メテ疎漏ニシテ膠着充分ナラス其ノ間紙ヲ挿入スルニ容易ナルカ如キモノアリシモ其ノ形態、意匠、寸度ノ測定、重量ノ加減甲革ノ裁斷法縫接法及化粧仕上等ノ注意セラレタル點モ少カラズ進歩ノ跡ナシトセス

本邦製靴業ハ多クハ手工的作業ニ依リ成ルモノ多ク五名以上ノ職工ヲ有スル工場製品ニアリテハ數ニ於テ四十二萬足、金額ニ於テ百三十六萬圓ヲ示スニ過キスト雖想フニ一家一、二名ノ職工ヲ有スルモ

ノ、製造額ハ多額ニ上ルヘク又本邦風俗ノ變化ハ將來益々本品ノ需用ヲ増加スヘク以テ其ノ發展ニ對シ内國用ニ供スルノミナラス又大ニ輸出品トシテ其ノ旺盛ヲ期スヘキナリ實ニ該品ノ輸出ハ大正四年ニ於テ其ノ前年ノ輸出額九萬九千圓ヨリ一躍シテハ百五十五萬七千圓ニ増激シ頗ル突飛ノ増進ヲ示シタリ是レ露國軍需品トシテノ一時的需要ノ増加ニ因ルモノナレハ之ヲ以テ平時ヲ律スヘキニアラス否平時ニ於ケル輸出ハ甚タ不振ナルノミナラス製ニ作不備ノ點アリテ輸出先ノ厭忌ヲサヘ招キタルコトアルカ如キ遺憾ヲ見タルコトアリ然レトモ本品ハ有望ナル前途ヲ有スルモノナルヲ以テ更ニ一層ノ奮發ヲ要スヘキナリ今之ヲ世界靴貿易ノ實際ニ徵スレハ北米ハ千九百十二年ニ於テ靴九百萬足其ノ價額三千二百萬圓ヲ又英國ハ千九百十四年ニ於テ四千三百萬圓ヲ輸出セルカ如キ其ノ優勢ナル状態ハ寔ニ羨望ニ堪ヘサル所ナリ而シテ世界ノ需要ハ英領印度(五百萬圓)濠洲ニユウジーランド(八百萬圓)西班牙(二百萬圓)南阿(二千萬圓)加奈陀(八百萬圓)等ニシテ尙瓜哇、英領ギアナ、英領ボンジュラス、波斯、ジャマイカ、彼露、エクエドル、墨西哥、其ノ他ニ於テ更ニ多キヲ示セリ素ヨリ此等ハ殖民地ニ於ケル兵士用其ノ他ニ密接ナル關係アルノミナラス輸出亦容易ナラス以テ直ニ貿易ノ多額ヲ望ム能ハサルモ其ノ方法宜シキヲ得ハ極メテ有望ナル商品タルヘキハ疑ヲ容レサル所ナリ尙本邦製靴工業ハ歐洲戰亂後露國ヘノ供給多ク爲ニ甲革底革裁斷鈞込其ノ他ノ機械ヲ使用スル工場ノ數漸ク多キヲ加ヘツ、アレハ今後ハ我貿易上貢獻スル所多カルヘシ

足袋生産縣別統計表 (五人以上ノ職ヲ使用スル工場ノ生産) (統計 大正三年十二月十一日現在)

東 京	一八八、二五一	三 重	一二八、八〇〇	福 岡	一、一四七、〇一七
大 阪	一、二二〇、八七八	山 梨	五七、三五〇	岐 阜	四九、〇〇〇
群 馬	二、五〇〇	滋 賀	五四、四一〇	秋 田	三、九〇〇
栃 木	三、一六〇	宮 城	八〇	岡 山	五三九、二六九
愛 知	四六、二一六	富 山	七四、〇七〇	和 歌 山	三二、〇〇〇
京 都	一〇、五六〇	廣 島	三五、八〇〇	香 川	一〇〇、五二九
埼 玉	六八六、三〇〇	德 島	五〇四、一五〇	高 知	三、九〇〇
千 葉	二二、二七五	愛 媛	八、六〇〇	合 計	四、九一九、六四五

足袋輸出貿易累年統計表

明治三十八年	九四、二九二	同	四十二年	一六四、七六三	同	二年	七五、三〇七
同 三十九年	一二〇、一九四	同	四十三年	一一四、六二八	同	三年	七九、七三三
同 四十年	一六六、九四一	同	四十四年	六八、一三八	同	四年	一二八、五三一
同 四十一年	一五九、四一一	大正元年		八二、五三一			

靴輸出貿易累年統計表

明治三十四年	一七九、八五九	同	三十五年	一三〇、四七九	同	三十六年	一二八、五一〇
--------	---------	---	------	---------	---	------	---------

靴生産統計表

(五人以上ノ職工ヲ使用スル工場ノ統計 大正三年度)

同 三十七年	九六、二二〇	同	四十一年	一二三六、六三五	大正元年	三三七、八二五
同 三十八年	一〇七、七六二	同	四十二年	一六〇、九三二	同 二年	一二七、五五四
同 三十九年	四三二、六八七	同	四十三年	一七六、二六〇	同 三年	九九、八一五
同 四十年	二八三、七三一	同	四十四年	一一九、一三三	同 四年	八、五九七、六九六

東 京	三三六、三二五	一、〇七五、〇〇五	滋 賀	一、三〇〇	一、七九〇
京 都	六、二八〇	一七、五二〇	宮 城	七二〇	二、八八〇
大 阪	三二、六五〇	三〇、〇二四	巖 手	五〇〇	二、五〇〇
神 奈 川	二、〇三〇	一三、三七〇	青 森	七〇〇	二、八〇〇
兵 庫	五、〇〇〇	一五、〇七〇	石 川	五、七〇〇	二四、七五〇
長 崎	一、三二〇	一、五〇〇	島 根	一、四〇〇	七、〇〇〇
新 潟	四、五〇〇	六、六〇〇	廣 島	一、〇八〇	三、四五六
群 馬	八、四〇〇	二、〇〇〇	香 川	七〇〇	三、五〇〇
茨 城	一、六二二	二、九〇〇	福 島	一〇、〇三〇	四三、九九〇
栃 木	一、四〇〇	四、四六六	佐 賀	二、一〇〇	七、八〇〇
三 重	一、九二〇	八、四〇〇	熊 本	八、一〇〇	三五、一〇〇
愛 知	七〇〇	五、八八〇	北 海	一、三三八	一〇、〇四七
山 梨	五〇〇	一、五〇〇	合 計	四二五、七〇五	一、三三一、五九三

第六部

第四十五類 藤、竹、杞柳製品審査報告

審査官 松倉 順一

本類ニ屬スル出品ハ宮城、青森最多ク之ニ次クヲ巖手、福島、秋田等トシ最モ振ハサリシヲ山形トス而シテ青森ハ木通蔓製品ニ於テ又宮城ハ竹製品ニ於テ各多數ノ出品アリタリ其ノ擬賞一覽表次ノ如シ

藤、竹、杞柳製品擬賞一覽表

縣名	出品				擬賞等級				計	出品人員ニ對スル擬賞ノ割合
	點數	人員	一等	二等	三等	四等	計			
宮城	一一八	四三	一	一	三	一	四	一四	三〇二五	
福島	三三三	一七	一	一	一	一	四	二〇三五	四〇〇〇	
巖手	六八	二五	一	一	一	一	四	四〇四二	四〇〇〇	
青森	一三〇	四三	一	一	一	一	四	一〇	四〇四二	
秋田	七七	一三	一	一	一	一	四	六	四〇六一	
山形	一六	八	一	一	一	一	三	三	三七五	
合計	四五二	一四九	一	二	八	四	五六	三	三七六	

出品ヲ通覽スルニ組編法及形式ニ於テ舊套ヲ脱セテ新様ニ乏シクシテ獨創的新機軸ヲ示シタルモノ寥寥タリシヲ遺憾トス然レトモ概シテ實用品多ク工技精緻頗ル圓熟セルモノアリシト其ノ仕口ニ於テ着實親切ナル所アリ見逃スヘカラサル良點アリシヲ喜フ今少シク各縣ニ就テ批評セハ青森ニ於ケル木通蔓製品ハ世既ニ定評アル如ク晒白、組編等ノ技他ニ秀絶セルモノアリ又形態其ノ他ノ意匠ニ於テ多少ノ新案ナキニアラス例ハ盛籠ノ底ニ硝子ト捺染布帛ヲ用ヒ或ハ手提籠ニ竹又ハ藤ヲ應用セル部分アルカ如キハ外國製品ノ意匠ニ倣ヒタルモノナルカ此ノ如キ新案ノモノ多數出品セラル、コトヲ期待セシニ事豫期ニ反シ且價格ノ低減ニ對スル方法未タ充分ニ講セラレサルヲ知レリ又宮城縣ニ於ケル竹製品ハ多數ノ出品アリシニ拘ラス是レ亦組編法ニ於テ左迄賞讃スルニ足ルモノ少ク山形、福島ノ出品ハ尙幾分稚氣ノ脱セサルモノアリ更ニ秋田縣出品ハ形應組編法ニ於テ捨テ難キモノアリシモ晒白其ノ他ニ於テ研究ヲ要スル所アリ元來當縣ハ一時木通蔓製作ノ旺盛ヲ見ントセシニ其ノ後大ナル發展ヲ見サルモ當地ハ原料豊富ナル所ナレハ特ニ奮勵ヲ望マサルヘカラス尙巖手出品ハ一般ヨリスレハ充分ナル進歩アリト認ムル能ハサルモ竹行李ノ如キ頗ル熟練セル技工ヲ示シ又兩面針籠ノ如キ着眼點頗ル其ノ當ヲ得タルセノアリ今後研究ニ咨ナラスンハ慥ニ其ノ前途ノ有望ナルヲ疑ハス

本邦ニ於ケル竹製品ノ産額ハ工場製ニ係ルモノ三百八十萬圓、副業ニ依ルモノ九十五萬圓ニシテ大正四年ニ於ケル輸出額ハ百四十萬圓ニ達セリ而シテ杞柳製品ハ其ノ生産額九十二萬圓輸出額二十萬圓ニ

シテ木通蔓製品ニアリテハ未タ大ナル發達ヲ見ル能ハサルモ其ノ材料ノ供給宜シキヲ得價格亦低廉ナルニ至ラハ其ノ需要ハ一層増進スヘシ而シテ此等ノ製品ハ何レモ農家ノ副業ヲ以テ經營シ得ヘキ性質ニ屬シ其ノ普及發達ヲ圖ルハ地方細民ノ經濟狀態及我外國貿易ノ狀勢ニ鑑ミ最モ緊要ナルヲ信ス然レトモ副業品ニ於テハ同時ニ其ノ通有ノ短所トシテ品質ノ不齊、意匠ノ陳腐、數量ノ寡少ナル等種々ノ缺點ヲ伴フモノナレハ此等ハ最モ注意ヲ要スヘキナリ尙材料利用ニ對シテハ枝條竿蔓其ノ他ノ輕量ニシテ頑硬ナラス且彈力アリテ比較的腐蝕ニ堪ヘ組編ニ對シ運曲ノ工技容易ナル等其ノ固有ノ特長ヲ捉フヘキハ勿論ナルモ生産ノ多數ト價格ノ低廉ヲ期スルカ爲ニハ材料ノ供給ヲ豊富ニスル方法ヲ立テ用途ニ適當ナル構造法ニモ注意セサルヘカラス更ニ貿易品ニアリテハ運賃節約ノ必要大ニ存スルヲ以テ其ノ容積ヲ減スヘク組合セ製品ノ案出ニ努メ形態及組編法ノ變化ニ留意シ以テ需要者ノ倦厭ヲ防キ同時ニ製作ヲ親切ニシテ堅牢ナル製品ヲ出スコト等ニ付細心ノ注意ヲ望マサルヲ得ス

竹製品農家副業生産統計表

東京	二〇、五二三	群馬	六、三九九	巖手	三一、一一〇
神奈川	八、六九五	静岡	一〇五、七二九	山形	八、七三二
兵庫	四七五、七五四	山梨	三五、七〇〇	計	九六五、一〇五
新潟	二八、九九二	長野	一三二、四五八		
埼玉	二三、一八四	宮城	七八、八二九		

杞柳製品農家副業生産統計表

兵庫	六五一、二七五	宮城		計	六九五、八〇一
福井	四四、五二六	岡山			
岐阜		北海道			

木通蔓製品農家副業生産統計表

群馬	三、七〇〇	秋田		鳥取	
長野	二九、〇〇〇	栃木		計	九六、七九四
青森	三〇、七九四	岐阜			

竹籠輸出累年統計表

(輸出多キハ花盛籠、ラシア笠、紙入籠、屑籠、買物籠、手提籠等トス)

明治三十三年	一三一、五二七	同	三十九年	二八六、七六〇	大正元年	七九一、七八二		
同	三十四年	一三七、七三二	同	四十年	二九二、二三三	同	二年	九五四、七九九
同	三十五年	六九、一八九	同	四十一年	二〇九、八四一	同	三年	一、〇一〇、〇三九
同	三十六年	一二〇、四〇三	同	四十二年	二四七、三七五	同	四年	七九二、五〇九
同	三十七年	二〇六、七八二	同	四十三年	四一二、五八三			
同	三十八年	二五五、七五一	同	四十四年	五二五、七六五			

竹製行李及鞆輸出累年統計表

第四十六類 玩具遊戲具

(輸出多キハ二十三時帶付行李、三十時帶行李、二十七時行李、二十四時行李) (二十時行李、十八時並行行李、丸籠五ツ入、丸籠五ツ入丸籠三ツ入等トス)

五〇六

明治三十五年	一四七、五一六	同	四十年	三八九、四〇八	大正元年	四二五、四三三
同	三三六、二四五、五四七	同	四十一年	三八七、一〇四	同	四〇二、四九四
同	三十七年 四五九、二五八	同	四十二年	二八一、〇七九	同	二三八、〇六八
同	三十八年 二五一、二〇四	同	四十三年	三〇五、六八一	同	一八五、九八五
同	三十九年 二八四、〇三九	同	四十四年	三四九、九五九		

柳行李及鞆輸出累年統計表 (輸出多キハ行李 (丸籠等トス))

明治三十五年	三八、六五三	同	四十年	九二、五九三	大正元年	一五三、四一五
同	三十六年 四八、三三二	同	四十一年	七八、〇五六	同	一七〇、九五三
同	三十七年 四七、二九五	同	四十二年	七四、三八四	同	一五七、〇八一
同	三十八年 九一、七一七	同	四十三年	九九、九六三	同	二〇五、三五五
同	三十九年 一二三、九〇〇	同	四十四年	一一八、二五一		

第六部

第四十六類 玩具、遊戲具

審査官 秋 保 安 治

玩具及遊戲具ノ出品ハ宮城、福島、巖手、秋田、山形ノ五縣ニ涉ルト雖點數少ナク嶄新ノモノモ多カ

ラス慎重審査ノ結果左表ノ如ク擬賞セリ

擬賞一覽表

縣名	出品		擬賞等級					出品人員ニ對スル擬賞ノ割合
	點數	人員	一等	二等	三等	四等	計	
宮城	九三	一五					五	三〇〇
福島	三一	七					四	五〇〇
巖手	一七	二					一	五〇〇
秋田	一	一					一	三〇〇
山形	五七	一三					二	三〇〇
合計	一九九	三八					一五	三〇九四

今本類ノ出品ヲ通覽スルニ山形縣ハ人形ニ於テ卓出シ巖手縣ハ木製人形ヲ産スルニ止マリ宮城縣ハ然根細工ノ模造ヲ試ミツ、アルノミ而シテ山形縣ノ人形ハ澁江人形ト岩城ノ人形ニシテ各特色ヲ有シテ相當精巧ノ域ニ入り商品トシテ縣外輸出品タルヲ得ルニ到レルハ洵ニ慶スヘキノ事ナリト雖此等ハ何レモ陳列裝飾ニ適スルモノニシテ玩具ト稱スルヨリハ雜飾用ニ近ク岩城人形モ技術ハ精巧ナルモ其ノ質軟弱ニシテ目下東京地方等ニテ改良ノ必要ヲ感シツ、アルノ種類ナレハ此等ノ卓越セル技術アル人形製作家ハ宜シク現代式ノモノニ其ノ技ヲ施シ而シテ内外ノ需要ニ應スルコトニ努力セサルヘカラス

澁江式ニテモ岩城ノ人形ニテモ其ノ技ヲ以テ和洋各種ノ人形ヲ造リ適當ノ着色仕上ヲ爲スニ於テハ必
スヤ新ナル販路ヲ見出スコトヲ得ヘシ、澁江人形ノ表情及服飾着色模様ノ高尚優雅ナル岩城人形ノ
眼ノ開閉スル構造ノ如キ何レモ東北ノ物産トシテ技工ニ於テ出色アルモノナレハ各種形體ノ人形ニ此
種ノ技術ヲ應用シテ之ヲ海外ニ輸出スルノ方法ヲ試ムルカ如キハ目下ノ急務ナルヘシ
山形縣出品ノ將基駒ハ何等物産トシテ特筆スヘキモノニ非サレトモ特産品タルノ價值充分ニシテ廉價
ナルノ點ニ於テ他ニ容易ニ學ヒ得サル所アリ、此技術ヲ永ク將來ニ持續スルノ途ヲ取ランコトヲ望ム
巖手縣池野安吉出品ノ木製玩具ハ富山箱根等ニ其ノ類ナキニ非ス且創業日淺キヲ以テ種類少ナク價格
甚タ不廉ニシテ塗仕上等モ亦甚タ拙ナルモノナキニアラスト雖其ノ人形ノ形式ニ於テ頗ル現代ノ嗜好
ニ投スルモノアリ、就中キユービー及ハッピーノ如キハ之ヲ海外ニ持出セハ必ス歡迎セラル、性質ヲ
具備ス將來何レノ人形ニモ多少活動スル部分ヲ具フルコトニ改良ヲ加ヘ、且塗仕上ヲ器用ニシ工作ノ
方法ニ機械ヲ應用シテ多數品中ニ聊カノ差異ナカラシムルニ注意シ以テ一層種々ナル品種ニ此式ヲ應
用スルアラハ將來甚タ多望ナル商品トナルヘシ殊ニ目下箱根細工ノ如キ木製玩具ハ米國ヲ始メ歐洲方
面ニモ新販路開拓セラレテ異常ノ輸出ヲ來セリト雖概ネ粗製品ニシテ近キ將來ニ於テ必ス大ナル反動
アルハ火ヲ睹ルヨリモ明カナリ、此時ニ當リテ之ニ代ルヘキ何物カヲ準備スルコトハ本邦玩具業ノ發
展上必ス努メサルヘカラサル所ナリ、人形ノ如キハ蓋シ此要求ニ應スル所以ノモノタルヲ失ハス切ニ

當業者ノ奮勵ヲ望ム

宮城縣ノ木製玩具ハ箱根製品其ノ儘ノ模造ニシテ更ニ新ナル考案改良等ナキノミナラス箱根細工ノ大
缺點タル着色仕上ノ拙劣ト金物ノ軟弱トヲモ其ノ儘模造セルカ如キハ思ハサルノ甚シキモノニテ當業
者ノ頭腦ノ如何ニ低級ナルカヲ示スモノナリ

地方當局ニ於テ一層當業者ヲ刺戟シ督勵シ以テ日進月歩ノ玩具界ノ競争場裡ノ落伍者タラシメサルコ
トヲ望ムヤ切ナリ、而シテ此等ノ方法タル種々アルヘシト雖適良ナル圖案家ト工作ノ實地家トヲシテ
巡回指導セシメ且物産陳列所等ニ最新ノ玩具ヲ購入陳列シ尙之ヲ斯業旺盛ノ地方ニ貸出シ又ハ玩具考
案ノ懸賞ヲ爲ス等各方面ヨリ指導獎勵セハ必スヤ結果ノ觀ルヘキモノアラン

福島縣若松市中廣吉出品ノ厚板玩具ハ近時長足ノ進歩ヲ爲セル種類ノ一ニシテ價格低廉ナルニ於テ
ハ大ニ賣行クヘキ商品タルヘシ、同市關野出品ノ玉突用チヨークモ亦頗ル觀ルヘキノ商品ニシテ品質
モ悪カラス前途アルノ品ナレハ成ルヘク製品ノ品質ヲ優良ナラシメ粗製濫造ニ陥ラシメサルコトヲ要
ス同縣會津郡櫻木出品ノ木製運動用具モ亦東北ノ物産トシテ注意スヘキモノノ一ニ數フヘク品質ノ改
良ニ困難少ナキ種類ナレハ永ク價格ノ競争ニ耐ユル様加工法ヲ改良シ經費節約ノ工夫ヲ怠ラサルコト
ヲ要ス

之ヲ要スルニ玩具遊戯具等ハ時局ノ影響ヲ受ケテ異常ノ發展ヲ爲シタルモノ、最タルモノニシテ大正

三年即チ戰爭以前ト時局ニ入りタル第一年ノ大正四年ノ輸出高ヲ對比スレハ左ノ如シ

大正三年度玩具輸出額

二、五九一、七一五圓

同 四年度同 上

四、五三三、四八六圓

而シテ大正五年ニ入りテハ更ニ一層ノ増進ヲ來セルモノノ如シ、而シテ此等ノ原因カ從來英國及米國ニ對スル供給ヲ一手ニ引受ケ居リタル獨逸製品ノ出荷ナキコトニ存スルヲ以テ其ノ種類ハセルロイト製及金屬玩具等多キニ居ルモ米國向ニハ木製玩具少カラサルノミナラス米國方面ニハ木製玩具輸出ノ餘地甚タ多キヲ認ムルモノアリ、米國ノ近況ハ到底玩具ノ如キ金額小ニシテ種類多ク且變遷激シキモノヲ製作スルヲ好マサルナリ、且之ヲ爲サントスルニ於テ工賃材料等ノ關係上甚タ有利ナラサル事情ノ存スルヲ以テ將來此等ノ方面ヲ負擔スルモノハ獨逸ト本邦トノ外ニアラサルヘク獨逸製ノ從來米國ニ販賣セラレツ、アリシモノヲ觀ルニ其ノ價格ニ於テ其ノ品質ニ於テ優ニ本邦商工業者ノ競争シ得ヘキモノタルコトヲ疑ハス、唯米國ニ於ケル嗜好ノ變遷ヲ知ルニ於テ彼ニ及ハサル事情アルノミ、故ニ相當ノ機關ニ依リテ此等ノ方面ニ販路ヲ開拓スルノ手段ヲ採ルニ於テハ地方ノ營業者ハ其レニ適スル形狀、格好等ヲ具フル商品ヲ供給スルノ工夫ヲ爲スノ要アルノミ我玩具ノ大ニ發展スヘキ千載一遇ノ好機ニ於テ特ニ營業者ノ奮勵ヲ望ム

第六部

第四十七類 動植物油類

審査官 篠崎英之助

本類ノ出品總數ハ九十三點人員五十七ナリ宮城縣ノ二十六人最多ク青森縣ノ十二人ニ次キ福島秋田山形ハ略ホ同シク巖手縣ノ一人ヲ最少トス左ニ各縣出品人員點數及等級別擬賞數ヲ掲ク

第六部 第四十七類擬賞一覽表

縣名	出品擬賞等級					計	出品人員ニ對スル擬賞ノ割合
	一等	二等	三等	四等	計		
宮城	二六				四	七	二・六九
福島	一六				二	三	五〇〇
巖手	一				一	一	一〇〇〇
青森	二		三		三	六	五〇〇
秋田	八				二	二	二・八六
山形	一				二	三	六〇〇
合計	五七		八		二二	二二	三・八六

更ニ本類ヲ種類ニ依リ區別シ各縣別出品數ヲ示セハ左ノ如シ

品名	縣名							計
	宮城	福島	巖手	青森	秋田	山形	計	
魚								
油	三三			一九				五四
人員	三三			一九				三八

品名	縣名		宮城	福島	巖手	青森	秋田	山形	計
	植物油脂油	同精油							
植物油脂油	人員數	人員數							
同精油	人員數	人員數							
頭髮用香油	人員數	人員數							
合計	人員數	人員數	二六三	六八	一五	一二	七八	一五	五九三

魚油 本出品ハ宮城、青森、秋田ノ三縣ニシテ宮城最モ多ク青森之ニ次キ秋田ハ僅ニ三點ノ出品ニ過キス魚油ノ種類ハ鯨油二三、鯧油一二、鯨油一一、鱈油二、鯉油二、鮪油一、鯨油一、入鹿油一ナリ鯨油ノ七割ハ宮城縣三割ハ青森縣ノ出品ニ係レリ本油ハ肝油トシテ醫藥ニ供セラル、ヲ以テ出品者ハ精製ニ意ヲ用ヒ色淡ク透明ニシテ臭氣微弱味亦可ナルモノ多シ概シテ品質良好ナリ鯧油ノ七割弱ハ青森縣ノ出品ニシテ秋田之ニ次ク本品ハ主ニ工業用ニ供セラレ品質鯨油ニ比較シ能ハサルモ色相臭氣共ニ良好ニシテ精製較々充分ナルモノアリ尚色相惡シク臭氣強ク夾雜物ヲ含ミタル劣等品モ亦尠ナカラズ精製ニ於テ一層ノ注意ヲ要ス、鯨油ノ九割ハ宮城縣ノ出品ニ係レリ淡色透明脱臭亦充分ニシテ夾雜物ヲ含マス精製ニ於テ苦心ノ跡ヲ認メ得ヘキモノ數點アリ一般ニ不良品尠ナク品質中位ノモノニ富メリ鱈油、鯨油ハ鯨油ト等シク品質不良ナラス鯉油及鮪油ハ色暗黒ニシテ臭氣強ク精製不十分タルヲ免

レス

植物油脂油 本品ハ福島、山形、秋田、青森四縣ノ出品ニシテ菜種油八點、白絞油三點、荳油五點、櫛實油一點ナリ青森縣出品ノ油ハ色相良好ニシテ臭氣弱ク酸及夾雜物ヲ含マス他縣出品ニ比シ品質佳良ナリ容器ノ意匠モ亦可ナリ他ハ普通ノ品位ヲ有スルモノ多ク劣等品尠ナシ

植物精油 巖手ヲ除ク五縣ヨリ出品ス黒文字油三點、テレピン油(松根油)三點、辛夷油一點等ナリ由來東北產黒文字油ハ品質ニ於テ伊豆産ニ劣ル從ツテ市價亦廉ナリ本出品ノ何レモ香氣伊豆産ニ優ルモノナシ福島縣産松根油ハ色淡ク充分焦臭ヲ脱シ得テ品質良好ナリ之レ乾餾及精製ニ稍熟練ヲ來セル結果ナルヘシ唯遺憾ニ堪ヘサルハ其ノ副産物ノ出品トシテ單ニ「ピッチ」ノ一品ニ止マルコト之ナリ

頭髮用香油 香油、梳油、髮付、及白髮染煉油等ナリ福島、巖手、山形三縣ヨリ出品ス中ニハ原料ノ精選ニ意ヲ用ヒ賦香モ亦練熟シ品質佳良ノモノナキニ非サルモ多クハ原料ノ精選賦法、賦香及容器ノ意匠ニ於テ進歩ノ跡ヲ認ムル能ハス頗ル舊慣ヲ脱セサルノ弊アリ

茲ニ本類ヲ通覽スルニ魚油ノ出品頗ル多數ニ上リ總點數ノ六割弱ヲ占ムルハ大ニ注目スヘキ所ナリ抑モ世界ニ於ケル魚油ノ需要ハ最近化學工業ノ發達ト共ニ著シキ激増ヲ來シ從ツテ此主產地タル本邦ノ如キ年産額及輸出額頗ル巨額ニ達セリ由來魚油ノ内鯨油ハ肝油トシテ醫藥ニ供セラレ其ノ量頗ル多額ニ上ルト雖此等ヲ除キ產量巨額ナル鯧油、鯨油等ハ單ニ惡臭ヲ有スル爲ニ其ノ應用ノ範圍著シク制限

セラレタルカ最近ニ至リ之ヲ硬化セシメ脱色脱臭セル油脂ニ變シ其ノ儘又ハ之ヲ分解シテ石鹼、ステアリン、グリセリン、人造バタ等ノ製造原料ニ使用セラル、ニ至レル結果需要ニ著シキ増加ヲ來セリ其ノ他塗料等ニ使用セラル、量亦尠ナカラス從ツテ斯ク有望ナル原料ノ出品カ著シク多數ヲ占ムルハ將來與羽ニ於テ本産業發展ノ可能ヲ示スモノニシテ大ニ慶スヘキコトナリト雖此發展ヲ期センニハ必ス先ツ其ノ原料ノ精選製造及精製ニ意ヲ用ヒ優良ノ製品ヲ市場ニ出スヲ緊要トス然ルニ本業者中産額比較的大ナル者ノ多クカ此點ヲ等閑ニ附スル傾向アルハ甚タ遺憾トスル所ナリ猶容器及包裝ノ意匠甚タ不良ナルモノアリ或ハ封緘不完全ニシテ油ノ漏出セルモノアリ陳列上體裁惡シキノミナラス漏出油ハ變敗シテ不快ノ臭氣ヲ發スルニ至レルモノアリ之レ出品者ノミナラス該縣當局者ノ不注意ニ歸スヘキモノ尠ナカラス須ク此等ノ點ニ就テ充分注意スルコトヲ要ス

松根乾餾業ニ於テ松根油ノ精製ハ決シテ等閑ニ附スヘキモノニアラスト雖既ニ較々充分ナル精製程度ニ達スルヲ得タルヲ以テ現下ノ重要ナル研究問題ハ副産物ノ利用ニアリ即チ木醋酸液及重油ノ處理之ナリ或ハ普通ノ如ク粗製醋酸鏡ノ製造可ナリ醋酸石灰亦可ナリ尙進ンテ木精、クレオソート、アセトン等ノ製造ニ就テ有利ナル應用ノ餘地アリ當業者ハ原料ノ製造ノミニ甘ンセス此等ノ點ニ注意スルコトヲ希望ス

終ニ頭髮用香油製造ニ就テ一言セント欲ス最近本邦化學工業ノ發達ニ伴ヒ化粧品業ノ發展ハ最モ著シク其ノ品質ノ如キ改良進歩頗ル急速ナルモノアリ左レハ與羽各縣同業者ハ今ニ於テ舊慣ヲ脱シ大ニ奮勵努力スルニアラスンハ他ニ壓倒セラレ發展ノ餘地ナキニ至ルヘシ

第六部

第四十八類 他ノ類ニ屬セサル輸出向製作品輸入防遏製作品

審査官 野 間 譽 雄
同 篠 崎 英 之 助

燐寸 山形縣出品ニシテ點數二、人員一ナリ其ノ考案ノ趣意ハ可ナルモ構造及意匠ニ於テ猶改良ノ餘地アリト認ム

蜂蠟 出品點數二、人員二ナリ甲ハ色澤良好塊片ノ邊緣較々透明ニシテ臭味ナク又夾雜物比較的小量ニシテ熔點攝氏六六度ナリ乙ハ色澤不良暗灰色ヲ呈シ又夾雜物多量ニシテ熔點六五度ナリ品質ニ於テ前者ノ優レルヲ認ム

繭 出品點數四、人員四ナリ内一品ノ容器ハ金屬製ニシテ他ハ總テ樽ヲ用フ一般ニ夾雜物即チ糟ノ除去甚タ不充分ナルト共ニ糟中ニ纖維、無機物等ノ外原料樹皮ノ其ノ儘保存スル量多シ從ツテ搗キ方モ亦一層ノ注意ヲ要スヘシ猶繭ハ水分ノ含量大ナルヲ以テ金屬製容器ハ酸化セラレ銹ヲ生シ質ヲ不純ニ

ナスノ虞アリ木製ヲ可トス

工業藥品 粗製沃度三、鹽化加里三、硫酸加里二、炭酸曹達一、搗布灰一ナリ粗製沃度ノ揮發殘渣ハ
 ○三「パーセント」以下ニシテ鹽素基ハ痕跡ヲ含ミ沃素ノ純度ハ中ニ九〇「パーセント」ニ達スルモノ
 アリ一般ニ品質良好ナリ鹽化加里ノ色ハ純白、白及淡赤褐ナリ其ノ純度ハ八〇「パーセント」以上ニシ
 テ何レモ石灰ヲ含ミ苦土ハ痕跡ナルモ硫酸基ハ八「パーセント」以上ニ達シ較々多キニ過ク精製ニ於テ
 猶一層ノ注意ヲ望ム硫酸加里ノ甲ハ色灰白粉末度充分ナラス水ニ不溶性物質比較的多量(砂等)多量
 ニ含ムニシテ遊離酸ヲ含ミ鐵「アルミニウム」含量普通ナリ鹽素基ハ一・四「パーセント」アリ乙ハ色暗
 褐粉末度充分ナラス水ニ不溶性物質ハ前者ヨリ遙カニ少ナク遊離酸ヲ含マス鐵ノ含量稍多ク鹽素基ハ
 四・六「パーセント」ヲ含メリ何レモ品質ハ良好ト稱スルヲ得ス搗布灰ハ質比較的輕クシテ堅硬ナラス
 浸出容易ナリ燒キ方較々良好ト稱シ得ヘシ

抑モ我沃度製造業ハ原料タル海藻類ノ產量豐富ナルノミナラス又加里沃度ニ富メルモノ尠ナカラサル
 ヲ以テ他ト異ナリ特殊ノ發達ヲ爲シ來リタルニ這回ノ歐洲戰亂ハ獨國ノ加里輸出ヲ杜絶スルニ至リ之
 カ自給策ノ爲沃度ノ副業トシテ加里業ノ興起ヲ見ルニ至レリ

故ニ此好期ヲ利用シテ斯業者ハ製法及精製法ニ就テ充分ナル研究ヲ行ヒ以テ堅實ナル加里工業ノ基礎
 ヲ確立シ平和克復ノ後ニ於テモ猶輸入ヲ防遏シ得ルニ至ランコトヲ希望ス

運送馬車用シート 原料ノ質ハ價格ニ比シテ良好ナリ製品ノ品質ハ普通ナリ猶塗面ノ一層磨擦ニ堪ヘ
 剝落ノ虞ナキ様塗料ノ改良ヲ計リ且仕上ニ於テ充分ニ注意シ優良品ノ製出ニ努ムヘシ

鞣革 品質良好ナラス原料皮ヲ精選シ仕上工程ニ於テ充分ノ練磨ヲ要ス

石鹼 品數一點、福島縣ノ出品ニ係レリ本石鹼分析ノ結果水分一九・六五「パーセント」不鹼化物質〇・
 六「パーセント」遊離「アルカリ」ヲ含マス化合「アルカリ」七・四三「パーセント」脂肪酸六五・五「パーセ
 ント」ナリ石鹼トシテノ品質ハ較々佳ナルモ使用上ニ於テ未タ充分ト稱スルヲ得ス原料ノ精選ニ猶一
 層ノ注意ヲ要ス而シテ原料ニ同地製絲業ノ副産物蠶油ヲ利製シテ使用スルヨリハ大ニ稱賛スヘシト雖
 モ若シ經濟上有利ナラハ單ニ之ヲ精製シテ使用スルヨリハ之ヲ硬化シテ用フル時ハ製品ノ性質ハ勿論
 絹練ニ使用ノ結果モ亦頗ル佳良ナルヘシ

薄荷 山形市渡邊正三郎ノ出品ニ係ルモノニシテ主トシテ北海道産ノ原料ヲ使用シ精製セルモノナリ
 由來本邦産薄荷油ハ一種ノ臭氣ト苦味ヲ有スルヲ以テ其ノ聲價歐洲品ニ及ハス我製造家ハ常ニ之ヲ憾
 トシ之カ改善ニ對シ大ニ苦心セリ出品人モ亦永ク化學的ニ研究スル所アリタルカ今回ノ出品ヲ檢スル
 ニ薄荷油ハ其ノ質無色透明ニシテ臭氣ナク又苦味至テ少ク品位著シク向上シ殆ント歐洲品ニ劣ラサル
 ノ程度ニ達セルヲ見ル是レ大ニ本邦産薄荷油ノ聲價ヲ高メタルモノニシテ寔ニ稱揚スヘキナリ又薄荷
 腦ハ油分及不純物ヲ含有スルコトナク其ノ結晶華麗輪出品トシテ最モ恰當シ薄荷玉ニ至リテハ其ノ製
 法ト云ヒ容器ノ改善ト云ヒ印度南洋方面ニ對スル嗜好ヲ究メタルモノニシテ今ヤ其ノ販路ノ益々擴張

セラル、ニ至リタル宜ナリト謂フヘシ
 染料 山形縣鶴岡町齋藤外市ノ出品ニシテ其ノ種類ニ酸性染料、鹽基性染料、硫化染料、顯色劑等十種アリ此等各種ニ付一々實地染色ニ依リ之ヲ検査セルニ酸性及鹽基性染料ハ色相ノ鮮明染着力ノ大ナルヲ以テ生命トスルニモ拘ラス色相暗濁然ラスンハ淺薄ナリ硫化染料ハ染着力不十分又顯色劑ハ不純ニシテ使用ニ困難ナリ即酸性染料中ノ黄色及橙色染料ヲ除キ他ハ尙研究ヲ要スルモノアリ然レトモ今ヤ獨逸染料ノ輸入甚タ困難ナル時ニ際シ而モ此邊陲ノ地ニ於テ如此製品ヲ見ルコトヲ得タルハ洵ニ稱揚スルニ足ル尙一層ノ研究ニ依リ品質ノ改善ヲ期センコトヲ切望ス

耐久屋根 本品ハ紙面ニ「アスファルト」ヲ塗り數枚ヲ重ネ中眞部へ綿絲ヲ縱横ニ入レ壓力ヲ加ヘ綿布ヲ以テ包ミ「アスファルト」及「コーバルワニス」ノ混合液ヲ以テ砂ヲ固着セシメ「セメント」ヲ塗り化粧砂ヲ散布セシモノナリ其ノ品質軟弱ニシテ破損シ易ク輸出品トシテ價値ナキノミナラス輸入防遏品トシテモ適當ナラス

終ニ蒞ミ本類出品ノ縣別等級別擬賞數ヲ掲クルコト左ノ如シ

縣名	出品				計	出品人員 ニ對スル 擬賞割合
	點數	人員	一等	二等		
宮城	1	1	1	1	4	1
縣名	點數	人員	一等	二等	計	出品人員 ニ對スル 擬賞割合
福	23	15	1	1	8	5.3
巖	1	1	1	1	4	5.0
青	1	1	1	1	4	5.0
秋	2	4	1	1	8	5.0
山	4	2	1	1	8	5.0
合	44	20	5	5	59	5.0

縣名	出品				計	出品人員 ニ對スル 擬賞割合
	點數	人員	一等	二等		
宮城	1	1	1	1	4	1
縣名	點數	人員 <td>一等</td> <td>二等</td> <td>計</td> <td>出品人員 ニ對スル 擬賞割合</td>	一等	二等	計	出品人員 ニ對スル 擬賞割合
福	23	15	1	1	8	5.3
巖	1	1	1	1	4	5.0
青	1	1	1	1	4	5.0
秋	2	4	1	1	8	5.0
山	4	2	1	1	8	5.0
合	44	20	5	5	59	5.0

第六部

第四十九類

諸工業用器具機械圖案度量衡器諸工業用器具機械

審査官 關口八重吉

諸工業用器具機械類ノ出品人員出品點數擬賞等級左ノ如シ

縣名	出品				計	出品人員 ニ對スル 擬賞割合
	點數	人員	一等	二等		
宮城	102	9	1	1	2	2.2
福	7	3	1	1	2	3.3
巖	7	1	1	1	2	3.3
青	2	1	1	1	2	2.0
森	27	1	1	1	2	13.3
合	113	14	5	5	19	5.9

縣名	出品數	人員	擬賞等級				計	出品人員 ニ對スル 擬賞割合
			一等	二等	三等	四等		
秋田	二	一	一	一	一	一	一〇〇〇	
山形	二二	一六	一	一	三	二	三〇〇〇	
合計	一四二	三二	一	一	五	四	三〇〇〇	

備考 出品人ニ對スル擬賞ノ割合ハ百分率ヲ以テ示ス

出品ヲ大別シテ木工機械、工作機械、唧筒、原動機製造機械及雜工用器具ノ六種トシ各種ノ主要ナルモノニ就キ之ヲ評論セン

木工機械

秋田木材株式會社出品ノ横式小割帶鋸機械ハ一般板類ヲ製材スル外背板ヨリ薄板ヲ作り得ルノ特點ヲ有シ又必要ニ應ジ機ヲ調整シ下見板ノ製作ニモ之ヲ應用スルコトヲ得本機ハ普通ノ自働「ロール」送圓鋸機ニ比シ鋸減リ少シ帶鋸ノ張力ハ槓杆並ニ荷重ニ依リ適當ニ加減シ得ルヲ以テ正確ニ工作ヲ行フ事ヲ得鋸車ハ「ボールベアリング」(球軸承)ヲ有シ極メテ輕快ニ運轉ス本機各要部ニハ皆目盛ヲ具ヘ本機ノ使用ニ際シ調整ヲ容易ナラシメ且工作モ亦良好ナリ

同社出品圓鋸自働目立機械ハ巧ニ適當ナル機構ヲ應用シ少時間ヲ以テ正確ニ鋸齒ヲ研磨スル目的ヲ達セシム上記二機ハ本類出品中最モ優良ナルモノト認ム然レトモ機械要部ノ鑄物ニ關シテハ尙一層ノ改良ヲ望ム

良ヲ望ム

工作機械

山形縣五百川作助出品鑽孔機ハ米國型ニシテ「テーブル」ノ直徑十六吋八分ノ一ヲ有シ錐軸ハ「ボールベアリング」(球軸承)ヲ附シ鑽孔ノ際推力ニ對スル摩擦抵抗ヲ輕減セリ本機ハ出品者カ注意シテ製作セシ爲其ノ外觀外國製ノモノニ類似シ且價格比較的廉ナリ然レトモ精密ノ度合要部ノ材料等ニ至リテハ尙一層ノ改良ヲ要ス

今注意スヘキ點ヲ舉クレハ「テーブル」表面ノ水平及「テーブル」昇降用螺子銼ノ誤差ヲ減少シ且錐軸送用齒銼ノ材料ヲ改良シ若ハ各部ノ雌螺子ニ炭素蒸シヲ施シ其ノ表面ノ硬度ヲ増スカ如キハ大ニ必要ナル事項ナリトス

凡テ工作機械ハ機械製作ノ基礎トナルヘキモノナレハ之カ製作ヲ開始スルコトハ斯業發展上最モ必要ナリ本共進會ニ於テ上記工作機械ノ出品ヲ見ルヲ得タルハ大ニ喜フヘキ事ナリ將來一層ノ努力ヲ望ム

唧筒

本出品ニハ消防用及揚水用ノ二種アリ消防用唧筒ハ非常ノ際之ヲ使用スルヲ以テ其ノ動作ノ確實ナルコトハ最モ必要ナル一條件ナリトス即チ各辦ノ摺合モ唧子並工作等ハ大ニ注意スヘキ點ナリトス

山形縣出品ノモノハ二個ノ水筒ヲ具備シ垂直單働式ノモノ多シ獨リ長谷川清太郎出品ノモノハ復働式

ナリ此ハ流水ヲシテ比較的ニ均一ナラシムルヲ得ルト一方ノ唧子ニ故障ヲ生スルモ各働程毎ニ送水シ得ルノ利アリ且水筒ノ上部ハ蓋ヲ以テ全部ヲ掩フ爲絶対ニ筒内ニ塵埃ノ進入スルコトヲ防キ唧子ト水筒トノ摺合セヲ損スル憂少シ本唧筒唧子ノ「バツキング」ニハ革ノ下部ニ彈條ヲ應用シ其ノ働ヲ確實ナラシム本品ノ製作ハ比較的ノ良ナリ

宮城縣鈴木庄太郎出品ノ唧筒ハ水平復働式ニシテ一個ノ水筒ヲ有シ齒車裝置ヲ以テ運轉ス齒車ノ傳働軸ニハ節動輪ヲ附シ以テ運轉ノ平滑ヲ圖レリ本唧筒ハ工作程度普通ナリ

出品ノ各唧筒ヲ見ルニ其ノ構造體裁並工作等ニ關シ注意セシ跡ヲ認ムルモ特ニ唧子ノ製作並ニ「バツキング」ニ關シテ尙一層深キ注意ヲ拂ハコムヲ切望ス本品牛唧子ノ鑄物粗ニシテ偏肉ヲ有スルモノアリ又ハ唧子ノ外面縦ノ方向ヲ數多細キ線ヲ示スモノアリ此ハ全ク摺合セノ不完全ニ基因スルモノナリトス

消防用唧筒ハ放水試驗吸水部ニ於ケル真空試驗及要部構造並ニ材料ノ検査等ニ分チテ審査セシカ大體ニ於テ可良ナル成績ヲ得タルハ喜フヘキコトナリトス

揚水唧筒ハ動力用及手働ノモノアリ前者ハ普通垂直式「ピストン」唧筒ナリ後者中「ウイングポンプ」一臺アリ凡テ本種出品ノ唧筒ハ價比較的廉ナレトモ工作充分ナラス特ニ摩擦部ハ一層精密ナル仕上ヲ要ス

原 動 機

宮城縣石澤市平出品十五馬力蒸氣機關ハ本類中唯一ノ原動機ニシテ大ニ出品者ノ努力ヲ多トス然トモ機關各部ノ釣合並工作上改良ヲ要スル點多々アリ例ヘハ曲柄軸ノ仕上「スライドバルブ」運動裝置ノ如キハ一層丁寧ナル工作ヲ施スヲ要ス且各部分ノ鑄物ノ改善ニ關シ一層深キ注意ヲ切望ス

製 造 用 機 械

本機種械中蒸氣機製菰機等ノ出品アリシモ工作不完全ニシテ充分機械ノ工程ヲ實現セシムルコト能ハサリシハ大ニ遺憾トスル所ナリ

山形縣山岸利兵衛出品ノ自働液體攪詰機及自働液體移容器ハ酒類ノ如キ液體ニ應用シ適當ナルモノアリ攪詰機ハ勞力ヲ省略シ得ルト液ヲシテ多ク空氣ニ觸レシメサルノ利アリ本機ハ試製ノモノニシテ各部製作上多少精密ヲ缺クノ嫌アリト雖製造者ニ於テ充分注意シ製作セハ實用ニ供スルヲ得ヘシ本機ハ足踏ニテ運轉スルモノナレハ小規模ノ醸造場ニハ適當ノモノナルヘシ自働液體移容器ハ構造簡單ニシテ其働確實ナルヲ以テ酒若ハ醬油等ノ樽詰ニハ極メテ便利ナルモノナリ

巖手縣渡邊德太郎出品ノ渡邊式木管ハ渡邊式木管製作機械ニ依リ製出セラレシモノニシテ實用ニ適ス其ノ製作法ハ極メテ簡單ナリ管ノ内徑モ可ナリ正確ニシテ大ナル誤差ナシ導水管トシテ適當ノモノナリ

福島縣山田彦三郎出品ノ眞鍮並亞鉛引金網ハ機械ニテ製織セラレシモノニシテ主トシテ鑛山用ノモノナリ網目整然トシテ狂ヒ少ク且堅牢ナリ

上記二品ハ機械ナラサルモ本類ニ屬スルモノトシ出品シタルモノナリ又共ニ製造用機械ノ產物ナルヲ以テ茲ニ之カ概評ヲ爲セリ

雜工用器具

本種出品ニハ鍛工工具刷毛竹割器下駄製作用及物等アリシカ特ニ見ルヘキモノカリシヲ遺憾トス

圖案

審査官 秋保安治

本邦製作工業品ノ一切ヲ通シテ常ニ起ル缺點ハ圖案意匠ノ拙劣ナルコト、其ノ工作材料ノ適宜宜シキヲ得サルコトノ二點ナリトス故ニ本邦ノ製作工業品ヲ進歩セシメント欲セハ必ス先ツ此等ニ要スル圖案ノ獎勵ト材料工作法ニ關スル學理ノ普及トニ力ヲ致ササルヘカラス此意味ニ於テ今回ノ共進會ニ製作工業圖案ノ出品ヲ見ルコトヲ喜フモノナリ然レトモ今回ノ出品ハ其ノ點數甚タ少ナク而モ優良ナルモノ亦比較的多カラサリシハ遺憾ナリ今出品ヲ精査スルニ全體ヲ通シテ近時世上ニ流布スル新樣式ニ刺戟セラレテ確タル目的ナキニ目先キノ變リタルモノヲ得ムコトヲ努メ其ノ結果工藝圖案本來ノ使命ヲ忘レ美術品ト工藝品トノ中間ニ位スルカ如キ實用的價值ナキモノ多キヲ觀タルハ戒メサルヘカラス

元來圖案ノ目的ハ同シク工藝的商品トシテノ方面ニ於テモ大凡二ツノ種類アリ一ハ或特定ノ需要者ヨリ注文ニ應ジテ作ルヘキ商品ノ圖案例令ハ特定建築物ノ一組ノ家具ニ於ケルカ如シ而シテ他ノ一ハ機械力其ノ他ノ方法ニ於テ多數生産ヲ爲スカ如キ商品ノ圖案ナリ前者ニ於テハ殆ント何等ノ拘束ナシト雖後者ニ於テハ生産費材料及構造等ニ關スル制限アリ或範圍内ニ於テ考案ヲ施ササルヘカラス而シテ共進會出品ノ圖案ノ如キハ經濟的商品ノ圖案ナラサルヘカラス而シテ此見地ヨリ今回ノ出品ヲ觀レハ多少機械的ニ多數製産ヲ爲スヘキ性質ノ品種ニ對スル圖案トシテハ餘リニ自在ニシテ之ヲ實地ノ工作ニ表ハサントスルニ於テハ徒ラニ加工ニ困難ヲ來シテ生産費ヲ高ムルカ如キモノアリ或ハ多數生産ヲ爲サントスルニ於テ其ノ使用ニ不便ナルカ如キモノモ少カラス拘束アル商品圖案トシテハ不適當ナル爲特定ノ注文ニ依リテ數個ヲ製作スル意味ヨリ頗ル面白キモノモ共進會出品トシテ稱揚シ得サルモノ多シ此等ハ充分ニ圖案家ニ於テ區別シ商品圖案ニ向ツテハ常ニ其ノ材料及加工ノ方法ニ於テ實用上經濟的價值ヲ失ハサル範圍ニ於テ考案ノ宜キヲ得セシムルニ努ムヘキナリ

圖案擬賞一覽表

縣名	出品點數	人員	擬賞等級				計	出品人員ニ對スル擬賞割合
			一等	二等	三等	四等		
秋田	一九	九	一	一	一	二	三三三	
山形	二一	七	一	一	一	一	一〇四三	
合計	四〇	一六	二	二	二	四	二五〇	

度量衡器

審査官 平賀佐十郎

度量衡器ノ出品人員ハ十三名ニシテ出品點數ハ百五十五點ナリ之ヲ細別スレハ量器七名衡器五名量衡器一名ニシテ點數ハ量器百四點衡器五十一點ナリ又其ノ器物ハ重ニ常用ニ供セラル、モノニシテ量器ニ在リテハ木製枡、鐵葉枲衡器ニ在リテハ臺秤、上皿天秤、上皿桿秤及桿秤等ナリ
今各縣別擬賞數ヲ示セハ左ノ如シ

縣名	出品					出品人員 ニ對スル 擬賞割合
	點數	人員	一等	二等	三等	
宮城	二二	二				六・六六
福島	六一	三				五・〇〇
青森	一一	二				一・〇〇
秋田	三一	一				五・〇〇
山形	一五	三				三・八三
計	一五五	一三	一	一	三	五

以下各縣ノ品評ヲ爲サム

宮城縣衡器中木製桿秤ハ支點重點ノ關係位置ノ適當ナラサルカ爲メ直點、盛出、盛止ノ目盛ノ位置惡シク目盛ノ盛方モ拙劣ニシテ感量モ今少シク銳敏ニスルノ必要アリ黑檀製及金屬製桿秤ハ其ノ構造作
用等ハ惡シカラサルモ感量不足ノ嫌アリ量器ハ構造工作共ニ普通ナリ

巖手縣 本縣ノ出品ハ量器ノミニシテ枡ノ把手ニ新規ノ考案ヲ施シタルモノアルモ實用上特ニ耐久ヲ
増シ使用上便利ナル價值アルモノト認ムル程ノモノニアラス然レトモ製作ハ念入ニシテ漆塗枡ノ如キ
ハ其ノ塗方佳良ナルモノアリ

青森縣 本縣ノ出品ハ量器ノミニシテ其ノ構造堅牢ニ漆塗ノ枡ハ其ノ塗方佳良ナリ

福島縣 衡器中臺秤及上皿桿秤ハ其ノ構造改良型ニシテ堅牢ニ其ノ作用モ良好ナリ桿秤ハ支點重點ノ
關係位置適當ニシテ目盛モ鮮明ニ其ノ作用モ亦優良ニシテ製作上種々ノ點ニ注意ヲ拂ヒタル様ナルモ
感シ少シク銳敏ニ過クル嫌アリ量器ハ別ニ新規ノ考案ヲ爲セシ所ナキモ其ノ構造及漆ノ塗方最モ優良
ナリ

秋田縣 衡器中金屬桿秤及臺秤ハ其ノ構造及作用等佳良ナルモ樫製桿秤ハ其ノ構造ノ設計ニシテ缺ク
ル所アルカ爲其ノ作用充分ナラス量器ハ構造工作總ヘテ普通ナリ

山形縣 衡器中木製桿秤ニハ支點重點ノ關係位置適當ナラサルモノアリ目盛ハ鮮明ニシテ作用モ亦佳

良ナルモノアリ量器ハ構造工作總ヘテ普通ナリ
以上ヲ概括シテ論評セハ衡器中臺秤上皿秤秤金屬製及黑檀製桿秤ハ其ノ構造作用等比較的佳良ニシテ
出品ノ最モ多數ナル桿製桿秤ニハ構造作用ノ充分ナラサルモノ多シ量器ハ其ノ工作及塗方ニ注意シテ
優良ナル出品ヲ爲セシモノアルモ概シテ其ノ構造ニ付批評スヘキモノナシ

意見

出品中大多數ヲ占ムル衡器ノ桿製桿秤ノ構造ニ於テ支點重點ノ關係位置カ適當ナラサルカ爲秤ノ直點
盛出盛止ノ位置甚タ惡シク又感量モ銳敏ニ過クルカ又ハ鈍キニ失スル等一方ニ偏シ中備ヲ得ルモノ少
ナキハ甚タ遺憾トスル所ナリ製作者ハ此ノ點ニ付大ニ研究ヲ要スルモノトス

第六部

第五十類 諸工業ノ經營及生産ニ關スル方法成績

審査官 秋 保 安 治

本類ノ出品ハ僅カニ秋保村立職工學校ノ一點ニシテ殆ント評隔ヲ加フルノ必要ナキカ如シ然レトモ一
村ノ力ヲ以テ徒弟學校規程ニ準スヘキ學校ヲ經營スルカ如キハ本邦ニ於テ其ノ例未タ多カラス、而モ
此等ノ計畫タル將來ニ於テ考究ヲ要スル問題ナレハ茲ニ同校出品ノ批評ニ代ヘテ一言セムニ工業教育

中本邦ニ於テ最モ困難ヲ感スルモノハ徒弟學校ニシテ殊ニ之ニ依リテ當該地方産業發達ノ一助タラシ
ムトスルノ時ニ於テ然リ元來徒弟學校ハ職工養成ノ機關ニシテ事業經營者ヲ作ルヲ目的トスルニア
ラス而モ其ノ職工養成機關ニシテ永久ニ存續スヘキ學校ナル組織ヲ起スニハ必スヤ永久ニ生徒ナカル
ヘカラス、然ルニ一村一町ノ状態ヨリ觀レハ或特別ナル地方ノ外ハ此條件ヲ充タス所極メテ少ナキヲ
感ス故ニ斯ル地方ニ此種機關ヲ設置セムトスル場合ニハ其ノ組織ニ就テ特別ノ考慮ヲ費ヤサ、ルヘカ
ラス

今出品書類ニ依リテ秋保村立職工學校ヲ觀レハ小學校ニ附役セラル、モノニシテ而モ尙二千圓ニ近キ
經常費ヲ支出スルカ故ニ若シモ組織ヲ經濟的ニシテ材料等ノ使用方法ヲ研究セハ一村ノ事業トシテハ
面白キ結果ヲ得ルナラン特ニ生徒父兄ノ職業別ヲ見レハ農業者ノ子弟ノミト稱シ得ルモノ、如ケレハ
農村ニ對スル副業教育ノ意味ニ於テ成果多カラム唯正則ノ教育ヲ受ケタル實業教師ノ一名モ之ナキハ
學校ノ中心ナキヲ思ハシムルモノナリ、實業教育ノ生命ハ實業教師ノ技量ニ存ス、新智識アル實業教
師ニ依スシテ地方事業ヲ開拓セムトセハ困難多クシテ得ル所少カルヘシ、秋保村ニ於ケル木地、挽物、
玩具等ニ何等ノ新生面ナキニ見ルモ明カニ此缺陷ヲ芟除スル必要ヲ認ムルニ足ル、希クハ地方當事者
ニ於テ百尺竿頭一步ヲ進メテ専門教師ヲ聘用スルノ工夫アルコトヲ斯ノ如ク中心人物ヲ迎ヘテ内容ノ
充實ヲ圖ラハ近時異常ノ發展ヲ爲シツ、アル木製玩具ノ產出等ノ上ニ一生面ヲ與フルコト今回出品ノ

巖手縣ノ夫レノ如クナルヲ得ム當事者ノ一顧ヲ望ム

擬賞一覽表

縣名	出品		擬賞等級				出品人員ニ對スル擬賞ノ割合
	點數	人員	一等	二等	三等	四等	
宮城	—	—					— ○ ○ ○
合計	—	—					— ○ ○ ○

第七部

第五十一類 酒類

審査官 善田 猶藏

九月二十八日ヨリ本品ノ審査ニ着手シ十月十日迄九日間ヲ以テ現品審査ヲ結了シ更ニ事業成績並生産高等ニ就キ十月十七日迄調査ヲ行ヘリ

現品審査用清酒ハ大正四年十二月二十五日付告示第二六三號並大正五年八月五日聯合縣協定ノ規定ニ基キ採取セシモノナリ即清酒ハ出品物採取ノ當時一容器中十石以上現存シ九月二十日ヨリ九月三十日迄ノ間ニ於テ所轄稅務官吏立會ノ上採取シ封印セルモノナリ而シテ審査ニ際シ之ヲ開封スル前逐一其

ノ封印ノ正否ニ付検査シ何レモ其ノ正當ナルヲ認メ審査ヲ行ヘリ蓋シ斯ノ如キ採取法ハ最モ精確ニシテ審査ノ公平ヲ維持スルニ必要ナルモノトス
現品審査ニ從事セシ審査員ハ左記三名ナリ

- 東京市京橋區東湊町 平野 徳太郎
- 埼玉縣大里郡熊谷町 加藤 安次郎
- 小樽區奥澤町 岡田 市松

出品點數ハ清酒六百九十二點葡萄酒四點味淋四點ブランドー二點果實酒三點合計七百五點ニシテ此人員四百六十六名ナリ左ニ各縣別出品表ヲ掲ク

縣名	出品點數				出品人員
	清酒	葡萄酒	味淋	ブランドー	
宮城	七〇				四三
福島	一六七				一三〇
青森	六四				四三
秋田	四三				三五
山形	一一八				七七
合計	二二〇	四	四	二	一三八
合計	六九二	四	四	二	四六六

清酒ノ現品審査ノ方法ハ從來ノ喇酒法ニ據リ特ニ專用ノ喇猪口ヲ以テ色澤、香氣、風味ノ三項ニ就キ調
査シ色澤二十點ノ香氣四十五點風味四十五點合計百點ヲ以テ滿點トセリ

審査ハ第一審第二審第三審ニ依リ逐次選擇ヲ行ヒシカ第一審ニ於テ已ニ微ニ冷香ヲ感スルモノアリシ
ハ洵ニ惜ムヘキコトナリトス第二審ニ廻附セシモノハ第一審ニ於テ比較的優良ナリシモノ及各審査員
ノ採點數ニ著シキ懸隔アリシモノヲ合シ二百八十六點ニシテ更ニ其ノ内ヨリ優秀ナルモノ六十二點ヲ
選拔シテ之ヲ第三審ニ廻附シタリ

審査ニ於テ色澤ハ合議ノ上第一審ノ際附點シ第二審ニ於テハ第一審ノ得點數ヲ準用シ第三審ニ於テハ
更ニ各ニ付色澤ヲモ比較對照シテ審査ノ公平ヲ期セリ

斯クシテ滿點ノ色澤ヲ有スルモノハ六十三點ニシテ清酒總點數六百九十二點ノ一割ニ滿タス此六十三
點中尙色相濃厚ニ過キ現時ヲ嗜好ニ適セサルモノ少カラス

抑モ清酒ノ色相ヲシテ濃厚ナラシム原因ニ種々アリ原料米ノ精白度製麴方法並麴米使用量、酸酵溫度
火入方法貯藏桶ノ選擇ノ手入方法等ハ其ノ主ナルモノトス此等ノ點ニ付一段ノ注意ヲ拂フニ至レハ大
ニ改良セラルヘシ又色相良好ナルモ光澤不充ナルモノアリ此等ハ醸造ノ不適順貯藏容器ノ不良ナル
ヨリ來ルモノナレハ此ノ缺點ヲ有スルモノハ此等ノ諸點ニ注意スルコトヲ要ス
今色澤ノ採點數ニ基キ各縣ノ順位ヲ示セハ次ノ如シ

順位	縣名	得點數	順位	縣名	得點數
一	山形	八〇三九	四	巖手	七〇五九
二	秋田	八〇二二	五	宮城	七〇四九
三	福島	七〇六六	六	青森	七〇一六

本表ニ依リ青森縣清酒ハ最モ色澤ニ改良ヲ要スルコトヲ知ル更ニ香味ニ付批評センカ出品清酒中ニハ
實ニ芳醇ニシテ先進銘釀地ノ清酒ヲ凌駕シ得ヘキ逸品アリト雖今全斑ヲ通シ改良ノ必要アル各種ノ缺
點ヲ摘記セハ次ノ如シ

先ツ缺點ノ最モ廣キ範圍ニ及ヒ居ルモノハ貯藏桶ノ手入及桶材ノ選擇ノ不完全ナル點ナリトス即手入
不良ナル結果一種ノ忌ムヘキ香氣ヲ帶フルモノ又ハ所謂漆器ヲ帶フルモノ並杉材ヨリ來ルヘキ香氣ノ
不充分ナルモノ等ナリトス桶材ハ多ク地杉ヲ用フルモ地杉ハ製作ニ困難ナルノミナラス酒液ノ滲透比
比較的容易ナルヲ以テ貯藏減モ多ク且貯藏中清酒ニ附與スル風味ニ於テ吉野杉ニ及ハサルカ如シ吉野
杉ハ購入價格ニ於テ約三割内外高價ナルヲ以テ酒價ヲ高ムルモ貯藏減ヲ少ナカラシムルコトニ依リテ
之ヲ償フコトヲ得ヘシ

次ニ清酒ニ澁味ヲ強ク感スルモノアリ此缺點ハ醸造中氣溫劇變ノ爲所謂冷込の經過ヲ取リタルモノ又
ハ土質寒冷ナルニ比シ仕込少量ナル爲酸酵緩慢ヲ來シタルカ又ハ搾揚ノ稍遅キニ失シタルニ由ル又

清酒ノ肉比較的薄キモノアリ之レ溶解不充分ナリシカ或ハ原料米ノ實質少キニ由ルモノナレハ醸造法ノ改良ト共ニ改善スルコトヲ要ス

今香味ノ探點數ノ縣別順位ヲ示セハ左ノ如シ

- 一 秋田縣 四 巖手縣
- 二 山形縣 五 宮城縣
- 三 福島縣 六 青森縣

次ニサリチル酸ノ有無ニ付第二審ニ廻附セシモノ二百八十六點ニ就キ検査ヲ行ヒシニ其ノ内八十三點ハ全然無防腐劑ノモノニシテ清酒貯藏上賀スヘキコトナリト雖其ノ大部分ハ仍ホ該防腐劑ヲ混入セリ同藥品使用ハ法令ノ禁止セサル所トハ云ヘ之ヲ使用セサル貯藏品ニ付攻究スルコトハ國民衛生上必要ナリトス

以上述ヘシ如ク現品審査ト共ニ各出品人ノ提出ニ係ル出品解説書並仙臺稅務監督局ヲ經テ各稅務署ヨリ得タル調査書トニ依リ造石高事業成績ヲ比較調査シ逐一慎重公平ナル審査ヲ遂ケタル結果優良者百四十二名ヲ得テ左表ノ如ク擬賞セリ

縣名	出品擬賞等級				出品人員ニ對スル擬賞ノ割合
	一等	二等	三等	四等	

縣名	一等	二等	三等	四等	計	出品人員ニ對スル擬賞ノ割合
宮城	1	2	4	9	15	34.9%
福島	1	1	3	6	11	26.2%
青森	1	1	3	7	12	30.2%
秋田	1	1	3	7	12	30.2%
山形	1	1	3	7	12	30.2%
合計	4	6	16	39	65	30.5%

今大正三酒造年度及大正四酒造年度ノ各出品者ノ造石數ノ平均高ヲ各縣別ニ示セハ左ノ如シ但シ大正四酒造年度ハ大正四年十月ヨリ大正五年六月迄ノ査定石數ヲ以テ計算セリ又全管平均ハ大正二酒造年度調査ニ係ル奥羽六縣ノ總製造場數九百九十四ヲ以テ總查石數四十萬八千四百四十八石ヲ除シ以テ一製造場平均石數トセリ

一 製造場當造石高

縣別	大正三年度	大正四年度	全管平均
宮城	791	825	669
巖手	629	703	418
福島	477	522	312
秋田	568	670	491

縣 別	大正三年度	大正四年度	全 管 平 均
青 山 平	八六四	八〇一	三八二
森 形	四六〇	五三三	四二一
均	五六六	六一七	四一〇

即今回ノ出品ハ全斑ヲ通シ製造高多額ナルモノニ多ク其ノ造石高ハ大正四年度ノ造石高カ大正三年度ニ比シ約一割ノ増加ヲ示セルハ喜フヘキ現象ナリトス

之ヲ要スルニ東北六縣ニ於テ釀造セラル、主ナル酒類ハ大正二酒造年度ニ於テ清酒四十萬八千四百四十八石焼酎一萬一千七百七十九石白酒千七百七十一石濁酒千二百二十七石味淋二百三十二石ニシテ此ノ外葡萄酒果實酒ヲ生産シ此等ノ生産總額實ニ千九百三十餘萬圓ニシテ之カ消費稅額八百五十有餘萬圓ナリトス

由來東北ハ釀造上幾多ノ天恵ヲ有スル所ナルカ今ヤ發展ノ氣運ヲ示シ今回ノ出品ヲ見ルニ其ノ品質ハ從來ノモノニ比シ著シク進步セル事實アリ寔ニ慶賀ニ堪エサル所ナリ更ニ一段ノ努力ヲ加ヘ將來ノ大成ヲ期セサルヘカス

味淋、葡萄酒、果實酒、ブランデー等ハ其ノ出品數少ナキヲ以テ僅ニ其ノ一端ヲ知ルニ止マルト雖今回出品ノ内ブランデー及葡萄酒ハ相當ノ品質ヲ有スルヲ以テ其ノ生産額ノ増加ト販路ノ擴大トニ意ヲ用

フルコトヲ望ム味淋及葡萄酒ハ尙原料ノ選擇釀造及貯藏上大ニ改良スヘキ所アルヲ要ス

第七部

第五十二類 醬 油

第五十三類 味 噌

審査官 榎野明二郎

東京市麴町區麴町六丁目

林 新次郎

醬油及味噌ノ審査ハ十月二日開始シ同月十八日結了セリ現品審査ニ從事シタル審査員ハ左ノ如シ
醬油味噌ノ出品區域ハ奥羽六縣ニ亘リ其出品點數及出品人員ハ醬油三百九十三點二百七十八人味噌ハ百三十九點百二十二名ナリ

醬油味噌ノ審査法ハ從來ノ如ク喇味法ニ依リ現品ニ暗號ヲ附シテ其ノ色澤、香氣、風味ノ三點ニ就テ審査ヲ行ヒ之カ採點ノ標準ハ醬油ニ於テハ色澤十點香氣三十點風味六十點合計百點ヲ以テ滿點トシ味噌ニ於テハ色澤三十點香氣三十點風味四十點合計百點ヲ以テ滿點トス而シテ第一審ニ於テ優秀ナル成績ヲ得タルモノニハ再審査ヲ行ヒ再審ニ於テ優秀ナルモノニハ更ニ三審ヲ行ヒタリ

次ニ出品者各自ノ造石高及事業成績ニ就テ精細ニ調査シ採點法ハ各百點ヲ以テ滿點トシ最低ヲ五十點

以上現品審査造石高事業成績ニ關シ慎重ナル調査ヲ遂ケ醬油ニ於テ七十四名味噌ニ於テ二十七名合計一名ノ優秀者ヲ選抜シテ擬賞セリ縣別出品點數人員及等級別擬賞數等ヲ表示スレハ下ノ如シ

醬油

縣名	出品		擬賞等級				計	出品人員ニ對スル擬賞ノ割合
	點數	人員	一等	二等	三等	四等		
宮城	五九	四〇	—	—	—	—	一七	四〇・二五
福島	一〇九	八六	—	—	—	—	一八	二〇・〇九
青森	四三	三二	—	—	—	—	四六	一・八七
秋田	二〇	一七	—	—	—	—	四	二・三五
山形	四八	三三	—	—	—	—	二九	二・七二
合計	三九三	二七八	三	八	一五	四八	七四	二・六六

味噌

縣名	出品		擬賞等級				計	出品人員ニ對スル擬賞ノ割合
	點數	人員	一等	二等	三等	四等		
宮城	三二	二九	—	—	—	—	四	二〇・〇六
福島	二九	二六	—	—	—	—	—	—
青森	—	—	—	—	—	—	—	—
秋田	二六	二五	—	—	—	—	—	—
山形	二九	二四	—	—	—	—	—	—
合計	一三九	一二二	—	二	四	二一	二七	二・二一

本表ニ依レハ醬油ニ於テハ福島縣ノ出品人員最多ク山形、宮城、秋田、巖手、青森ノ諸縣順次之ニ亞ク出品人員ニ對スル擬賞割合ハ秋田縣最多ク福島縣最少ナリ

味噌ニ於テハ宮城縣ノ出品人員最多ク福島、青森、山形、秋田ノ諸縣順次之ニ亞ク出品人員ニ對スル擬賞割合ハ秋田縣最多ク福島縣最少ナリ

醬油ハ古來東洋人ノ必須的嗜好調味料ニシテ人口ノ増殖ト嗜好ノ向上トニ依リテ年々其ノ産額ヲ増加シ其ノ品質モ亦近年著シク進歩セリ殊ニ近年醬油ニ關スル學術的研究進ミ醬油ノ成分カ漸次闡明セラレ、ニ從ヒ人生ニ有用缺ク可カラサル特種成分ヲ含有スルコトヲ立證セラレ調味料トシテ價值愈々増進スルニ至レリ

斯ノ如ク醬油ハ嗜好調味料トシテ適當ノモノニシテ海外へ輸出額モ年々増加セルカ其ノ原料タル大豆

ハ東洋ノ特産ナルヲ以テ輸出品トシテ頗ル有望ナル將來ヲ有シ眞ニ理想的嗜好調味料トシテ全世界ニ賞用セラル、ノ期モ亦遠キニ非サルヘシ

叙上ノ如ク醬油ハ東洋人ノ必須的嗜好調味料タルノミナラス又海外輸出品トシテ頗ル有望ノ將來ヲ有スモノナルニ拘ラス尙其ノ醸造操作ニ於テ徒ラニ舊慣ヲ墨守シ三百年來殆ト改良進步ノ蹟ヲ認ムルコト能ハサルモノ多ク品質ハ劣等ニシテ垂歩合ナク且熟成遲シ蓋シ其ノ國家經濟上ニ及ホス影響鮮少ニアラサルナク而シテ近年内地ニ於ケル生産過剩ノ結果醬油醸造業者ノ利潤ハ漸ク減退シツ、アルヲ以テ醬油界ニ於ケル現下ノ最大急務ハ品質ノ改善ト生産費ノ節減ナリトス此等ノ事情ニ依リ先年來醸造試驗所ニ於テ醬油醸造試驗ヲ開始シ傍ヲ醸造家ノ子弟ヲ教養シ又全國各地ノ稅務監督局ニ於テハ熱心ニ其ノ管内ニ於ケル當業者ノ指導啓發ニ努メタル結果當業者中ノ覺醒自奮スル者アリ改善ノ曙光漸ク現ハル、ニ至レルハ邦家産業ノ發展上洵ニ慶賀ニ堪ヘサルナリ

釀テ今回ノ出品物ニ就テ見ルニ其色澤香氣風味ニ於テ頗ル優良ナルモノ多ク全國各地ニ於ケル銘醸品ニ比シテ敢テ遜色ナキモノモ亦少カラサルヲ認ム然レトモ出品物中ニハ往々諸味ノ古キニ過クルモノアリ既ニ其ノ馥郁タル芳香ヲ失ヒ反ツテ一種ノ惡臭ヲ有シ且其ノ風味ニ於テモ既ニ劣變セルモノ多シ元來諸味ハ製麴其ノ他ノ醸造操作ニ於テ適當ナランカ仕込後一年内外ノモノハ香氣最モ良ク二年内外ノモノハ風味良ク三年諸味ニ至リテハ單ニ着色濃厚トナルノミニシテ香氣及風味ニ於テハ一年乃至二

年内外ノモノニ遠ク及ハサルモノナリ此ヲ以テ銘醸地ニ於テハ古來諸味合セラ爲シ例ヘハ一年諸味四石二年諸味三石三年諸味一石ノ如キ割合ヲ以テ諸味ノ配合ヲ爲シ以テ香氣風味及色澤ノ三點ヲ適當ニ補足ス即チ三年諸味ノ如キハ主トシテ着色ノ目的ヲ以テ使用スルモノトス

醸造技術ノ進步セサル時代ニ於テハ或程度迄諸味ノ古キヲ尙フト雖苟モ醸造技術ノ進步シタル今日ニ於テハ一般ニ二年内外ニ於テ其ノ風味ノ最良時期ニ達スルモノナルヲ以テ宜シク諸味熟成ノ程度ヲ檢査シ適當ノ時期ニ於テ搾汗スルコトニ注意スヘキナリ

尙攪拌不良ノ爲ニ惡臭ヲ有スルモノ火入過度ノ爲ニ色澤暗黒トナリ且火香ヲ生セシモノアリ諸味未熟ノ爲ニ徒ニ鹹味強クシテ甜味ニ乏シキモノ等モ亦少カラス當業者ハ宜シク此等ノ諸點ニ付講究シ益々品質ノ改善ニ努ム可キナリ

由來東北ノ地タル天惠ニ薄ク寒氣酷烈ニシテ醬油ノ醸造ニハ全然不適當ナルカ如シト雖苟モ醸造ノ原理ヲ會得シテ適當ナル方法ヲ用フルニ於テハ温暖ノ土地ニ比シテ著シク劣ルモノニ非サルコトハ實例ニ徴シテ明カナリ故ニ原料ニ富ミ土地廣ク勞銀ノ低廉ナル東北地方ハ醬油醸造ノ好適地タルヲ信セスンハアラス

古來醸造上ニ於テハ一麴、二權、三火入ト稱シ麴及權入ニ最モ重キヲ置キタリ然ルニ當業者ノ多クハ口ニ良麴ノ必要ヲ唱フルモ實行ノ之ニ伴フモノ少ク依然トシテ不良麴ヲ以テ仕込ヲ行フヲ以テ一層寒

氣ノ影響ヲ蒙ルモノナリ製麴ハ醬油醸造上ニ於ケル根本ニシテ製麴ノ際既ニ大豆小麦ノ大半ハ分解ヲ始メ且將來變化ヲ來スヘキ根原即チ麴菌ノ酵素ヲ生スルモノナルヲ以テ麴ノ良否ハ直ニ製品ノ良否ト熟成ノ遲速及垂歩合ニ影響シ延テ番水ノ良否ニモ關係スルモノナルヲ以テ土地ノ寒暖ヲ問ハス十分ノ注意ヲ拂ヒテ良麴ノ製出ニ努メサル可カラス

次ニ糧入ノ適否モ亦製品ノ良否及熟成ノ遲速ニ至大ノ影響ヲ及ホスモノナルヲ以テ桶ノ上部相互ノ間隙ハ必ス板張リトシ糧入ニ際シテハ常ニ強烈ナル突キ糧ヲ入ル、コトニ努メサル可カラス

最後ニ東北ノ如キ寒冷ノ土地ニ於テ最モ大切ナル要件ハ仕込倉ノ構造ニアリトス古來仕込倉ノ構造ニ就テ注意スルモノ少ナシト雖仕込倉ノ構造ノ如何ハ寒地ニ於ケル醸造ニ於テ特ニ至大ノ影響ヲ與フルモノナリ茲ニ其ノ構造ニ就テ略記スレハ倉ノ構造位置ヲシテ成ルヘク天然ノ溫度ヲ利用シ得ル如ク造ルモノニシテ倉ハ必ス東西ニ長ク建テ且横窓ハ必ス板戸又ハ硝子戸ヲ以テ完全ニ密閉シテ寒風ノ吹き込ム事ヲ防キ且屋根ノ南側ニ一間又ハ二間置キニ三四尺ノ硝子天窗ヲ設ケテ太陽ノ温熱ヲ倉内ニ透入セシムルヲ要ス又倉ト釜場ト隔離セル所ニ於テハ常ニ戸ヲ以テ倉ノ入口ヲ完全ニ閉塞シ又釜場ト密接セル倉ハ其ノ間ニ寒風ノ吹き込ムコトヲ防止スヘシ

要スルニ醬油醸造ノ要訣ハ麴糧入及仕入倉ノ三點ニアリ東北ノ如キ寒冷ノ土地ニ於テ醬油醸造業ノ發展ヲ圖ラント欲セハ特ニ此點ニ付充分研究スルノ要アルヘク苟モ此三點ニ對シ完全ナル注意ヲ拂ハハ

カ東北ニ於ケル醬油醸造業ハ頗ル多望ノ將來ヲ有スルモノト謂フヘシ

味噌ハ古來東洋人ノ嗜好調味の食品ニシテ其ノ需要多ク東北ノ如キ氣候寒冷ノ土地ニ於テ殊ニ必要缺ク可カラサル食品ナリトス且味噌ハ其ノ成分上ヨリ考フルモ頗ル養分ニ富ミ味噌ノ十七夕ハ牛乳一合ニ相當スル營養的價值ヲ有スルモノ、如シ從ツテ味噌ハ營養ト調味ノ二大特長ヲ有スル理想ノ調味の食品ナリトス加フルニ近來漸ク外人ノ嗜好ヲ喚起シ東洋ノ「チーズ」トシテ其ノ價值ヲ認ムルニ至リタルヲ以テ味噌ノ將來モ亦醬油ト共ニ頗ル有望ナレハ之カ品質ノ改善ト生産費ノ節減ヲ遂ケサルヘカラス

鹽テ今回ノ出品物ニ就テ審査スルニ其ノ香氣色澤風味ニ於テ優良ト認ムヘキモノ少ナク香氣及色澤ニ於テ特ニ改善ノ急務ナルヲ認ム

即チ香氣ニ於テハ酸臭煙臭漬物臭等各種ノ臭氣ヲ有スルモノ多ク又大豆ノ煮方不足ノ爲色澤不良ノモノ多ク米麴不良ノ爲鹹味強クシテ甘味少ナキモノモ亦少ナカラス

元來味噌ハ醬油ト異ナリ搾汁スルコトナク其ノ儘全部食用ニ供スルモノナルヲ以テ單ニ原料ノ調和圓熟ヲ來シ相當ノ甘味ヲ有スルニ至レハ使用ニ堪フルモノナリ從ツテ從來ノ醸造法ハ合理的ニシテ改良ノ餘地少ナキモノ、如シ然レトモ競争ノ結果近來仕込後僅ニ一、二ヶ月ニシテ市場ニ販賣シ其ノ香氣及風味ニ於テ未タ圓熟セサルモノ多シ故ニ味噌ノ速醸ニ關スル研究ハ目下ノ急務ナリトス速醸ニ關ス

ル改良ノ要點ハ酵母ノ應用及二、三割ノ大豆麴ヲ使用スルニアリ現ニ之カ應用ヲ試ミ好成绩ヲ擧ケツ
 、アルモノ少ナカラス次ニ味噌出品容器ハ樽曲物麴瀨戸物鉢力鐘等種々雜多ニシテ何等統一スル所
 ナク陳列品トシテ體裁ヲ損スルハ勿論味噌ノ品質ニモ影響スル所少ナカラサルヲ以テ之カ出品容器ニ
 就テハ尙一層ノ考慮ヲ要スヘク味噌ノ出品容器トシテハ樽ヲ以テ最モ適當ナリト信ス
 要スルニ今回出品ノ味噌醬油ハ其ノ製法及品質ニ於テ改善向上ノ蹟歴然タルハ國家ノ爲慶賀ノ至ナリ
 當業者ハ宜シク一層奮勵努力シテ醸造ニ關スル學理ヲ習得シ自己ノ經驗ト相俟テ完全ナル技術ヲ達成
 シ益々品質ノ改善ト生産費ノ節減トヲ圖ルト同時ニ之カ容器ヲ適當ナルモノト爲シ又其ノ販路ノ擴張
 ニ付銳意努力シ東北ヲシテ味噌醬油ノ銘醸地タラシムルコトヲ要ス

第七部

第五十四類 菓子、飴

審査官 伊 東 一 二

菓子、飴ノ出品ハ八百九十九點其ノ人員三百六十名ニシテ之ヲ明治四十一年福島縣主催奥羽聯合共進
 會出品ニ比スルトキハ六十九點人員八十八名ノ増加ヲ見ル而シテ羊羹類落雁類カステラ、煎餅及松
 風等ハ出品點數ノ過半ヲ占メ前回ニ比シテ原料ノ精選配合ニ注意シ製法ノ如キ一變シタルノ觀アリ就

中蔬菜果實類砂糖漬ノ如キハ出品點數極メテ少シト雖改良ノ跡頗ル顯著ナルヲ認ム又容器等ノ如キ改
 善ヲ圖ルモノ尠カラサルハ喜フヘシト雖或ハ徒ラニ技巧ヲ街フ奇癖ノ脱セサル觀アルモノナキニアラ
 ス或ハ原料ノ選擇配合ニ付或ハ容器及包被材料等ノ採擇ニ付當業者ノ注意ヲ要スヘキ點尠カラス尙改
 善ノ餘地アルヲ認ム審査ノ結果八十九名ヲ選拔シ左ノ如ク擬賞セリ

縣別	出品		擬賞等級				計	出品人員ニ對スル擬賞ノ割合
	點數	人員	一等	二等	三等	四等		
宮城	一四一	五八	—	—	—	—	一六	二七六
福島	一三一	六九	—	—	—	—	一三	一九〇
巖手	一一〇	三七	—	—	—	—	一〇	二七〇
青森	九八	三五	—	—	—	—	九	二五七
秋田	一四七	五九	—	—	—	—	一三	二二〇
山形	二六二	一〇二	—	—	—	—	一八	二七四
計	八九九	三六〇	二	一〇	一七	六〇	八九	二四七

今出品種類ノ主ナルモノニ就キ之カ批評ヲ試ミム

一羊羹類 此類ハ出品中最モ多數ヲ占メ就中山形、巖手、青森ノ三縣ハ殊ニ多キヲ見タリ山形、福島
 青森ノ三縣出品ハ原料ノ配合、製法共ニ佳良ノモノアリト雖概シテ著シキ改良ノ形跡ヲ認メ難シ即チ

從來東北各縣ニ産スル此種ノモノハ糖分ノ使用多キニ過キ表皮甚シク結晶シ風味濃厚齒牙ヲ刺戟スルモノ多カリシ今回ノ出品ニ微スルニ糖分ノ使用適當ナラス風味醇熟セス輕淡ニ過クルノ觀アリ且火度弱ク煉方足ラサルモノ多ク砂糖ト寒天ノ用量其ノ當ヲ得サルカ爲濕氣多ク固有ノ光澤ヲ失ヘルノミナラス開裝ニ際シ既ニ變質シ甚シキハ微害ヲ蒙レルモノ少カラサリシヲ憾ム羊羹ハ其ノ性質最モ貯藏ニ堪ヘ一種ノ光澤ヲ有シ風味較々重粘ナルヲ常ト爲スモノナルニ拘ラス旬日ナラスシテ微害ヲ蒙リ若ハ變質スルカ如キハ煉羊羹ノ本質ヲ失ヘルモノナルヲ以テ之カ製法ニ當リテハ宜シク原料ノ用量ニ注意シ較々火度ヲ強クシ且煉方ヲ充分ニ行ハンコトヲ望ム風味ノ如キ寧ロ淡泊ナランヨリ較々濃厚ナルヲ煉羊羹ノ本質ト謂ツ可シ

二果實、蔬菜、海藻類應用ノ羊羹類 此種類ノ出品ニシテ果實類ノ多ク應用セラレタルハ苹果、梅、葡萄、無花果、栗等ニシテ青森、巖手兩縣ニ於ケル苹果及山形縣出品ノ梅羊羹及秋田縣出品ニ係ル無花果羊羹ノ如キハ近時長足ノ進歩ヲ爲セルカ如シ就中苹果應用ノモノハ良好ノ香味ヲ有シ原料ノ調和能ク整ヒ製法巧ナルモノ少カラス又梅應用ノモノハ從前ノ如ク酸味強烈ノモノ極メテ少ナク之ヲ口ニシ甘酸宜シキヲ得爽快ノ感ヲ與フルニ至レルハ製法ノ苦心認ムヘシト雖往々製法粗雜ニシテ色澤不良透明ヲ缺キ且塵芥等ノ混在スルモノ少カラス宜シク注意スヘシ葡萄羊羹ハ巖手宮城南縣ノ出品多カリシト雖佳良ノ香味ヲ有スルモノ極メテ少ナク概シテ酸味多強ノ感アリ且原料ノ用量適當ナラス製法モ

亦充分ナラス製品軟ニ過クルノ感アリ之カ應用ニ關シテ尙研究ノ餘地多キヲ認ム無花果ヲ應用シタルモノハ其ノ出品極メテ少ナシト雖秋田縣出品ノ此種ニ屬スルモノニハ原料ノ配合宜シキヲ得香味佳良ニシテ製法巧ミナルモノアリ栗羊羹ハ其ノ出品多カリシト雖原料ノ調和宜シキヲ得タルモノ極メテ少ナク製法概シテ熟練ヲ缺キ栗ノ煮込充分ナラサルモノ多シ又胡桃ヲ應用セルモノアリシト雖其ノ用法適當ナラス濕氣多ク且胡桃ノ含有スル油ト砂糖ト調和セス之ヲ口ニシ不快ヲ感セシメタルモノ多シ海藻類應用ノ出品ハ青苔、昆布等ヲ配合セルモノニシテ青森、山形出品中二三ヲ除クノ外見ルヘキモノナシ此等ノ海藻類ハ乾燥シテ始メテ良好ノ香味ヲ發スルヲ常トスルモノナリ然ルニ之ヲ濕潤ナル羊羹ニ配合スルハ良好ナル香氣ヲ失ハシムルノミナラス其ノ製法ヲ過ルトキハ一種ノ藻臭ヲ覺ヘ却テ不快ノ香味ヲ感セシムルモノナリ厭フヘキ臭氣ヲ帶ハシメス佳良ナル海藻ノ香味ヲ保有セシムルハ製造者ノ多年ノ經驗ト熟練トニ期待スヘキ所ノモノナレハ出品點數ノ比較的多カリシニ拘ラス見ルヘキモノ少カリシハ故アリト謂フヘシ

三干菓子類 此種ニ屬スルモノハ時雨、豆銀糖、鹽釜、諸越及大小豆、麥、蕎麥等ヲ使用セル落雁類其ノ他寒水等ニシテ羊羹類ニ次キ多數ノ出品ヲ見タリ山形縣出品ノ時雨ノ松、巖手縣出品ノ豆銀糖ハ名稱異ナレトモ實質ニ於テハ大同小異ニシテ單ニ形狀輪廓ヲ異ニスルノミ山形縣出品ノ時雨松ハ原料ノ選擇其ノ製法共ニ著シキ改良ヲ認メサルモ巖手縣出品ノ豆銀糖ハ從前ノ如ク形狀ノ大ニ過クルモノ

極メテ少ナク之ヲ適當ノ大サニ改メ使用ニ便利ニシ且原料ヲ精選シ製法亦親切トナレルハ喜フヘシ尙望ムラクハ原料ノ着色ヲ避ケ粉末状態ヲ精細ナラシメハ之ヲ口ニシテ一層佳良ナルヲ覺ユルニ至ラン時雨松及豆銀糖共ニ砂糖多ク且乾燥不十分ニシテ濕氣ヲ吸收スルコト容易ナル爲佳良ノ風味ヲ失フコト多シ當業者ノ充分ナル注意ヲ望サルヲ得ス宮城縣出品ノ鹽釜ハ原料粗ニシテ純白ナラス暗色ヲ帶ヒ甚シキハ塵芥類ノ混在スルモノ少カラス原料ノ選擇ハ勿論製法ニ一層ノ注意ヲ要ス秋田、巖手、福島山形各縣ノ出品ニ係ル落雁類ハ概シテ形狀ノ改良著シキモノアルヲ認ム就中秋田縣出品ノ諸越落雁ハ前同ニ比シ形狀輪廓ノ改良、烙印ノ應用ニ頗ル見ルヘキ所アリ此等ノ點ハ著シク改良セラレタリト謂フヘシ然レトモ原料ノ選擇配合及製法ニ於テハ尙舊套ヲ脱セサルカ如シ寒氷其ノ他有平糖ノ類ハ製法ノ苦心見ルヘキモノアリト雖徒ラニ混合セル胡桃ノ量多キニ過キ或ハ色彩較々濃厚ニ過クルノ嫌アリ或ハ形狀適當ナラサルモノアリテ從來ニ比シ何等進歩ノ跡ナク慣習ヲ追ヘルニ過キサリナリ

四カステーラ、煎餅、松風類 此種ニ屬スルモノ、出品亦少カラス原料ノ種類配合製法等殆ント同一ナルニ拘ラス其ノ製品ノ優劣ニ著シキ徑庭アルハ全ク製造技術ノ熟否ニ依ルモノトスカステーラノ如キ從來此地方ニ於テ製出セラル、モノト異リ原料ノ配合製法風味等關西、九州地方ノ製法ニ酷似スルモノ多ク福島縣ノ出品ニハ原料ノ精選調和、火度共ニ良好ナルモノアリ他ハ概ネ原料ノ配合粗雜氣胞大ニ過キ或ハ何等人爲的着色ノ必要アラサルニ故ラニ着色セルモノアリ且一般缺點ト認ムヘキハ火度上

下均整ヲ缺キ火熱ノ透徹セサルニアリ就中上火足ラスシテ下火ノ強烈ニ過クルモノ多キヲ以テ注意アラシムコトヲ望ム

煎餅松風類ハ從前ノ如ク形狀過大ニシテ之カ使用ニ際シ苦ムカ如キモノヲ見サルハ喜フヘキ現象ナリト雖他地方ニ於テハ其ノ形狀ノ改良烙印ノ應用等ニヨリ著シキ變化ヲ來シツ、アルニ拘ラス出品ニ何等進歩ノ跡ヲ認メス火度不均整ニシテ製法幼稚ナル觀アルハ甚タ遺憾トスル所ナリ宮城、福島、山形各縣ノ出品ニ鑛泉應用ノモノアリシモ鑛泉過用ノ爲一種ノ臭味ヲ帶フルヲ以テ之カ使用配合ニ注意スルヲ要ス宮城縣出品ニ孫太郎蟲ヲ混合セルモノアリ此等ハ菓子材料トシテ使用スヘキモノニアラス奇ヲ街フモノト謂フ可シ此種ニ屬スルモノハ都鄙老幼ノ別ナク一般ノ使用ニ適シ且貯藏最モ久シキニ堪ヘ進ントテ海外輸出品ト爲シ得ヘキモノニ屬スルヲ以テ其ノ改良ハ頗ル緊切ナリ故ニ之カ原料ノ選擇配合形狀等ニ付充分ノ研究ヲ要ス

五餡製品及水餡類 翁餡ノ如キ餡ヲ基礎トセルモノ、出品少カラス殊ニ宮城、秋田兩縣ヨリ多數ノ出品ヲ見タリ此等ハ其ノ製法ニ著シキ改良ヲ認メサルモ原料ヲ精選シ適當ノ形狀ヲ有セシメ其ノ質透明ニシテ風味佳良ナルモノ多カリシハ喜フヘシ殊ニ色彩ヲ施セルモノハ從前ノ如ク甚シク濃厚ナラス淡彩鮮麗ナルモノアリ宮城縣出品特ニ勝レルモノアルヲ認メタリ然レトモ此等ノ製品ヲ開裝スルニ當リ包装材料ニ膠着セルモノ多シ之カ乾燥ヲ充分ナラシムルニ於テハ此等不快ノ感ヲ除クハ易々タル事ニ

屬ス宮城縣出品ノ晒よし飴ハ色純白且製法巧妙ニシテ風味佳良ナルモ惜ムラクハ水分ヲ吸收スルコト速カニシテ容易ニ溶解膠着シ使用ニ當リ困難ヲ覺ユルコト多キヲ以テ製造者ハ宜シク此缺點ヲ除クコトニ注意シ製法ヲ研究セムコトヲ望ム水飴ハ其ノ出品僅少ナリ品質ハ清澄不良ナルカ如キモ概ネ火度不充分ニシテ粘力少ナク氣胞多ク風味亦宜シカラス殊ニ實果類ヲ加味配合セルモノハ粘力乏シク且甚シキハ醱酵セルモノアリ宜シク較々火度ヲ強カラシメムコトヲ望ム又粘力ヲ保有セシメムカ爲ニ殊更ニ煉リタルモノアルヲ認メタリ慎ムヲ要ス

六掛菓子類 此種ノモノハ宮城、福島兩縣ノ出品ニ見ルヘキモノアリシモ概シテ千遍一律僅カニ製造技術ノ巧拙適否ヲ云々スヘキニ止マリ特ニ注意スヘキ出品ヲ見サリシハ遺憾ナリトス此種ニ屬スルモノハ煎餅ト等シク貯藏ニ堪ユルヲ以テ舊慣ヲ追ハス世ノ推移ニ從ヒ嗜好ノ變遷ニ伴ヒ原料ノ選擇色彩香味等ニ多少ノ着想ヲ施サハ尙改良ノ餘地アルト共ニ地方ニ依リテハ將來有望ナラント信ス

七砂糖漬類 出品點數多カラサルモ此種ニ屬スル出品ハ從前ニ比シ顯著ナル進步ヲ來セリ秋田縣路、無花果、砂糖漬山形縣出品ノ櫻桃砂糖漬ノ如キ他府縣ニ多ク見ルヘカラザルモノニ屬ス、青森縣出品ニ乾燥セル苹果ヲ巧ミニ用ヒタルモノアリ苦心ノ跡見ルヘキ所少カラス然レトモ秋田縣路砂糖漬ハ原料ノ纖維多ク且硬化セルモノ少カラサルヲ以テ之カ採收ノ時季ニ注意スルヲ要ス、又同縣出品ノ無花果砂糖漬ハ製法巧ナリ之レ苦心ノ結果ニ外ナラサルモ較々濕潤ニ過キ使用ニ便ナラサルノ嫌アルヲ以

テ今少シク外部ヲ乾燥セシメ内部ヲ濕潤ナラシムコトヲ望ム尙荒キ結晶糖ヲ殊更ニ散布スルカ如キハ避クルヲ可トス此種ノ缺點ハ山形縣出品ニ多カリシヲ以テ注意アラムコトヲ望ム

八饅頭、最中等ノ餡物類及生菓子類 饅頭類ノ餡物類ハ山形、秋田、福島ノ三縣ヨリ僅少ノ出品ヲ見タリ概シテ原料ノ調合其ノ他製法ニモ注意ヲ缺ケルノ觀アリ例セハ表皮厚ク均齊ヲ缺キ内部ニ混入シ最中等ニアリテハ餡ノ入方過不足アルノミナラス兩面ヨリ合スヘキ材料ニ大小不同アリ若ハ模様等ノ相違セル等些細ノ事ニ屬スルモ製造上注意ヲ怠レルモノ少カラス又餡ノ色澤不同且塵芥毛髮等ノ混入セルモノアルヲ認メタリ其ノ他生菓子ノ出品ハ殆ント山形縣出品ニ限ラレ原料ノ採擇調合製法ハ勿論色彩形狀等見ルヘキモノ少ナカラサリシト雖往々不適當ナル著色ヲ行ヒ形態ノ如キ徒ラニ冗贅ニ流レタルモノアリ又小豆或ハ粟等ヲ用ヒタルモノニアリテハ其ノ煮方充分ナラス或ハ硬ク或ハ形狀ノ壞裂セルモノアリ其ノ他色彩濃厚ニ過キ形狀過大ノ觀アル等注意ヲ要スヘキ點少カラス抑モ生菓子ハ其ノ性質短時日内ニ消費セラル、モノニシテ都會ニアリテハ其ノ需用範圍廣キヲ以テ之カ原料ノ種類着色材料色彩ノ濃淡等ニ留意シ製造ヲ親切ニシ清淨温雅ナラシメムコトヲ望ム

九餅製品 餅ヲ基礎トシ其實其ノ他ヲ加味應用セルモノハ各縣ヨリ多少ノ出品ヲ見タルモ何レモ其ノ製法粗雜風味好シカラス稱揚スヘキモノナキヲ憾ム

十包裝材料 今回各縣出品ノ羊羹類及飴製品類ニハ包裝材料トシテ經木或ハバラフキン紙ヲ用ヒタル

モノ多シ此等ハ内容物ニ膠着シ開裝ニ際シ剝離容易ナラス爲ニ幾多ノ煩勞ト不快ノ感ヲ起サシムルモノナリ又バラフキン紙ヲ以テ包裝シ之ヲ更ニ竹皮ヲ以テ包メル羊羹類ノ少カラサルヲ見ル之レ何ノ必要アルニ由ルヤヲ知ルニ苦ム此ノ如キモノハ概シテ剝離ニ困難ヲ來タシ或ハ液汁ヲ浸出セシメ其ノ甚シキハ變質シ若ハ微害ヲ招クノ因トナレルモノアルヲ認ム何レモ製法拙劣ニシテ包裝ノ不完全ナルヲ證スルモノナリ其ノ竹皮ノミ用タル物ト雖注意足ラサル爲内容物質ノ劣惡ナラサルニ拘ラス微害ヲ蒙レルモノ多キヲ認メタリ又飴製品ヲ包裝セル材料ニ見易キ色ヲ以テ名稱等ヲ印セルモノアリ此等ハ内容物ニ色素浸染シ外觀ヲ損スルコト少カラス尙卷取或ハ押出罐ヲ用ヒタルモノ、多クハ臘付堅固ニ過キ其ノ使用ノ目的ニ副ハス却ツテ開裝者ヲシテ不快ヲ覺ヘシムルモノ多カリシヲ以テ之カ材料ノ選擇ハ勿論其ノ使用方法ニ付深キ考慮ヲ要ス

今回ノ出品ニ徵スルニ各縣其ニ形態及色彩ニ於テハ前回ニ比シ著シキ進步改善ヲ爲セルモノ多カリシハ欣喜ニ堪ヘサル所ナリ就中秋田縣出品ノ落砂糖漬及諸越落雁山形縣出品ノのし梅類ハ從來ニ比シ長足ノ進步ヲ遂ケタリト謂ツ可シ然レトモ原料ノ選擇及使用方法等ニ就キ特ニ着想ヲ異ニセル形跡ヲ認メサルハ遺憾ナリ元來本邦ノ菓子類ノ製法ハ舊來ノ慣習ニ從フトキハ概シテ原料ノ種類及其使用方法ハ殆ント或範圍ニ限ラレ居ルカ如キ觀アリ然ルニ常ニ用フル原料ト雖使用方法ヲ異ニスルトキハ全ク別種ノ原料ヲ用ヒタルノ觀アルモノトス例セハ小麥粉ノ如キグルーテンノ含有量ニ依リ膨脹、硬軟ノ度

ニ差異ヲ生シ又豆ノ如キ熬リテ粉末ニ爲スト之ヲ壓搾シ或ハ粗粉ト爲シテ之ヲ熬リタル後粉末ト爲ストキトハ其ノ風味ヲ異ニス又栗ノ如キモ生ノ儘乾燥シテ粉末ニ爲スト蒸煮シテ乾燥シ之ヲ細末ト爲ストハ其ノ性質ヲ異ニシ從テ之ヲ原料トスル製品ニ差異アルヲ知ル果實ノ如キ之ヲジャムニ製シテ用フルトキト乾菓ト爲シ或ハ砂糖漬ト爲シテ使用スルトキトハ其ノ風味ニ全ク別種ノ觀アルモノ少カラス此ノ如ク各種ノ原料ハ單ニ使用方法ノ如何ニ依リ製品ニ影響スルコト大ナルモノナリ然ルニ今回出品ノ多數ハ僅ニ形狀色彩等ヲ少シク改メタルニ止マリ原料ノ使用法ニ及ハサルカ如シ秋田縣出品ノ翁糖、宮城縣出品ノ晒よし飴ノ如キ幾何ノ改善ヲ來セルヤヲ知ルニ苦シムモノナリ就中晒よし飴ハ細キ糸ノ如キ管狀ノ飴ヲ幾十トナク寄セ角狀ト爲シ二寸内外ニ切リタルモノニシテ形狀溫雅ニシテ製法ノ巧妙熟練ナルハ言フヲ俟タサルモ其ノ質濕氣ヲ吸收シ融解スルコト極メテ容易ニ且齒牙ニ附着スルコト甚シキ缺點ヲ有スルコトハ十年前ニ同シク毫モ改良ノ跡ナシ山形縣出品ノ時雨ノ松ノ如キモ亦從前ト同シク千遍一律ニシテ何等改良ヲ行ハサルハ遺憾ナリ時勢ハ進步シ嗜好ハ變轉セルニ拘ラス所謂慣習ヲ追フテ舊套ヲ脱セサルノ製品多キヲ認メタリ若シ當業者ニシテ使用原料ト製法ノ法式ニ拘泥セズ學理ノ指導ニ從ヒ嗜好ノ變遷推移ニ鑑ミ原料ノ性質ニ適應シタル製品ヲ試ムルニ於テハ新規ノモノヲ製出シ得ヘシ勿論製造技術ノ巧拙熟否ニ據ル所大ナルモノアルヘキハ言フ俟サルモ各種ノ果實、蔬菜、或ハ海藻類ノ如キ若ハ原料ヲ異ニセル澱粉ノ如キモノヲ煎餅類又ハ落雁類ノ如キ其ノ他各種ノ菓

子類ニ適當ニ應用スルノ方法ヲ考究スルニ於テハ相當ニ改良進步ノ途アリト信ス原料及配合ノ材料ヲ近キニ索メスシテ昆虫類或ハ不適當ナル魚介類ニ採リ空シク其ノ應用ニ苦心スルカ如キハ愚策ナラスヤ優良ナル各種ノ原料ハ東北各縣到ル處ニ豐富ナルヲ以テ適當ニ之ヲ使用シ徒ラニ他地方ノ製品ヲ模倣スルニ力メス各其ノ地方ノ特質ヲ有スル製品ヲ出サンコトニ留意シ改善ヲ期セラレンコトヲ望ム若シ當業者ニ於テ叙上ノ忌憚ナキ批評ヲ他山ノ石ト爲シ參考ノ一端ト爲スアラハ何ノ幸カ之ニ如カン

第七部

第五十五類 食用罐詰、罐詰、蜜詰、佃煮、漬物

審査官 熊谷 八十三
同 宮之原 健輔

罐詰、罐詰、蜜詰及佃煮漬物類ノ出品點數、人員及其ノ擬賞數ヲ表示スレハ左ノ如シ

縣名	出品點數	出品人員	擬賞等級					出品人員ニ對スル擬賞ノ割合
			一等	二等	三等	四等	計	
宮城	五三	二九						二・七六
福島	一八	一四						二・八六
岩手	二二	一五						二・〇〇
計								

縣名	出品點數	出品人員	擬賞等級					出品人員ニ對スル擬賞ノ割合
			一等	二等	三等	四等	計	
青森	二八	一八						一・六七
秋田	四三	二一						一・四三
山形	七九	三九						四・六二
合計	二四三	一三六						二・八七

本類ノ出品物中水産物ヲ原料トセルモノト農産物ヲ原料トセルモノトハ數ニ於テ相半スルヲ見ル水産物ヲ原料トセルモノハ宮城、秋田ニ多ク青森、福島、巖手之ニ次キ山形ニハ一點ノ出品ヲ見ス之ニ反シテ農産物ヲ原料トセルモノハ山形縣最モ多ク青森之ニ次キ岩手、秋田ハ其ノ次ニシテ宮城福島ハ僅ニ二三點ニ過キス今之ヲ表示スレハ左ノ如シ

第五十五類出品物各縣品類別表

農産物ヲ原料トセルモノ	宮城	福島	巖手	青森	秋田	山形	計
櫻桃シラップ漬							八
櫻桃甘露煮							四
櫻桃シヤム							六
桃シラップ漬							一
洋梨シラップ漬							一
杏シラップ漬							三
楓梓シラップ漬							四
計							一六

水産品ハ一年ヲ通シテ其ノ原料ヲ穫ルカ故ニ製造ノ技術ニ於テ大ニ進ミタルモノアルヲ見ル殊ニ輸出向ノモノニ於テハ其ノ原料ノ重量等ニ規定アルヲ以テ内容ノ品質ニ於テモ略ホ一定セルヲ見タリ然ルニ農産品ニ於テハ畜産品ヲ除イテハ其ノ原料ハ僅ニ或ル時期間ノ生産ニ限ラル、モノナルカ故ニ工場ノ設備モ水産品ノ場合ノ如クニ完全ナルコト能ハサルモノ多ク且製造ノ技術ニ於テモ缺クル所アリ則チ今回ノ出品中ニモ罐ノ膨脹セルモノ又ハ内容ニ微ヲ生シタルモノ等ハ農産品ノ方ニ多カリシヲ見ル加之罐詰工場ヲ成ルヘク連続的ニ使用セント欲スルカ故ニ一工場ニ於テ各種ノ原料ヲ以テ製造スルコトトナリ勢ヒ原料ノ種類ノ選擇宜シキヲ得サルコトアリ遂ニハ罐詰トシテ首肯スル能ハサルカ如キモノヲ製出スルニ至ル今回ノ出品中ニ於テ馬肉ノ罐詰ノ如キ又小指大ノ筍ノ水煮ノ如キ罐詰トシテノ價值何レニアリヤヲ疑ハシム

水産中鯉鮪鯨鮑等ノ罐詰ハ宮城縣ニ於テ優品ヲ見ル然レトモ中ニハ往々色澤不良ニシテ變味甚シキモノアリ鯉油漬ハ青森縣ヨリ僅ニ一點ヲ出シタルノミ而モ其ノ油ハ綿實油ヲ用ヒタルカ故ニ風味不良ニシテ到底用ニ堪ヘサルモノナリ由來鯉ノ油漬ハ價ノ廉ナルヲ尙フモノニアラス品位ノ良好ナルヲ要スルモノナリ印度及南洋ニ輸出スルモノニアリテモ落花生油ヲ用ヒテサヘ需要者無ク必スオリーブ油ヲ用ヒサルヘカラサル狀況ナリ徒ニ價ヲ低クセントシテ此ノ如キ粗惡ノ品ヲ製出スレハ思ハサルノ甚シキモノナリ

小魚類ノ佃煮ハ秋田縣ヨリ出品アリ其ノ煮詰ノ程度及醬油ノ良否ニ依リテ品質ニ差異ヲ生ス殊ニ節ヲ加フル等ノコトニ依リテ甚シク甘味ノ過クルモノアルハ厭フヘシ

魚介ノ粕漬類ハ宮城縣ノ出品多シ然ルニ多クハ體裁ヲ齊ヘンカ爲カ一旦漬ケタルモノヲ洗滌シテ上下ニ酒粕ヲ置キ其ノ間ニ之ヲ挾メリ之レ粕漬ノ眞風味ヲ失フモノニテ洵ニ愚策ト謂フヘシ

鯉ノ鹽辛ハ福島縣ヨリ十點ノ出品アリ其ノ色澤及肉質ニ於テ又鹽分ノ調和ニ於テ良否ヲ生スルモノナルカ故ニ此等ノ諸點ニ注意ヲ要ス鯛味噌ハ仙臺ノ一名物タリ其ノ風味ハ能ク一部人士ノ嗜好ニ適スルモノアリ然トモ中ニハ味噌ノ質良好ナラス其ノ稠度適當ナラサルモノアリ、農産物及畜産物ヲ原料トスルモノヲ見ルニ果實ノシラツブ漬ニハ櫻桃、桃、梨等ヲ原料トセルモノアリ櫻桃ノシラツブ漬ハ若シ之ヲ多量ニ製出スルコトヲ得ハ大ナル需要アル上海香港ニ販路ヲ求メ得ヘシ而シテ原料タル櫻桃ハ生食用トシテ輸送上ニ困難アリ且採收ノ際降雨ニ遇フ時ハ果皮破裂シテ到底其ノ儘之ヲ販賣スルコト能ハサルモノナリ故ニ櫻桃ノ加工ノ法ヲ講スル必要アルコト論ヲ俟ス今回ノ出品ヲ見ルニ果面ヲ針端ヲ以テ突クノ勞ヲ取ラサリシカ爲ニ果皮破裂シ若ハ果ノ皺縮セルアリ或ハ糖液稀薄ニシテ味不良ナルモノアリ今後尙大ニ改良ヲ要スル所多シ桃ニ至リテハ原料或ハ過熟シ或ハ熟期ニ達セサルモノアリ之レ亦一般ノ工風ヲ要ス櫻桃ノ甘露煮及ジャムハ果物ノ採收期ニ當リテ雨ノ爲ニ果皮ノ破裂シタルモノヲ利用スル方法トシテ適當ナリト認ム製品モ亦佳良ナルモノアリ唯節ヲ加フルコト多キニ過キタルモ

ノアリ厭フヘシ

漬物類中粕漬ハ山形縣ノ出品最モ多シ而シテ其ニ用ヒタル酒粕ハ甚タ良好ナルモ原料ノ可ナラサルモ
ノアリ越瓜ノ採收期ハ稍熟期ヲ過キタルカ爲ニ其ノ皮ハ固キニ失セル嫌アリ又徒ニ體裁ヲ整ヘシカ爲
一旨洗滌シ更ニ粕ノ間ニ挾ミ眞ノ風味ヲ失フニ至リタルモノアリ害アリテ利ナキ愚策ナリトス

第七部

第五十六類 飲食用畜産製造品

審査官 伊東 一二
同 熊谷 八十三

畜産製造品ノ種類ハ乳酪、煉乳、粉乳等ノ乳製品、牛脂及蜂蜜ニシテ其ノ出品點數僅ニ十六點、人員
十四人ナリ今種別點數ヲ舉レハ左ノ如シ

種別	宮城	福島	巖手	青森	秋田	山形	計
煉乳							
粉乳							
牛乳							
牛脂							
酪乳							
蜂蜜							
計							

蜂	蜜
合	計
一	一
七	七
二	一
二	一
四	一
一	六
九	

審査ノ結果三名選抜シ左ノ如ク擬賞セリ

縣名	出品				擬賞等級				出品人員ニ對スル擬賞ノ割合
	點數	人員	一等	二等	三等	四等	計		
宮城	七	七						一・四二	
福島									
巖手									
青森	二	二						五〇〇	
秋田	二	二						五〇〇	
山形	五	三						二・三〇	
合計	一六	一三						一・三〇	

一、乳酪 乳酪ノ出品ハ三點ナリ品質佳良ナルモノアリト雖製造ノ際攪拌ノ操作充分ナラス脂肪球ノ
凝固状態大小不同ニシテ含有水量多ク爲ニ甚シキハ不快ナル臭氣ヲ帶フルモノアリ或ハ食鹽ノ量多
ク若ハ着色シタルモノアリ尙改良ノ餘地アルモノトス

二、煉乳 煉乳ノ出品二點ナリ色澤不良風味宜シカラス且其ノ濃度均整ナラス宮城縣ノ出品ハ其ノ解

説ニ徴スルニ平鍋製ニシテ設備不完全ノ嫌アルニ拘ラス品質佳良製法巧ナリ濃度ノ状態ヨリ考察スルニ真空装置ニアラサレハ製出シ能ハサルモノナリ品質均齊優良ナル煉乳ヲ多量ニ製セント欲セハ精巧ナル機械ヲ完備シ相當ノ資金ヲ有スル工場ニ依ラサルヘカラス

三、結晶牛乳 結晶牛乳ハ山形縣出品ニシテ其ノ製法巧ニ品質良好ナルモ溶解ノ状態不良均整ナラス且其ノ色暗色ヲ帶フ之ヲ顯微鏡ニテ檢スルニ脂肪球以外ニ不溶解物質ノ混在ヲ認メ溶解液ヲ暫時放置スル時ハ下層ニ沈澱ヲ生ス臭素液ヲ用ヒテ檢スルニ澱粉ヲ呈スルヲ以テ澱粉ヲ混用セルモノト認ム故ニ尙改良ノ餘地アルモノナリ

四、牛脂 牛脂ハ青森縣ヨリ唯一點ノ出品アリ其ノ製法粗雜多少酸化シ臭氣ヲ帶ヒ風味佳良ナラス

五、蜂蜜 蜂蜜ハ福島ヨリ七點、秋田及山形ヨリ一點ノ出品ヲ見タリ二三良好ノモノヲ認メタルモ概シテ色澤ノ均整ヲ缺クノミナラス良好ナル風味ト芳香ヲ具備スルモノ少ク甚シキハ醱酵シ爲ニ變質セルモノ或ハ結晶セルモノ少カラス探蜜ノ時季ト之カ操作如何ハ蜜ノ品質ニ大ナル影響ヲ及ホスモノナリ又品質色澤ノ不同ニシテ統一セサルモノハ商品トシテノ價值少キヲ以テ品位ニ於テ多少劣ルトモ均整ナル物ヲ多量ニ産スルニ至ラス需要増加スヘシ

今回出品ノ畜産製品ハ其ノ數極メテ僅少ナリ東北ニ於ケル四十五萬歩牧場及原野ハ決シテ狹シトス牡牛三萬餘頭一縣平均僅ニ五千四百餘頭ニシテ之ヲ全國一縣平均一萬九千六百餘頭ニ比スル時ハ約半數

ニ過キス又以テ斯業ノ寂寥トシテ他府縣聯合共進會ニ於ケル如ク出品點數ノ多カラサリシ所以ヲ知ルヘシ將來興羽ニ起ルヘキ事業多々アルヘク斯業ノ如キハ蓋シ其ノ一トシテ盛大ナラシメンコトヲ切望ス

第七部

第五十七類 食用粉麵類

審査官 伊 東 一 二

本類ニ屬スルモノハ麵類九十點澱粉四十四點落雁粉浮粉白玉粉等ノ所謂菓子種ニ屬スルモノ三十點麥及大小豆類及蕎麥粉類三十點麩十點湯波一點合計二百五點其ノ出品人百四十三名トス審査ノ結果三十名ヲ選拔シ左ノ如ク擬賞セリ

縣別	出品		擬賞等級				出品人員ニ對スル擬賞ノ割合
	人員	點數	一等	二等	三等	四等	
宮城	二四	一五					三、三三
福島	二九	二五					二、四〇
青森	三九	三〇					二、三三
秋田	六五	四三					一、八六
山形	四八	三〇	二	一			三、三三
合計	二〇五	一四三	七	二	一	二	二、五一

備考 巖手縣ハ此類ニ屬スル出品ナシ

各縣出品ノ各種類ニ對シ左ニ之レカ批評ヲ試シム

一、麵類 此種類ニ屬スルモノハ素麵温麵及乾蕎麥ニシテ就中温麵最モ多ク六十九點アリ之ニ素麵十六點乾蕎麥五點ヲ合シ計九十點ナリ温麵ハ福島、青森、秋田、山形ノ各縣ノ出品ニ係リ悉ク機械製ニシテ其ノ製法巧ニ麵線ノ均齊良好ナルモノ多シ就中山形、秋田兩縣ノ平麵ノ如キハ原料佳良ニシテ麵線薄截切均整ニシテ一種ノ光澤ヲ有スルヲ見ル然レトモ往々原料ノ煉捏充分ナラサルモノ若ハ食鹽ノ使用量過多ナルモノアリ前者ハ麵線龜裂シ或ハ切截鮮カナラス後者ハ濕氣ヲ吸收シ麵線屈曲シ且色澤暗色ヲ帶フルモノ多キヲ認ム素麵類ハ手延製ト機械製ノ二者アリテ手延製ノ出品多シ此等ハ麵線細小ニシテ一見頗ル佳良ノ觀アルモ概シテ使用ノ脂油良好ナラサルノミナラス其ノ用量過多ナリ或ハ食鹽ノ用量適當ナラサルノ觀アルモノ少カラス故ニ一種ノ臭氣ヲ有スルモノアリ或ハ麵線ニ大小アリ且波狀ヲ呈シ彎曲セルモノアルヲ以テ慎マサルヘカラス之ニ反シ機械製品ハ多少麵線大ナルヤノ觀アルモ均齊ニシテ色純潔光澤ヲ有シ風味佳良ナルモノ少カラサルヲ認ム然レトモ概シテ麵線龜裂折損シ易シ此缺點ハ原料ヲ精選シ製造ニ當リ煉捏ヲ充分ニシテ食鹽ノ用量ニ注意シ含有グルーテンノ分布ヲシテ均齊ナラシムルニ於テハ之ヲ除去スルコト至難ニアラサルヘシ要スルニ麵類ノ製法ハ各縣共ニ著シク進步シ之ヲ前回ニ比スルトキハ其ノ差大ナルヲ覺ユ抑モ麵類ノ製法ニ油脂ヲ使用スルハ麵線ノ伸長

ヲシテ容易ニ且良好ナラシムル爲ニシテ食鹽ハ原料ヲ煉捏スルニ際シ含有グルーテンノ分布ヲシテ齊整ナラシムルニ於テハ之ヲ除去スルコト至難ニアラサルヘシ要スルニ麵類ノ製法ハ各縣共ニ著シク進步シ之ヲ前回ニ比スルトキハ其ノ差大ナルヲ覺ユ抑モ麵類ノ製法ニ油脂ヲ使用スルハ麵線ノ伸長ヲシテ容易ニ且良好ナラシムル爲メニシテ食鹽ハ原料ヲ煉捏スルニ際シ含有グルーテンヲ多少可溶性ト爲シ分布ヲ均整ナラシメ原料ノ連續性ヲ維持セシムル爲ニ使用スルモノトス故ニ製法ノ巧拙ニ依リ使用スヘキ脂油ト食鹽ノ量ニ自ラ差異ヲ生ス而シテ其ノ適量ハ食鹽ハ百分中二乃至三脂油ノ量ハ百分中二、五ヲ以テ適度トシ其ノ麵線ノ極メテ細ナルモノト雖脂油百分中七ヲ超過スル必要ナシ然ルニ手延製ノ多數ハ過剰ノ食鹽及脂油ヲ使用スルカ故ニ乾燥不充分ニシテ温氣ヲ吸收シ易ク爲ニ貯藏ニ堪ヘス且脂油ノ性類ニ從ヒ不快ノ臭氣ヲ有スルモノアリ當業者ハ須ラク此點ニ考慮セムコトヲ望ム麵類ニ鶏卵ヲ加用シ或ハ着色セルモノアリ此等ハ從來其ノ着色濃厚ニ過クルノ觀アリシモ今同ノ出品ヲ見ルニ何レモ淡彩ヲ施シ鶏卵麵ノ如キハ特ニ人爲的ノ着色ヲ行ハサルニ至レルハ洵ニ喜フヘク稱揚スヘキ事トス宮城縣及秋田縣出品ノ素麵ハ他縣ニ比シ著シク優良ノ出品多カリシヲ認ム唯宮城縣ノ出品ハ食鹽ノ用量少シク過多ノ觀アリ

乾蕎麥ハ福島、秋田、青森ノ三縣ヨリ出品セリ概シテ小麥粉ノ加用過多ナルモノ多ク蕎麥ノ風味之シキヲ憾ム然レトモ其ノ製法ハ從來ニ比シ麵線均整色澤乾燥共ニ宜シク大ニ改良セラレタルヲ認ム秋田

縣出品ニハ從來屢々良好ノ風味ヲ有スルモノヲ實見セシニ今回ノ出品ニ之ヲ見ルコト能ハサリシヲ遺憾トス

二澱粉類 馬鈴薯、葛、山慈姑、蕨等ヲ原料トシテ製出セラレタルモノニシテ出品點數四十四點ナリ青森縣ハ馬鈴薯澱粉、秋田縣ハ山慈姑、葛蕨山形縣ハ蕨、澱粉ノ出品多キヲ見ル青森縣產ノ馬鈴薯澱粉ハ品質色澤佳良ニシテ純潔ナル製品少カラス然レトモ往々暗色ヲ帶ヒ色澤鮮カナラサルモノアリ之レ主トシテ原料ノ不良ナルニ依ルモノナルヲ以テ原料ノ選擇ニ注意スルコトヲ要ス又品質良好ナルニ拘ラス塵埃泥砂等ノ混入スルモノアリ此等ハ單ニ製造中ノ注意足ラサルニ由ルモノナルモ其ノ品位ヲ損スルコト大ナルモノナレハ留意スルコトヲ要ス

蕨澱粉ノ出品ハ殆ト秋田、山形兩縣ニ限ラレタリ從前ハ濃色ヲ呈シ泥砂塵埃ノ混在多カリシカ今回ノ出品ハ何レモ色澤佳良他物ノ混在極メテ少ナク其ノ製法ノ注意苦心ノ跡著シキヲ認ム就中秋田、山形兩縣出品ノ二三ハ色澤極メテ良好粘力強ク品質優良ナリ然レトモ唯品質ノ均齊ナラサルハ遺憾ナリ山慈姑及葛根澱粉ノ如キ從來ニ比スルトキハ其ノ製法一變シタルノ觀アリテ各縣共ニ良好ノモノ少カラス宮城縣出品ノ葛根及秋田縣出品山慈姑澱粉ノ如キハ殊ニ品質佳良ニシテ色澤純良固有ノ光澤ヲ有ス若シ乾燥ヲ充分ナラシムルニ於テハ一層其ノ品位ヲ高ムルコト疑ハス

澱粉ノ多量ヲ要スルモノハ織物、抄紙、化粧用等ニシテ品質食用及菜用ニ比シ多少劣ル品アルモ其ノ

使用量ハ莫大ニシテ此等事業ノ發達ニ伴ヒ品質均整ナルモノ、需用ハ年々増加シ供給不足ノ盛況ヲ呈スルニ至リ殊ニ馬鈴薯澱粉ハ絹織用トシテ重要ノ地位ヲ占ムルモノトス由來東北ノ氣候ハ優良ナル馬鈴薯ノ生産ニ適シ其ノ産額少カラサルヲ以テ適當ナル機械其ノ他ノ設備ヲ應用シ製造法ニ改良ヲ加フルニ於テハ均一ナル品質ヲ有スルモノヲ多量ニ製産シ得ルト同時ニ生産費ヲ減シ需要ヲ増加シ得ヘシ其ノ他山野ニ自産スル葛、蕨其他山慈姑ノ如キハ食用トシ殊ニ製菓原料トシテ優品ニ屬スルヲ以テ之カ製造ニ一層注意スルニ於テハ其ノ品質ヲ改善スルコト難事ニアラサルヘシ且東北地方ノ如ク冬期農閑ノ時期ハ此等原料タル植物ノ澱粉含量ノ最モ多量ナル時季ナルヲ以テ澱粉製造ハ農家ノ副業トシテ最モ適當ナルヘシ故ニ益々斯業ヲ盛大ナラシムルト同時ニ品質均齊ニシテ製品ノ價格ヲ一層低廉ナラシムルニ努力アランコトヲ望ム

三粉類 粉類ハ小麥、大小豆、諸越等ノ微塵粉、上南粉、白玉粉及其他ノ菓子原料並蕎麥粉等ニシテ其ノ出品點數ハ四十三點ナリ山形縣出品ノ小麥粉及青大豆粉ハ極メテ良好ナリト認メタリ就中小麥粉ハ色澤純良ニシテ遙ニ他ノ各縣製品ニ優ル逸品トス之レ其ノ製造設備ノ他ニ卓越スル結果ニ外ナラス此ノ外福島、秋田、青森ヨリ多少ノ出品アリシモ色澤暗色ヲ帶ヒ且皮糠等ヲ存シ製法粗雜ノ觀アリ本邦ニ於ケル製粉業ハ規模大ニシテ完全ナル設備ト豐富ナル資本ヲ有スル製造所ノ設立ニ依リ近來大ニ發達シ製産額ノ如キ著シキ増加ヲ來シ從來製粉ノ輸入莫大ナリシモ數年來漸次減退スルト同時ニ小麥

ノ輸入ハ却テ年々増加スルニ至レリ之レ製粉業ノ發達ニ伴ヒ需要モ益々増加セルニ本邦ニ於ケル小麥ノ産額ノ増加之ニ隨伴セス且我小麥中ニハ製粉ニ適セサル種類アルトニヨリ如斯現象ヲ呈スルモノト見ルヲ得ヘシ東北ノ土ハ小麥栽培ニ適スルヲ以テ製粉ニ適スル種類ノ改良ト收量ノ増加ニ努ムカ六縣ニ於ケル麥栽培面積十二萬五千町歩ノ地ヨリ産スル收量モ少カラサルヘク之ニ依リテ品質ノ優良均齊ナル製品ノ多量ヲ出シ得ヘシ故ニ健全ナル斯業ノ發達ヲ圖ランニハ設備ノ完全ヲ期スルト同時ニ原料ノ改良ト供給ヲ豊カナラシムル方法ヲ講スルコト最モ肝要ナリト信ス

大豆粉ハ山形縣出品ニ小豆粉及諸越粉ハ秋田縣ニ上南粉及微塵粉等ハ福島、宮城兩縣ノ出品ニ品質色澤共ニ可良ノモノアリシト雖概シテ粉狀粗ク且往々砂塵等ノ混在スルモノアリ品質ノ均齊ナラサルハ最モ遺憾トスル所ナリ蕎麥粉ハ福島、秋田兩縣ノ出品ニ色澤純良ニシテ品質佳良ナルモノ少ナカラズ大豆青粉ニ人爲的着色セルモノヲ認メタリ此等ハ原料固有ノ色澤ヲ利用スルヲ主眼トスヘキナリ
 四蒟蒻粉 蒟蒻粉ノ出品ハ福島縣ニ限ラレ其ノ點數十七點何レモ從來ニ比シ製法改良セラレタルノ觀アルモノ二點ヲ除ケハ概ネ色澤暗色ヲ帶ヒ光澤ナク恰モ病害ヲ蒙レル原料ヲ使用シタルカ如キモノ砂カラス其ノ他粉粒不同粗雜ニシテ他物ノ混在スルモノアリテ品質ノ統一ヲ缺クハ遺憾ナリトス某合資會社ノ一二出品ハ良好ニシテ色澤均調光輝アリ原料ノ選擇ハ勿論製法ニモ亦周到ノ注意ヲ拂ヒタルモノト認メタリ蒟蒻粉ハ近來工業ノ發達ニ從ヒ工業用原料ニ供セラル、量少カラス逐年増加シツ、アル

ヲ以テ品質均齊ナル良好ノモノヲ多量ニ製産セムコトヲ望ム

五 麩 麩ノ出品ハ山形縣ノミニシテ僅ニ十點ナリ原料ノ選擇可良色澤純良ニシテ製法巧ナルモノ多シ然レトモ車麩及疊燒麩ノ如キ火力ヲ以テ燒キタルモノハ火度均一ナラサルヲ認ム夫レ麩ノ性質タルヤ水ニテ煮ルトキハ膨脹セス堅硬彈力ナキ灰色ノモノトナリ比較的低温ヲ以テ乾燥スル時ハ質脆弱トナリ恰モゼラチン或ハ膠ノ如キモノトナリ容易ニ粉末ト爲シ得ルナリ若シ攝氏ノ百度乃至百二十五度内外ノ溫度ヲ以テ熱スルトキハ柔軟トナリ且膨脹シ其乾燥スルニ至リ容易ニ崩壊シ得ル状態トナルモノナリ然ルニ更ニ攝氏百七十五度乃至二百二十五度内外ニ於テ熱スルトキハ膨脹シテ球狀ヲ呈シ幾片ニモ分裂シ外部ニ生スル薄キ皮膜ヲ破リテ膨脹スルモノナリ故ニ麩ノ有スル此等性質ヲ應用スルコトニ注意シ原料ヲ精選シテ製造スルニ於テハ氣胞ノ大小整否風味等充分ニ改良シ得ル餘地アルモノト信ス
 六 湯波 湯波ハ山形縣ヨリ出品アリ製法親切ニシテ色澤均整優良ナリ京都産ニ比シ毫モ劣ル所ナシ唯出品點數極メテ僅少ニシテ一般ヲ知ルコト能ハサルヲ遺憾ナリトス

第七部

第五十八類 飲食品製造用器具機械

此類ニ屬スル出品ハ福島、秋田、山形ノ三縣ニシテ出品點數二十三點其ノ人員十名ナリ而シテ各飲食物製造用ニ供スル種類ヲ包含スルヲ以テ大ナルモノハ工業的機械トシテ見ルヘク其ノ小ナルモノニハ長サ一尺ニ滿サル手工的ノ落雁製造用型アリ此ノ如ク點數少ナリシモ其ノ用途各異ナルヲ以テ之カ審査ニ當リテハ各部ノ當該審査官ノ參與ヲ求メ構造及其ノ的トスル用途ニ對スル適否等ニ就キ其ノ長短ヲ精査シタル結果左ノ如ク擬賞セリ

縣名	出品				擬賞等級				出品人員ニ對スル擬賞割合
	點數	人員	一等	二等	三等	四等	計		
宮城	1	1						100	
福島	1	1						100	
青森								500	
秋田	8	2						285	
山形	4	7						285	
合計	23	10						400	

左ニ重ナル種類ニ付之カ概評ヲ試ミム

一、國分式平麥、製粉兩用機 本器ハ福島縣出品ニ係リ其ノ構造簡單ニシテ使用ニ便利ナリ從來散見

スル此種類ノモノニ比シ改良セラレタリト認ムヘキハ壓搾用轉軸部ニ彈機ヲ置キ之ヲ螺子ノ尖端ニテ壓シ以テ轉軸ヲ前後ニ進退セシメ此ノ間隙ヲ任意ニ調整シ得ルノ點トス能ク其ノ目的ニ適シ家庭用器具トシテ便宜ナルモノニテ價格モ亦廉ナリ

二、味噌製造機豆麥麴切碎機 本機ハ山形縣出品ニ屬ス本機ハ實用ノ廣キモノニテ山形縣下ニ於テハ到ル所之ヲ見サルナキノ狀況ニアリ然レトモ味噌製造ニ當リ原料ヲ混和シ若ハ麴ヲ切碎スル主要部タル轉軸部ニ截刻シアル溝ハ轉子ノ軸部ニ直角ニ刻ミアリ之ヲ其ノ斜メニ刻メルモノニ比シ作用部分ノ面積狭小ナリ從テ原料ノ混和充分ナラス豫シメ豆、麴及食鹽ヲ能ク混和シ置カラサレハ意ノ如ク混合シ能ハサルノ缺點アリ且之ヲ用ヒテ麴ヲ切碎セントスルニ當リテハ轉軸ニ設アル溝ト凸起部合スル所ノ銳利ナラサル爲之ヲ切碎セス却テ之ヲ壓搾スルヲ目撃セリ此ノ如ク尙改良ノ餘地アルト相ニ此等ノ缺點ヲ改良スルニ於テハ有利至便ノ機械ト謂フヘシ

三、牛乳消毒器 山形縣出品ニシテ大小二點アリ其ノ用途ハ同一ナリ製造堅固親切ナルモ蒸熱ノ度及其ノ量ヲ調節シ能ハサルト其ノ裝置ニ付適當ノ考慮ヲ缺クカ故ニ蒸汽ヲ均齊ニ噴出セシムト能ハス從テ牛乳ノ受クル熱度齊一ナラス爲ニ均一ナル消毒ヲ行フコト能ハス其ノ時間モ差異ヲ生スルノ虞アリ且牛乳及容器ヲ消毒函中ニ搬入搬出スルニ際シ之ヲ支持スルノ裝置ハ其ノ重量ニ堪ユルコト能ハサルノ觀アリ故ニ蒸熱ノ高低ヲ調節シ得ルト同時ニ蒸汽ヲシテ上下左右ヨリ均齊ニ噴出セシム如

ク改造シ殺菌材料ヲ一方ヨリ搬入シ他方ニ搬出シ得ヘクシ尙此等ノ重量物ヲ支フル部分ヲ堅固ニ改造スルヲ可トス

四、菓子型 秋田、山形、兩縣ヨリ八點ノ出品アリ山形縣ノモノハ彫刻精細ヲ極ム模様ノ如キ陳腐ナルノ觀アルモ其ノ枝工頗ル巧ミナルヲ認メタリ然レトモ菓子型トシテ巧緻ニ過クルノ觀アリ尙材料ノ選擇ト之レカ乾燥ニ注意サセル結果使用ニ適當セサルモノアルヲ認メタリ秋田縣出品ハ材料ノ選擇適當ニシテ模様亦可ナリト雖彫刻ニ尙少シク注意ヲ要スル所アリ要スルニ此等ノ菓子型ハ其ノ材料ヲ充分ニ乾燥シ又木理ノ狀態ニ注意シ模様ノ如キ緻密ナランヨリハ寧ロ粗ニシテ巧且雅致アルモノト爲スコトヲ望ム

五、煎餅型 秋田縣出品五點アリ製法ニ注意セル所アルモ彫刻模様等普通ニシテ合セ目密接セサルノ缺點アリ唯一點彫刻ノ模様製作共ニ可良ニシテ價格モ亦廉ナルモノヲ認メタリ

六、以上ノ外清酒火當器、寄物料理器、精米麥機ノ出品アリシモ特ニ注意スルニ足ルモノナク能ク理論ト實際トニ適合セリト首肯スルモノ少ナカリシヲ憾ム

大正六年三月十三日印刷
大正六年三月十五日發行

農商務省商工局

東京市京橋區鈴木町二番地

印刷人 石丸鶴吉

東京市京橋區鈴木町二番地

印刷所 東亞印刷株式會社

電話京橋(長)二二二五

326
218

終